

★2021年4月「舞台芸術領域」新設、  
美術・デザイン両領域改組、  
2学部2学科5領域38コースへ！

★2021年度後援会定期総会開催決定！  
5月23日(日)10:00AM、  
西キャンパスB棟2階大講義室。

# Challenge to the future BORDERLESS

## 名古屋芸術大学後援会報



## 後援会創立50周年記念特別号

Vol.70 2021.3.31

- 【特集1】後援会保護者会員 Webアンケート結果報告
- 【特集2】2019-2021改革と挑戦の2年間検証と総括
- 【特集3】就活最前線 学生支援チームからの緊急報告

50th.  
Anniversary

疫病退散



kouenkai@nua.ac.jp



# CONTENTS

|    |                                      |    |  |
|----|--------------------------------------|----|--|
| 1  | 目次                                   | 47 | 2020年度 ブライトン大学賞  |
| 2  | 後援会創立50周年記念特別号の発行によせて                | 48 | 国際交流事業について   |
| 3  | 卒業生に贈る言葉 後援会長<br>Congratulations 学 長 | 49 | 後援会補助公開講座実施報告  |
| 5  | 【特集 1】後援会保護者会員 Web アンケート             | 51 | 親の想い   |
| 11 | 【特集 2】2019-2021<br>改革と挑戦の2年間—検証と総括—  | 52 | 子の想い   |
| 17 | 【特集 3】学生支援チームからの緊急報告                 | 53 | 音楽領域 第48回卒業演奏会<br>大学院音楽研究科 第23回修了演奏会<br>デザイン領域 第48回卒業制作展 |
| 19 | 〔就活最前線〕私が就職内定をもらうまで                  | 54 | 大学院美術研究科 第25回修了制作展<br>大学院デザイン研究科 修了制作展                   |
| 21 | 第1回名古屋芸術大学後援会賞                       | 55 | 在学生及び卒業生の<br>展覧会・各種コンクール等受賞結果                            |
| 22 | 後援会に感謝状 開学50周年記念事業<br>後援会へのお誘い       | 56 | (新)2021年度 大学運営の組織図                                       |
| 23 | 名古屋芸術大学近況報告                          | 57 | 名古屋芸術大学後援会会則・規程・内規                                       |
| 45 | 学務部報告                                | 58 | せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集   |
| 46 | (新)大学へのお問合せ先一覧                       | 59 | 編集後記   |

## 「後援会報」新表紙デザインコンペ結果発表

名古屋芸術大学後援会「後援会報」新表紙  
デザインコンペ選考委員会副委員長 酒井伊紀

名古屋芸術大学後援会では後援会創立50周年記念事業の一環として、機関誌「後援会報」新表紙デザイン募集のコンペを開催いたしました。応募作品多数の中から厳正なる審査の結果、次の通り決定したので発表します。

〔審査結果〕

・グランプリ 該当作品なし

・佳作 5名

- 劉 思好 大学院デザイン研究科ヴィジュアルデザイン研究1年生
- 道下 凧沙 芸術学部芸術学科デザイン領域テキスタイルデザインコース4年生
- 辻 南々子 芸術学部芸術学科美術領域日本画コース3年生
- 高島 優香 芸術学部芸術学科デザイン領域ヴィジュアルデザインコース2年生
- 光本 有沙 芸術学部芸術学科デザイン領域ヴィジュアルデザインコース1年生

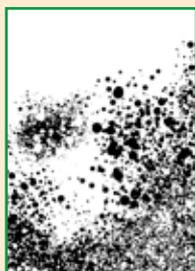


喜びの受賞者のみなさん

3月22日(月)午前11時より、西キャンパスY棟2階大会議室において表彰式を挙行し、菊井政右衛門会長から受賞者全員に表彰状と副賞を贈呈するとともに、これを記念して作品を本誌表紙に掲載することとしました。



劉 思好さん



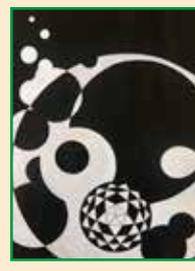
道下凧沙さん



辻南々子さん



高島優香さん



光本有沙さん

## 後援会 未来への挑戦

### 後援会創立 50 周年記念特別号(第 70 号)の発行によせて

2020 年、名古屋芸術大学後援会は創立 50 周年を迎えました。

ひと口に「50 年(半世紀)」と言ってしまうえば簡単ですが、昭和から平成、令和へと目まぐるしく変化した時代の中で、数々の困難を乗り越えながら、歴代の先輩たちのご尽力により後援会は今日まで存続し活動を継続してこれてきました。

1986 年(昭和 61 年)にタブロイド版の新聞形式で創刊された機関誌「後援会報」も、本号で通算 70 号を数えることになりました。

デザインも編集方針も一新し、フルカラーで生まれ変わった「後援会報」2020 年度前期号(第 69 号)後援会創立 50 周年記念特別号には、各方面から大きな反響が寄せられました。

大学の書庫に眠っていた「後援会報」のバックナンバーが綴じられたファイルは後援会に移管され、今は事務局のロッカーに大切に保存されています。

歴代の「後援会報」を手にとると、当時の先輩方の後援会活動にかけた想いやご苦労が偲ばれ、胸が熱くなります。

後援会創成期の「会報」を見ると、ある年度は役員の数が多すぎてとても 1 ページでは収まり切らなかったでしょう。折り畳んだ別刷りの役員名簿が「会報」のページの間に挟み込まれていました。数えてみたら、会長以下役員総勢 67 人でした。隔世の感を禁じ得ません。

ページを繰ると、時代を感じさせるイラストが載っていたり、美術展や演奏コンクールで受賞した学生たちが何十人も紹介されていたりと、とにかく当時の学生たちのヤル気の凄さと広報委員の頑張りぶりには圧倒されるものがあります。

時代が変わっても、みんな青春の 4 年間を、名古屋芸術大学という限られた時間と空間の中で、北名古屋市(平成 18 年〔2006 年〕の合併までは西春日井郡西春日町と師勝町と呼ばれていました)の学び舎と街中でさまざまな喜びや挫折を経験し、友情を育み、研鑽に励み、若々しい情熱で芸術に命を燃やした青春がありました。

そしてそこには学生と大学のサポーターとしての保護者組織 = 後援会の存在があり、やがてそれらは歴史と伝統になり、脈々と現在にまで受け継がれ発展してきたのでした。

東西両キャンパスには鉄筋コンクリート造の立派な講義棟や研究棟が建ち並び、練習室からコンサートホール、美術・デザインのアトリエ(工房)が、そして学食も洒落たカフェまであります。こんな恵まれた教育・研究環境をいま学生たちは当たり前のように享受しています。しかしそれらはみな先輩方が膨大な時間とエネルギーを費やして作り出し、半世紀にわたって受け継ぎ、守り、発展させてきた歴史と伝統に他なりません。

「歴史」とは人間社会が経て来た流動・変遷の姿、その記録です。そして「伝統」とは受け伝えてきた有形無形の風習・しきたり・傾向・様式、特に精神面での継承を意味します。

今回われわれは新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出下にあっ  
て、後援会創立 50 周年記念行事(記念式典・祝賀会他)が全て中止に追い込まれた中で、  
唯一残された記念事業となった「後援会報」特別号(前期第 69 号、後期第 70 号)の編集  
発行を総力を挙げて完遂するとともに、名古屋芸術大学開学 50 周年記念事業のひと  
つである東キャンパス交流テラス(『TERA』)の完成に大きく貢献し、50 年の節目を迎  
えた後援会と大学の歴史と伝統に新たな 1 ページを書き加えることができました。

まだ誰も見たことのないこれから更に 50 年先、100 年先の名古屋芸術大学の発展  
のために、後援会は未来への挑戦を続けます。

名古屋芸術大学後援会創立 50 周年記念事業実行委員会委員長

名古屋芸術大学後援会会長 菊井 政右衛門

# 卒業生に贈る言葉



後援会会長

菊井 政右衛門

全世界で猛威をふるう新型コロナウイルスの逆風に抗し、不退転の決意をもって挙行された2020年度名古屋芸術大学学位記・修了証書授与式にあたり、後援会を代表してご挨拶を申し上げます。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。大学院修了者の皆様、修了おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

皆様はこの名古屋芸術大学で芸術（音楽・美術・デザイン・芸術教養）及び教育（人間発達）それぞれの分野で研鑽に励み、確固たる人間の成長を勝ち取られました。

私はこれら皆様の努力とその成果に敬意を表するとともに、前途洋々たる未来にエールを送ります。

そしてこの一年、常に新型コロナウイルスとの戦いの陣頭に立ち、全力でご指導ご支援くださいました川村大介理事長、竹本義明学長はじめ恩師の先生方、並びに全ての教職員の皆様、保護者の皆様方に、心から御礼を申し上げます。

今まさに学窓を巣立ち、新しい時代を生きよう

とする皆様の行く手には、希望だけでなく沢山の試練が待ち受けているに違いありません。

しかし皆様はこの試練をチャンスに転化し、名古屋芸術大学で学び培った〈ガイジュツの力〉を武器に、未来に向かって果敢に挑戦してください。

芸術、教育・研究、技術、行政、産業界など、社会のあらゆる分野に皆様が活躍するステージが広がっています。

これからの長い人生、恩師・友人たちと共に過ごした名古屋芸術大学での青春の4年間（院生は6年間）の思い出と、名古屋芸術大学卒業生の矜持を胸に、しっかりと前を見据えて進んでください。

いかなる困難があろうとも志を高く持ち、決意を固め、全力を尽くすなら、必ず目標は達成できます。

名古屋芸術大学後援会はこれからもずっと、頑張る皆様を応援します。

最後に皆様の素晴らしい人生の門出に乾杯し、ご健闘を心よりお祈り申し上げ、名古屋芸術大学後援会からの饒（はなむけ）の言葉といたします。

# Congratulations

## 学 長 竹本 義明



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の中で、昨年に引き続き感染防止策を講じての卒業式になりましたが、卒業後の社会状況が例年に比べ大変厳しい状況にあり、就職活動に大きな影響を受けられたことでしょう。

さて、一般的に芸術や教育の世界は進学しても希望通りの職種について生計を立てることが厳しいと想像する人は少なくありません。その中で新たなデータが出されました。

「文部科学省令和2年度学校基本調査報告書」を資料とした大衆新聞187号で「大学における芸術系分野卒業者の就職内訳」が明らかにされています。

就職者の3人に1人が芸術関連の専門職に就いています。芸術系学生の全卒業生数15,658人のうち、就職者（含む自営業主等）

は10,102人であり、その中で本来的な志向である音楽家・美術家・写真家・デザイナー・舞台芸術家となったのは3,644人（36.1%）、教員は503人（5.0%）で合計すると4,147人（41.1%）に達しています。

実に4割の人が芸術・美術、教育に関連した就職を果たし、情報処理、通信技術、建築等を含めると5,780人（57.2%）となっています。

一般大学全体で同様の見方をすると、専門的・技術的職業従事者は173,604人（38.9%）で、在学中に磨いた専門性で就職を果たす割合は、芸術系分野の卒業生のほうが18.3ポイント高くなっています。

あらためて大学で学んだことを、自らの将来の夢を実現する力と捉え、希望を持って活躍されることを願っています。

## 【特集 1】 後援会保護者会員 Web アンケートの実施について

名古屋芸術大学後援会  
会長 菊井 政右衛門

拝啓 後援会保護者会員の皆様方におかれましては益々  
ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご  
高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、名古屋芸術大学では 2020 年 4 月、新型コロナ  
ウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発出を受  
け、キャンパスには入構規制が敷かれ、入学式をはじめ  
各種行事は軒並み中止、部活も自粛、前期授業は基本オ  
ンラインで実施される中、夏季休暇を挟み、9 月 18 日  
から後期授業が開始されました。

後期授業の開始に先立ち文部科学省は 9 月 15 日、高  
等教育局長通達をもって、全国の大学に対し、2020 年  
度後期授業の実施に当たっては「学生の学修機会の確保」  
と「新型コロナウイルス感染症拡大防止」を両立させな  
がら対面授業を実施するよう強く要請しました。

名古屋芸大ではこの文科省局長通達を待つことなく、  
既に夏季休暇前の前期後半から段階的にキャンパス入構  
規制を緩和しつつ対面授業を導入し、いわゆる「ハイブ

リッド方式」(オンライン授業+対面授業の組み合わせ)  
の授業を基本として後期開始に臨んでいます。

そこで後援会では会則第 3 条 2 項に定めるところに  
より、大学の早期正常化を支援するため、2020 年度前  
期授業の経験を総括し、9 月からの後期授業開始の実際  
をも踏まえながら、会員の皆様方のご要望やご質問を大  
学に伝えることを目的とした保護者アンケートを Web  
サイトを通じて実施いたします。

下記 URL または QR コードよりアンケートフォームに  
アクセスいただき、各設問にご回答ください。回答は無  
記名でも構いませんが、回答必須項目は選択しないと次  
のページに進めないためご注意ください。ご協力のほど、  
何卒よろしくお願い申し上げます。(2020 年 9 月 30 日)

敬具

アンケートフォーム

URL : <https://forms.gle/9qCxiWNWXGsWtsfCA>

回答期限：2020 年 10 月 31 日

### ■ 後援会保護者会員 WEB アンケートの集計結果について

【集計・グラフ作成】

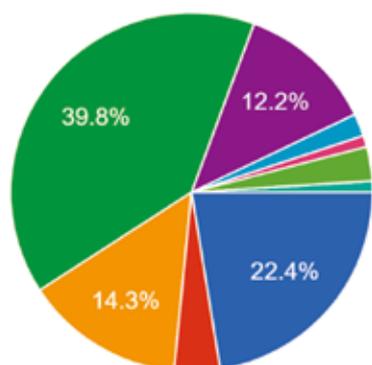
広報委員長 酒井 伊紀  
副委員長 江上友加里  
事務局長 高倉 唯

【集計結果分析・解説文】

会長 菊井 政右衛門

#### お子様の所属学部・領域

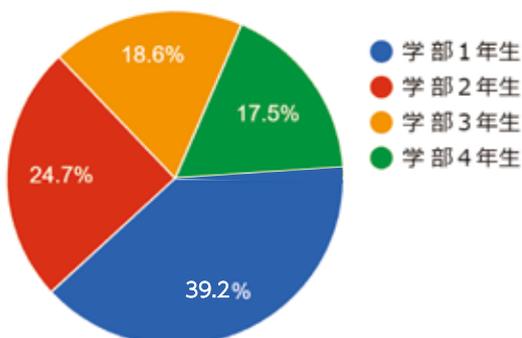
98 件の回答



- 芸術学部 音楽領域
- 芸術学部 芸術教養領域
- 芸術学部 美術領域
- 芸術学部 デザイン領域
- 人間発達学部 子ども発達学科
- 音楽学部
- 美術学部
- デザイン学部
- 音楽研究科
- 美術研究科
- デザイン研究科
- 人間発達研究科

#### お子様の学年

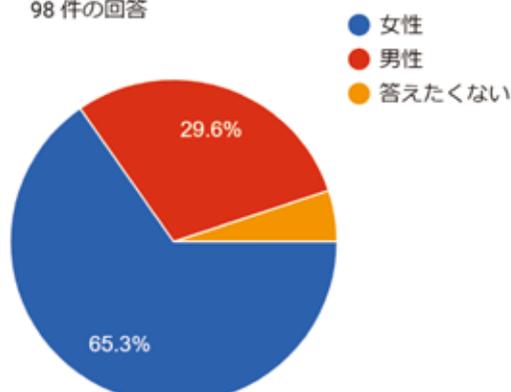
97 件の回答



- 学部 1 年生
- 学部 2 年生
- 学部 3 年生
- 学部 4 年生

#### お子様の性別

98 件の回答



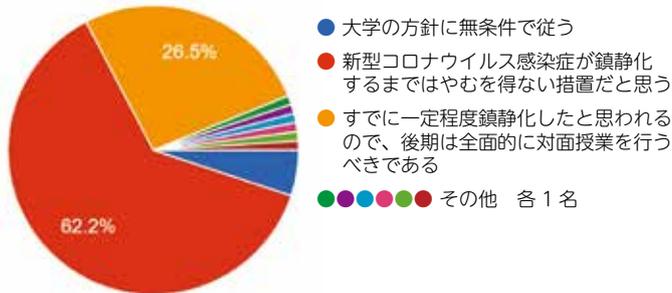
- 女性
- 男性
- 答えたくない

## ■ オンライン授業について

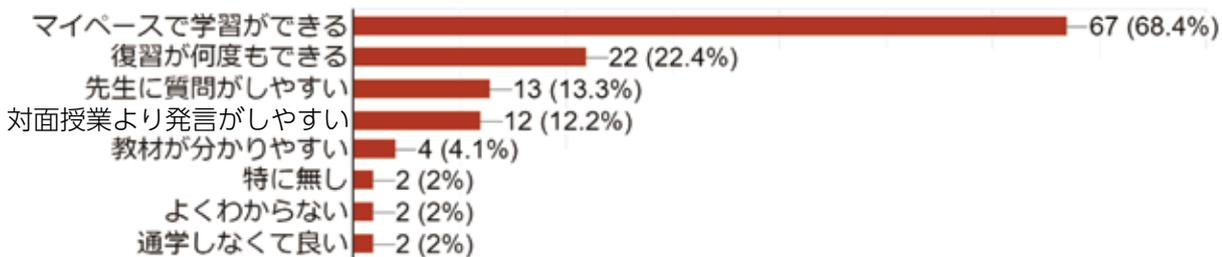
小中高は既に早くから通常授業を再開し、児童生徒は毎日登校しています。しかしなぜか大学だけはオンライン授業が続いています。以上を踏まえて以下の問いにご回答ください。

名古屋芸大では段階的に規制を緩和しつつ、後期はいわゆる「ハイブリッド方式の授業」を基本として再開しましたが、現状をどのようにお考えですか。

オンライン授業を受講した感想はいかがですか。  
(お子様にお尋ねください)



### オンライン授業でメリット（良かった）と思われたことがありますか。（複数回答可）

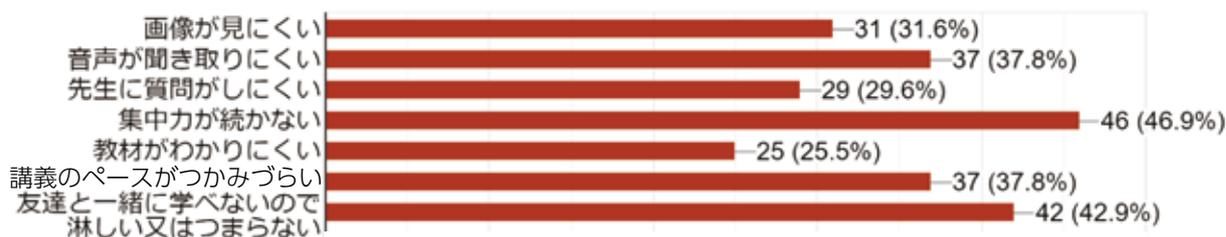


その他、「多少体調不良でも受講出来る」、「自宅なので授業に集中出来る」などの意見がありました。

#### 【集計結果について】

- ①2020年度前期当初は、瞬く間に世界中をパンデミックの坩堝(るつぼ)に叩き込んだ正体不明の新型ウイルスの襲来により、日本中の大学は大混乱に陥り、「どうしていいかわからない」状態の中で右往左往を繰り返していたのが実態であった。
- ②しかしそれまで対面授業しか経験しなかった本学の教職員ではあったが、対応は実に素早かった。国の緊急事態宣言の首都圏限定発出(4/7)の翌日には早くも「危機対策本部」を立ち上げ、一致結束し、必死の思いでオンライン授業の準備に取り掛かっている。
- ③本誌前号(第69号)掲載座談会の席上の萩原周芸術学部長・溝口哲夫人間発達学部長の発言や、同誌別掲の山田芳樹学務部長のオンライン授業立ち上げ舞台裏の解説記事などを拝読し、本当に頭のさがる思いがした。
- ④保護者も学生もその大変さをよく理解してくれていたことが、アンケート結果から読み取ることができた。
- ⑤オンライン授業といっても、「ライブ配信」、録画配信の「オンデマンド」、「課題提出だけ」とか色々ある。名古屋芸大ではこの3つの内から教員が自分の講座に最適な形態を選択して授業を行っている。
- ⑥少人数の「ライブ配信」なら「どこでも授業をうけられる」、「先生に質問しやすい」と学生の満足度は高い。また「通学時間が不要になり時間を有効活用できる」、「マイペースで学習できる」など、オンライン授業ならではのメリットが確認できる。
- ⑦オンデマンド型授業の効能は、お馴染みの東進衛星予備校で実証済みであり、「復習が何度もできる」、「教材がわかりやすい」など、保護者・学生の評価も高かった。
- ⑧そもそも法経文理といった一般大学と、創作・実技に比重を置く芸大とでは授業の基本が全く違う。欧米の名門芸術大学では美術・デザイン分野は勿論のこと、楽器演奏もダンスパフォーマンスも当たり前前にオンライン授業がやられており、世界中の学生が国境を越えて学んでいる(費用は通学課程の何十分の一)。名古屋芸大は芸大の実態に合った形で新しい芸術教育の在り方を自ら考え、模索するしかない。
- ⑨私は本誌前号座談会で、オンライン授業を総括して、「コロナ禍によるオンライン授業の導入は、今後の日本の教育の在り方を変える重要な契機になるだろう」(『会報』第69号13ページ)と述べた。教育に関しては全くの素人の私だが、後援会長としてこの間コロナと格闘を続ける過程で、オンライン授業の多様なメリットに気づかされた。
- ⑩首都圏の名だたる大学がクラスターだのオンラインだのとモタついている間に、名古屋芸大は既に20年度前期後半からハイブリッド授業の導入に踏み切った。対面授業の増加を求める文科省局長通達より早く、全国の大学中でもかなり早い時期での思い切った対応だった。マスコミによる学長インタビューや、授業取材が殺到したのもうなずける。

## オンライン授業でデメリット（困った）と思われたことがありますか。（複数回答可）



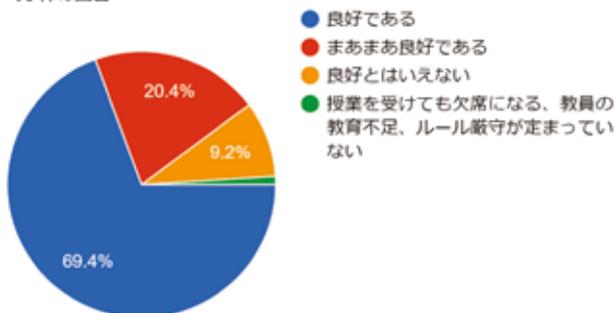
その他、「質問が返ってこない」、「授業内容がつまらない」、「更新のタイミングがわからない時がある」などの意見がありました。

### 【集計結果について】

- ①オンライン授業の実施に際して、経済的理由から自宅にネット環境を構築することが困難な学生の存在が明らかになった。私はただちに後援会名で「緊急学生支援を求める申し入れ書」を執筆し、大学に提出した。学長の迅速なご判断により、大学からパソコンやモバイルルーターの無償貸与が受けられることとなり、ひとまず問題はクリアすることができた。
- ②オンライン授業の初動においては、「画面が映らない」、「音が出ない」、「ルーターの性能が悪く繋がりにくい」、「画質が低い」など多少のトラブルはあったようだが、とにかく教員も学生も初めてやることなので、失敗や戸惑いがあったとしても当たり前。しかし名古屋芸大には映像や音響の専門家がわんさとのるので、ほどなく問題点は解決し、その後は順調に推移している。
- ③オンライン授業だと画面を消していれば教員からは見えない。やる気のない学生はサボり放題になり、取り残されていく。オンライン授業は学力格差を生むリスクが高い。
- ④オンライン授業とはいえ、映像の配信がなく「課題だけ丸投げ」という授業は学生の目には「やる気のない先生」、としか映らない。学生の満足度は低く、保護者の評判も悪い。
- ⑤課題丸投げ教員は限定的で少数派であるが、教員の授業に対するそれまでの取り組みを含め、その力量、能力格差を露骨にさらけ出す結果となっている。「手抜き」、「学生をバカにしている」、「授業料ドロボー」と罵倒されても仕方がない。「授業料返せ」と言いたくなる原因のひとつと思われる。
- ⑥電子機器を使用した長時間に及びオンライン授業は、時として健康被害をもたらす。視力低下、血行不良、肩凝り、頭痛、難聴など、体調不良を引き起こすリスクも考えられるので注意が必要である。
- ⑦オンライン授業は健康者の立場で基本的に構成されている。視力・聴力に不自由さを持つ学生はオンライン授業では難しい場面が多い。オンライン授業は万能というわけではない。全学生平等に対応するのは難しい、との指摘があった。

### オンライン授業の出欠状況についてお尋ねします。

98件の回答

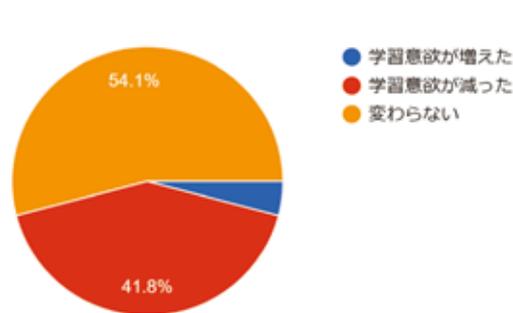


### 【集計結果について】

- ①オンライン授業の出欠状況は「良好である」、「まあまあ良好である」の合計が89.8%を占めており、しっかりと授業が成立している。
- ②「授業を受けても欠席になる」、「授業のルールが定まっていない」との指摘は学生の成績評価に直結する問題なので、原因を究明し、早急に改善する必要がある。
- ③授業、履修、単位に関しては学務部教務チームにご相談ください(本誌46ページ参照)。

### 対面授業と比較して学習意欲に変化はありましたか。

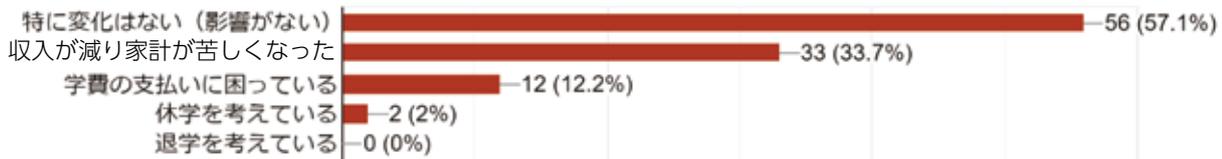
98件の回答



### 【集計結果について】

- ①「学習意欲は変わらない」が54.1%で単独過半数越え。「学習意欲が増えた」4.1%を加えると58.2%となり、意欲減少を上回ってはいる。
- ②緊急事態宣言発出当初(前期)に比べ、後期開始時点では「まだオンラインが続くのか」という失望感が41.8%の「学習意欲が減った」という回答に反映されているのかもしれない。

## 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で変化はありましたか。(複数回答可)

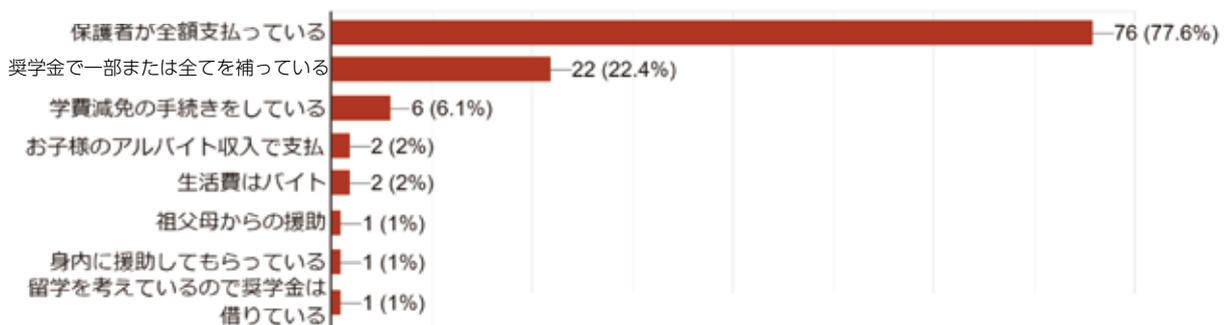


## 【集計結果について】

- ①「特に影響はない」が90%だが、「学費の支払いに困っている」が12.2%あり、「休学を考えている」も2%あった。(その後、休・退学希望者は増加した。)
- ②文科省の調査では、2020年4月～10月期における全国大学でコロナ禍の影響で休・退学した学生は約5千人いたことが判明している。
- ③名古屋芸大では「緊急支援措置」として全学生一律5万円の奨学金を支給するとともに、国の緊急奨学金支援の積極的活用、学生相談などに傾注し、休・退学の防止対策に全力を挙げている。

## ■学費等金銭面について

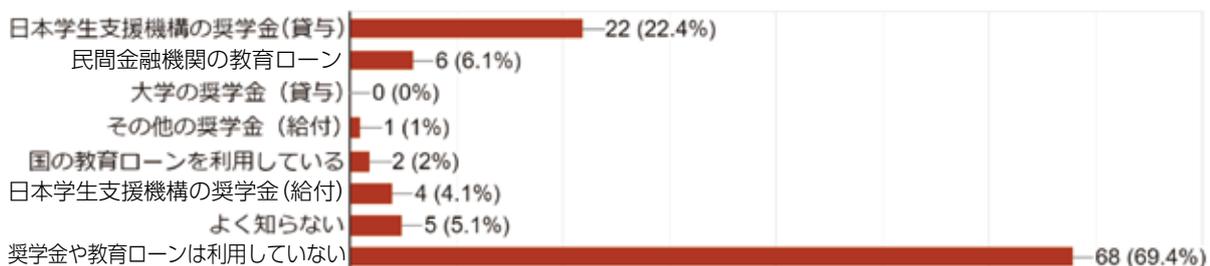
## 学費の支払いについて。(複数回答可)



## 【集計結果について】

- ①回答者の77.6%が「保護者が全額支払っている」、「祖父母・身内からの援助」(2%)と答えている。
- ②これに対して「(学生本人の)アルバイト収入で支払っている」(2%)、「奨学金で一部または全てを補っている」(22.4%)、「学費減免の手続きをしている」(6.1%)、「生活費はバイト」(2%)、との回答を見つけて感動した。
- ③自分のバイト収入や奨学金で学費の全額や生活費を賄いながら苦学している諸君は、間違いなくコロナで収入が激減し苦学しているに違いない。だがここまで頑張ってきた君たちは、逆にそう簡単に大学を辞めたりはしないだろう。
- ④戦国の武将山中鹿介(やまなかしかのすけ)は御家再興を願い、「願わくば我に七難八苦を与えたまえ」と三日月に祈ったという。人は困難や苦学を乗り越えることにより、初めて大願は成就する。コロナなんかには負けず、頑張ってください!

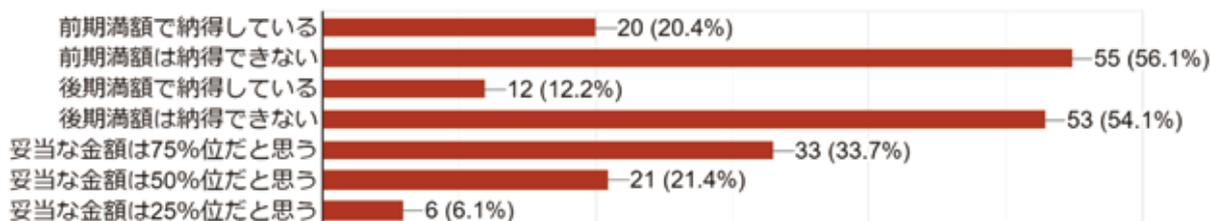
## 奨学金・教育ローンの利用状況についてお尋ねします。(複数回答可)



## 【集計結果について】

- ①全国の大学生の2人に1人が何らかの奨学金を利用しているといわれる。
- ②ただし奨学金最大手の日本学生支援機構(JASSO)の主力は貸与型(要返還)。欧米の奨学金は給付型(返還不要)である。
- ③「奨学金や教育ローンについて良く知らない」(5.1%)保護者や学生もいる。名古屋芸大には大学独自の奨学金制度がある。成績優秀者への特待生制度もある。自治体、民間企業、民間支援団体が行っている奨学金制度や、「あしなが育英会」、「交通遺児育英会」、「新聞奨学生」などもある。社会福祉協議会の「生活福祉資金貸付」もある。利用条件はそれぞれ異なるから、メリット・デメリット、違いを良く知った上で上手に利用することだ。
- ④困った時、わからないことは、学務部学生支援チームに何でもご相談ください。ベテラン専門職員が力になってくれます(本誌46ページ参照)。

前期授業料等学納金は満額納付でした。間もなく（10月には）後期学納金の納付時期がまいります。満額で納得していますか。



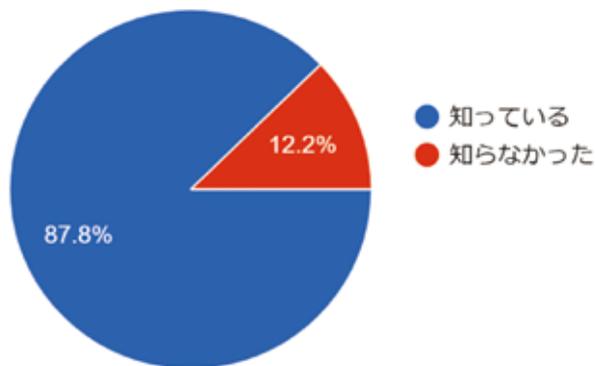
【集計結果について】

- ①「学費の満額徴収は納得できない」という声が、同じ保護者である私にもズシリとこたえた。60%以上が「NO」と答えている。この結果は重い。
- ②「授業の質が学費に見合っていない」として、全国の大学で学生たちによる学費返還を求める署名活動も活発化した。
- ③保護者及び学生の感覚では、オンライン授業の学費適正額は、「75%」が33.7%、「50%」が21.4%、「25%」が6.1%で、いずれにしても61.2%の保護者が「満額は高過ぎる」と感じているのは間違いない。
- ④全国的にみれば施設費の一部返還に応じた京都芸大や、困窮学生への10万円前後の経済支援金の支給(立命館大、早大その他)の先例もあり、保護者としては大学側の事情も重々承知の上だが、やはり歯がゆいところではある。

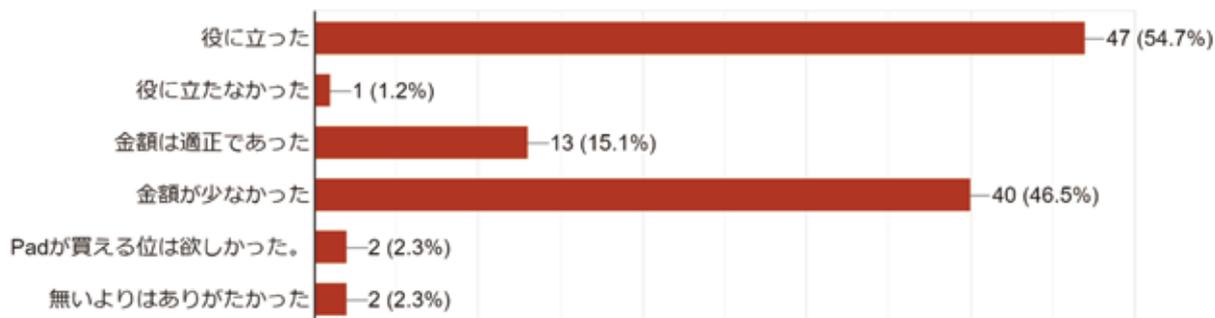
## ■名古屋芸術大学緊急奨学金について

5月13日、名古屋芸術大学では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援として、オンラインによる授業の環境整備や生活援助等に役立てていただくため「緊急奨学金」として、在学生全員（大学院生を含む正規学生。休学者を除く）に1人あたり一律50,000円を給付することを決定しました。以下の質問についてご回答ください。

緊急奨学金が給付されることをご存知でしたか。



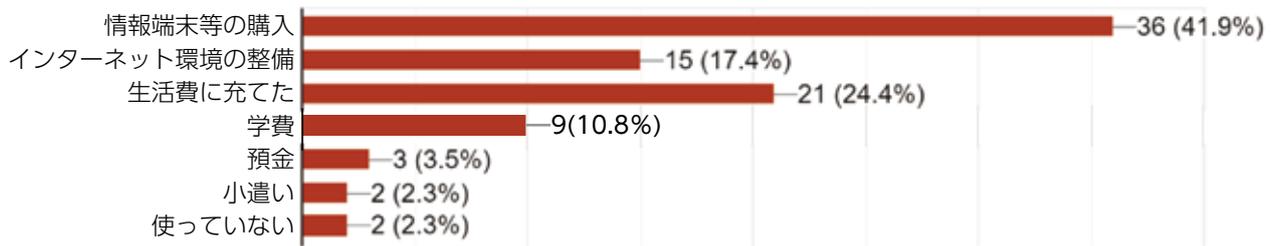
知っていると回答された方に伺います。奨学金はどのように感じましたか。（複数回答可）



【集計結果について】

- ①「奨学金は役に立った」(54.7%)が、「金額が少なかった」(46.5%)。「無いよりはありがたかった」(2.3%)。受け取り方は千差万別であった。
- ②だが、規模の違う大学と名古屋芸大を同列に論じたり、金額の多寡(たか)で判断するのは誤りである。
- ③開学50周年記念行事を全て取り止め、一人一律5万円(総額1億数千万円)を支給した名古屋芸大の奨学金は、他大学の10万円の何十倍もの価値があることを忘れてはならない。

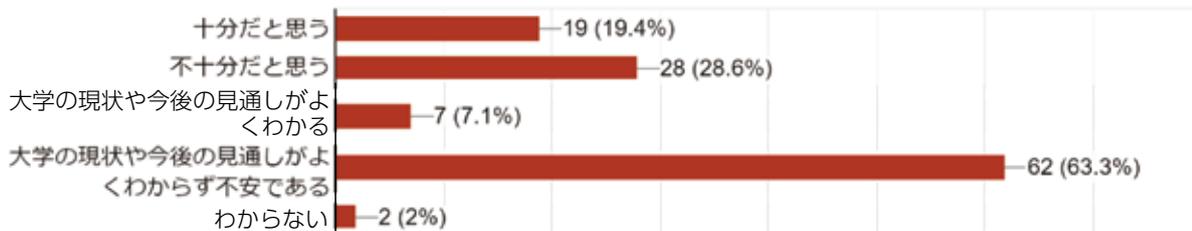
奨学金の使途についてお子様にお尋ねの上、差し支えなければお教えてください。(複数回答可)



#### 【集計結果について】

- ①奨学金の使途として、「情報機器(PCやタブレット端末等)の購入」、「教材など学業に必要なもの」、「生活費に充てた」、「後期授業料に充当した」、「ひとまず貯金した」、「使っていない」etc..
- ②上記の通り、学生・保護者は奨学金の趣旨を良くご理解いただき、この5万円を本当に大切に、有意義にお使いいただいたことがわかった。ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態に関連した...広報活動についてお尋ねします。(複数回答可)



#### 【集計結果について】

- ①新型コロナウイルス感染症拡大の最中であって、大学の広報活動が「十分だと思う」(19.4%)に対して、「不十分だと思う」は28.6%であった。
- ②アンケート回答者の63.3%がコロナ禍での情報不足に、「大学の現状や今後の見通しがよくわからず不安である」と答えている。
- ③長引くコロナ禍に危機管理広報の重要性・必要性は非常に高まっており、早急な改善が望まれる。

全世界規模で荒れ狂う狂暴な新型コロナウイルスは、ひとつの時代の当たり前の認識や思想、社会全体の価値観などの全てを暴力的に破壊し尽くし、世界は一変した。もはやコロナ以前の大学への、ノスタルジックな回帰を夢想してみても、時代は戻らない。重要なのはその先に何を指すかだ。教育は国家百年の計という。われわれはいま、名古屋大の今後100年を占う重要なターニングポイントに差しかかっている。長期的戦略的視点に立脚した抜本的検討が急務である。ピンチをチャンスに転化し、サバイバルを勝ち抜き、大胆に方向転換をはかれる大学だけが生き残る。いまこそ名古屋芸術大学飛躍の時である。

Dies ist Rhodes Jump hier (ここがロドスだここで跳べ！)



まとも

## 【特集 2】

2019-2021  
改革と挑戦の2年間 ―検証と総括―

名古屋芸術大学後援会創立50周年記念特別企画「後援会・未来への挑戦」後期発行の第70号「特集2」。テーマは、「名古屋芸術大学後援会2019-2021/改革と挑戦の2年間、検証と総括」です。2019年、菊井政右衛門会長がたった一人で始めた後援会改革と成し遂げた仕事の数々。吹き荒れる新型コロナウイルスの嵐の中で、学生支援と大学発展のため、みずから後援会の斬り込み隊長として獅子奮迅の活躍をしてくださいました。その2年間の検証と総括、そしてその先にある「未来への挑戦」を語っていただきました。

(広報委員長：酒井伊紀)



## ■後援会改革はなぜ必要だったのか



2020年、名古屋芸術大学後援会は創立から50周年を迎えました（前身は1970年に発足した『父母の会』）。時代は変わり、大学や学生たちを取り巻く環境は激変し、教育の危機が叫ばれ、後援会活動の低迷を危惧する声も多く聞かれるようになりました。名古屋芸術大学は2017年、BORDERLESS（ボーダレス）をスローガンに、既存の芸術系3学部の縦割り組織を解体し、これに新設された芸術教養領域を加え、全学を2学部2学科4領域24コースに融合再編するという大改革を断行しました。（注1）大学がこのようなパラダイムシフト（革命的転換）を遂げつつあった時、後援会は旧態依然としたまま何も変わろうとはしませんでした。断わっておきますが、歴代の後援会執行部や特定の個人を批判することは私の本意ではありません。なぜならそこに至るまでの何十年もの間に、既に後援会の組織は形骸化し、活動もマンネリ化して、脱出不能と思えるほどの負のスパイラルに陥ってしまっていたからです。私は後援会が置かれた当時のこのような状況に強い危機感を抱き、誰もやらないなら自分で変えるしかない決意を固め、単身蹴起したのです。改革とは、既存の制度を改め、組織の内部や活動のスタイルをより良いものに作り変えることを言います。後援会改革の目的は、大学のBORDERLESS（ボーダレス）改革に連帯し、旧弊・既得権の打破を契機に、後援会の組織と活動を再建し、学生支援と大学の発展に寄与し得る本物の後援会作りに進進する構造改革の実現にありました。後援会3年目を迎えた2019年度総会で会長に選出され、20年度総会での再選を経て、連続2年間、持てる力をふり絞って後援会の構造改革に取り組みました。組織や活動の細かな改善点まで含めると、限られた紙数ではとても収録し切れません。本稿では改革の代表的事例と、成し終えたいいくつかの仕事の実績にポイントを絞って掲載することとしま

した（注2）。

（注1）名古屋芸術大学BORDERLESS改革は、4年間の検証過程を経て2021年4月、新たなステージへと飛躍します。「舞台芸術領域」の新設と美術・デザイン両領域の改組により、2学部2学科5領域38コースへと拡充されます。

（注2）続編「後援会・未来への挑戦（Ⅱ）」は、「後援会報」第71号（2021年9月30日発行）に掲載を予定しております。

## ■「後援会ニュース」を創刊しました

「後援会ニュース」創刊の目的は、①問題意識の共有、②円滑なコミュニケーションの推進、③将来的には後援会の対外情報発信ネットワークの構築へと発展させる礎とすることでした。2019年5月29日、名古屋芸術大学代表団の一員として英国ブライトン大学に出張する当日の朝、セントレア（中部国際空港）の待合室からラインで発信したのが第1号でした（注）。



後援会ニュース

（注）2021年3月20日現在、第102号まで発行を続けています。

## ■後援会史の調査・研究に着手しました

歴代の会長としては初めて後援会史の調査・研究に取り組みました。2019年、会長に就任はしたものの、後援会の歴史も何も、誰に聞いても何もわかりません。そこで唯一の手がかりである「後援会報」のバックナンバーが綴じられた分厚いファイルを大学の書庫から探し出し、大学に日参して、創刊号（1986年創刊。当時はタブロイド版の新聞形式）から最新号までの全号全頁を読破しました。その結果、後援会のルーツが大学開学と同時に発足した「父母の会」にあったこと、そして2020年、大学と同時に後援会も創立50周年を迎えることなどを明らかにし



歴代の「後援会報」左端が創刊号

ました。今後さらに研究を進め、時間と予算に余裕があれば、『名古屋芸術大学後援会史』（仮題）の執筆にもトライできたらと考えています。

### ■後援会の名称を正しく変えました

それまでの「名古屋芸術大学・大学院後援会」という名称が間違っていたので正しく直しました（会則第1条改正）。

関係者から聴取したところ、当時の後援会長のお子様が進学されたのを機に、それまで使っていた「名古屋芸術大学後援会」という名称に「大学院」を追加して使い始めたという経緯が判明しました。

この名称は下に述べる理由から誤っています。

- ①学校教育法第97条乃至第102条にいう「大学院」とは、大学の中に設置された1つの機関（研究科）であって（第100条）、名古屋芸大の他に「大学院大学」（第103条）のような独立した別組織があるわけではありません。
- ②大学と大学院に後援会が別個に2つ存在し、「連合後援会」を構成しているわけでもありません。
- ③それは「大学運営の組織図」（注）を見れば一目瞭然です。大学組織の中に大学院が含まれています。
- ④会則第4条は「後援会」の会員は学部生と院生の両方の保護者を含む旨、正しく記述されています。
- ⑤その証拠に、日本全国の大学後援会の中で組織名に「大学院」をくっつけている大学は、過去にも現在にも名古屋芸大以外1つありません。
- ⑥以上の説明から明らかな通り改竄（かいざん）される前の「名古屋芸術大学後援会」が正しい名称だったので

（注）「大学運営の組織図」は大学側から提供された資料です（本誌56ページ参照）。

### ■後援会低迷の原因はビジョンの欠如にあり

私は後援会低迷の最大の原因は、ビジョンの欠如にあったと看破しました。ビジョン（vision）とは、「将来のあるべき姿を描いたもの。将来の見通し。未来図。未来像」（『大辞林』）のこと。ビジョンの策定はリーダー（会長）の責任です。ビジョンがなければ、後援会が何を指す組織なのか、如何にしてその目標を実現して行くのか、執行部も会員も見当がつかみません。これでは羅針盤も持たずに大海に船出して、漂流する難破船になるのは当たり前です。後援会がビジョンを持たず、組織や活動の現状に疑問も抱かず、改善し

ようという声もなく、明確なテーマも方針もないままに、気がついてみれば後援会が果たすべき本来の役割すら忘れ、毎年同じ行事（定期総会、年6回の会議、研修旅行）のくり返しで1年を過ごすのが「後援会活



動」である、という誤った“常識”がすっかり定着化していたのです。

### ■後援会改革の目標と重点課題とは何か

私は名古屋芸術大学を「学生満足度ナンバーワン」、「全国芸大（美大・音大）のトップ校にする」ことをマニフェストに掲げました。そして強力な後援会を建設するために必要な改革の重点課題として、①民主的運営の確立、②強固な組織力と資金調達能力・財務基盤の強化拡大、③役員・理事の意識改革と資質向上、に決めました。

### ■後援会の基本的立場を明確にしました

「後援会は不偏不党・公平中正。いかなる政治的イデオロギー、宗教思想、特定の団体や個人の主義主張にも与（くみ）せず、支配されることもない。立場は常にニュートラル（中庸）である。」——このように私は後援会の基本的立場を説明しました（注1）。後援会は大学の下請け機関ではありません。大学とは別の独立組織です。ちなみに竹本義明学長は、大学にとって後援会とは「ステークホルダー（利害関係者）」である旨、その本質をズバリひとりで指摘されています（注2）。

（注1）「後援会ニュース」No.3（2019年6月13日）。

（注2）「後援会報」第69号8ページ。

### ■役員候補選出は談合・指名ではなくガラス張り選挙で

過去の後援会ではごく少数の幹部に権限が集中し、談合とトップダウン（指名）で役員が決められ、執行部の主要ポストが独占されてきました。そのためヤル気を削がれ、活動低迷を招く大きな原因になってきました。見栄や肩書き欲しさの理由から「役員」になりたがるような人など、私はお断りします。私は一昨年暮れに「後援会役員（理事）の資質・条件について」と題

するコメントを発表し、その中で、「会長はじめ理事会メンバーは学校法人名古屋自由学院『至誠奉仕』の建学の精神を堅持し、大学と学生のためにいかなる見返りも求めず、無私の精神をもって後援会の奉仕の実践活動に徹することができる人でなければならない」、「会長はじめ理事会メンバーの選出基準は学歴・経歴・年齢・性別不問、人物本位、実績重視、戦略的思考と決断力と実行力を持った人、そして適材適所でなければならない」、「（男女を問わず）熱意あふれるフレッシュな人材をどしどし登用」しなければ後援会の改革・再建は不可能である、と訴えました（注）。したがって私が会長に就任した2019年度以降の役員候補者の選考では、志ある者が衆人環視の面前で（例えば会議の席上）、正々堂々と立候補と所信表明を行い、選挙（投票）で決めていく民主的手続きがしっかりと確立されています。



(注) 「後援会ニュース」No.41 (2019年12月26日)。

### ■ 役員の職務分掌を明確にしました

後援会活動低迷の原因のひとつに、会則も読んだことがない、自分の仕事も理解していない、そんな人たちが執行部の重要な「役員」ポストに就いていたという、信じ難い実態がありました。これではとても後援会を任せる訳にはいきません。組織において各部署や各役職、担当者の行うべき仕事を配分し、仕事の責任の所在と範囲を明確化することを「職務分掌」(しょくむぶんしょう)と言います。ビジネス用語でもあるので、会社勤めの経験がおありの方はご存じかと思います。私が会長に就任してからは、特定の幹部やグループへの権力の集中をなくし、役員各自に権限と責任を持たせ、各専門委員会を単位として組織活動を行うよう変えたことで、後援会全体を活性化させることができました。後援会役員の「職務分掌」については、「後援会だよ！全員集合」の各役員コメント欄に簡潔にまとめてありますのでご参照ください (注)。

(注) 「後援会報」第69号15～16ページ。

### ■ 随意契約を撤廃し競争入札制を導入したその結果…

「後援会報」の印刷を担当する印刷業者や、研修旅行を企画運営する旅行者など、後援会の業務や行事に関与する業者には、以前から既得権益にまつわる真偽不明の良からぬ噂を耳にしていました。過去10年以上にもわたって特定の業者だけを優遇し、業務を独占させ、甘い汁を吸わせてきた「随意契約」に原因があることは明らかでした。私は諸悪の根源であるこの随意契約の撤廃を宣言し、公正な競争入札制の導入に踏み切りました。効果は靦面(てきめん)、例えば「後援会報」の印刷代は従来業者の同条件の見積りと比べると、モノクロ(白黒)印刷で8.5万円、フルカラー印刷だと実に25万円もの差額が出るという、驚くべき結果が明らかになりました。ちなみに研修旅行を10年間独占してきた旅行者は、理由は不明ですが、事務所を閉めて連絡がとれなくなりました。過去10年、後援会がいかに業者らに食い物にされてきたか、実際に数字を示して立証し、後援会が受けた被害の実態を白日の下に晒すことができました。

### ■ 後援会創立50周年記念「会報」フルカラーで全面刷新

「後援会報」は後援会の“顔”。大学とご家庭を結び大切な“懸け橋”です。特に後援会創立50周年記念特別号(2020年度前期発行号)となった第69号の発行は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の影響で、後援会創立50周年記念行事(記念式典・祝賀会など)がことごとく中止となったことにより、後援会に唯一残された記念事業となりました。そのため私は会議の席上で決意表明を行い(注)、



全面刷新なった第69号

自ら陣頭指揮をとり、総力を挙げて制作に取り組みました。編集方針も180度転換し、レイアウトも編集も、素人仕事ながら全部私と広報委員会の手作りでやりました。フルカラーで読みやすく飛躍的にグレードアップした第69号は、リリースと同時に大きな反響を呼び、各方面から絶賛のお声を多数頂戴いたしました。

(注) 大学キャンパスが封鎖中のため、2020年5月23日、学外の、アイリス愛知1階ティラウンジ(名古屋市中区丸の内2)で開かれた2019年度後援会第6回役員・委員会での会長発言です(2020年5月25日付「後援会ニュース」No.75)。

### ■ 研修旅行も競争入札で納得のプラン(が、コロナで中止)

事業委員会が担当する後援会研修旅行も「後援会報」と同様、過去10年間にわたる特定旅行者優遇の随意契約を廃止し、公正な競争入札制を導入しました。前年度までは無責任に業者に丸投げし、言い値でぼったくられ、振り回されるだけでした。2020年度は私と事業委員長による旅行者の選定と面接・説明会(大手・中堅5社)の実施からスタートし、価格とプランを競わせ、プレゼンテーションを受け、最終的には役員・委員会(現在の理事会)の審議にかけて決定するという、あくまでもクライアントであるわれわれが主導権を持って最初から最後まで進行できるよう、一連の流れを全て改革しました。政府が推進する「Go Toトラベル」とタイアップした、後援会創立50周年を記念するに相応しい見所満載の納得プランができ上がりました。しかし一端は落ち着いたかに見えた新型コロナウイルス感染症のぶり返りで、残念ながら研修旅行は中止となりました(注)。



(注) 2021年3月末日現在、事業委員会において新年度企画が進行中です。

### ■ 後援会史上初の「書面総会」を実現しました

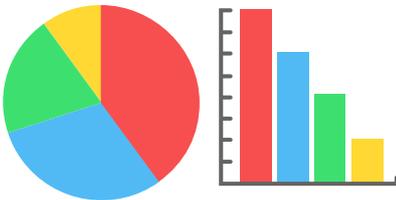
名古屋芸術大学後援会では毎年5月に定期総会を開催しています。しかしながら2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の緊急事態宣言を受け、通常型の総会は開催不可能となりました。そのため後援会史上初となる「書面総会」を実施することを決定。とにかく何から何まで初めてのことで、挨拶文、1号～6号までの議案書と議案説明書の起草、返信用葉書の文面作りまで、原稿の大部分を一人で書きました。そして印刷、袋詰め、郵便局への持ち込みは役員有志と事務局スタッフの人海戦術で乗り切りました。会員の皆様宛に郵送した議案資料に基づき、7月5日を期限として表決を行い、全ての議案(決算・監査報告、事業報告、会則改正案、役員改選案、予算案、事業計画案)についてご承認をいただきました。役員改選の承認に伴い、私が昨年度に引き続き本年度も後援会



会長の重責を担うこととなりました。後援会は新型コロナウイルスの脅威に屈することなく、更なる改革の前進に向けて歩み続けます。(写真は書面総会の準備風景。)

### ■後援会史上初の「保護者Webアンケート」を実施しました

新型コロナウイルスへの対応で日本中が大混乱する中、大学キャンパスへの入構規制、対面授業



の中止、オンライン授業への転換、アルバイト激減による生活困窮など、学生たちの生活も大きく変化しました。そこで私は、今後の大学生活のありようや後援会として取り組むべきテーマを具体化するため、夏季休暇直前の2020年度前期最終日、「後援会保護者会員アンケート」を実施することを決断し、アンケート項目を起案するなどして、ただちに準備に取りかかりました。アンケートはGoogleフォームを利用したWebアンケートとして後援会保護者会員2,118名を対象に実施しました。回答者数は98名(4.6%)でした。名古屋芸大の学生と教職員は困難な状況からさまざまな学びを得て、新たな取り組みに挑戦しつつあります。開学50周年の伝統に加わった新たな力が、アフターコロナの次の時代への飛躍の糧となることは間違いありません。アンケート結果を集計し公表することにより、学生と名古屋芸大が置かれた現状へのご理解を深めていただくとともに、大学の早期正常化と今後の大学生活の向上につながることを願ってやみません(注)。

(注) 本誌「特集1」、「後援会保護者会員Webアンケートの実施及び集計結果について」をご覧ください。

### ■「緊急学生支援の申し入れ」全学生5万円の奨学金実現へ

国の緊急事態宣言発出で私が名古屋芸大で最初に遭遇したのは、①経済的理由からオンライン授業に必要な機器を自前で準備できず困っている学生がいたこと。②アルバイト収入を絶たれ学業の継続が困難になった学生たちの存在。③前期学納金(授業料等)の納付時期と重なったため、収入減で家計が厳しく支払いに苦慮している家庭状況が判明。④コロナ禍で途方にくれる4年生の就活問題、でした。私は瞬時に、これは緊急に解決を要する重大問題であることを理解しました。例え一人の学生であっても経済的理由からオンライン授業が受けられないとか、コロナのために学業を断念せざるを得ない学生を

名古屋から出してはならない、奨学金でも職探しでも何でも八方手を尽くして必ず救助するからそれまで絶対にあきらめないで持ちこたえてくれ、という切羽詰まった気持ちでした。私はすぐに行動を起こしました。①オンライン授業実施のための環境整備、②授業料の一部返還、③授業料等学納金納付期限の延



大学側に「申し書」を提出

長、④強力な就活支援をお願いするという、四項目からなる「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援を求める申し入れ書」を一気に書き上げ、5月5日付で大学に提出しました(注1)。その結果大学からは、①パソコンやWi-Fiルーター等、オンライン授業に必要な機器を準備できない学生には無償貸与すること、②学費納入も個別事情に則して柔軟に対応すること、③キャリアセンターからはセンター長の陣頭指揮のもと、専門家を総動員した緊急支援措置を講ずるという緊急声明が出されました。そして何よりも感動したのは、私が書いた「申し入れ書」が全学生一律5万円、総額1億数千円もの資金を投入した「学校法人名古屋自由学院奨学金」支給のきっかけになったことでした。川村理事長、竹本学長のご英断に、全保護者を代表して改めてお礼を申し上げます(注2)。

(注1) 「後援会報」第69号64ページに「申し入れ書」全文と写真が掲載されています。

(注2) 後援会座談会の席上での川村理事長発言。「5月下旬、後援会会長菊井様からの要請により、理事会の『特別措置』として全学生を対象に一人一律5万円の奨学金を支給いたしました。」(「後援会報」第69号11ページ)

### ■後援会会計業務の見直しを行いました

名古屋芸大後援会は、在学生や卒業生の保護者等が学生と大学を支援することを目的に組織し、運営している団体です。後援会は本来大学とは独立した別の存在ですから、会計業務は後援会自身が行なうのが当たり前です。にもかかわらず私が会長に就任にするまでは、後援会の定義すら明確ではなく(注)、私が就任して初めて会計上の問題点も明らかになりました。私が後援会の事務局業務を外部(株)クリアーレに委託するまでは、①大学の事務職員(事務部長、事務長他)が後援会の通帳・印鑑・会計帳簿を保管し、②自由に預金の出納を行い、会計実務を一手に取り仕切っていたのです。昨今、小中高などで学校



運営に関連して、本来公費負担とすべき経費を私費から支出したり、横領事件などの不祥事が頻発しています。いづれにしても公私の区別をつけるのは当たり前のことで、会長や会計が知らないところで何万、何十万のお金が動いているのは不自然な話です。言うまでもなく後援会は会員の皆様からお預りした大切な会費で運営されています。後援会費は、学生支援や大学の教育・研究活動に必要な経費としての公共性を有しており、その管理と取扱いについては保護者等の会員が包括的に後援会長に信託している経費であることから、適切な会計処理を行い、会員に対して十分な説明及び報告を行う義務があるのです。こんな重大な問題を、会長・会計をはじめとする歴代の執行部は大学側職員に丸投げし、ノータッチで見過ごしてきたのです。原因は、後援会役員会の会計業務に関する知識と経験の欠如にありました。現在では、①支払いが発生した時点で事務局会計担当職員はそのつど私(会長)に報告し、②会長決裁のない支払いは認めない、③四半期ごとの報告を義務づけ、④支払い伝票は私が定期的に事務局に足を運び1枚ずつチェックし確認の押印をする——というように改善し、万全を期しています。

(注) 本誌12ページ「後援会の基本的立場を明確にしました」の項を参照。

### ■不良債権処理と後援会奨学金の再開に向けて

「後援会の不良債権問題」とは、かつて後援会には奨学金制度が存在していましたが(1995年～2016年までの21年間)、借りた奨学金を卒業後に返還せず踏み倒す学生が続出し、それが原因で奨学金制度が破綻してしまい、2021年3月31日現在、約1千万円の貸付け金が未回収のまま残っている事件のことを言います。2019年度末、私が会長として後援会の会計監査に立ち合った際に、会計報告書に記載された不審な数字を見つけたことで発覚しました。また後援会専従職員が雇用できるまでの間、大学事務部長(現:地域・社会連携部長)と庶務会計課職員に暫定的に事務局業務の取扱いをお願いしておりましたが、20年4月、(株)クリアーレに正式に業務移管された際、引き継ぎ荷物の中に貸付け関連資料が入った段ボール箱を発見し、調査を開始しました。言うまでもなく後援会は会員の皆様からお預りした大切な会費で運営されています。その運用に失敗し多額の損失を出したにもかかわらず、当時の会長と執行部は後援会員に対してその事実を公表も謝罪もしないまま、回収業務を弁護士事務所(東京)に丸投げし、歴代の会長・会計に引き継ぎもせず、「臭いものに蓋」でスルー(隠蔽)してきたのです。不誠実であり無責任の謗(そし)りを免れません。私の調査によれば、法律事務所による回収済みは約2千万円。時効成立で回収不能が約1千万円。現時点での残債は約1千万円。1円も返済せず連絡も取れない特に悪質な債務者(卒業生)が数名います。悪質な債務者(連帯保証人含む)に対しては所在を特定し、支払督促、民事訴訟、給与・資産の差し押さえ等、法的手段を駆使して確実に回収せねばなりません。私は『名古屋芸術大学開学50周年

記念誌』に、「現在は一時停止している後援会独自の奨学金制度も、条件が整えば再開する方向で検討を進めています」と書きました(注)。今回のコロナ禍で名古屋芸大にも辛い思いをし、本当に助けを必要としている学生が少なからずいることが判明しました。彼らのために後援会は責任を果たしていません。奨学金の踏み倒し、逃げ得を絶対に許してはなりません。不良債権問題の解決に向けて早急にメドをつけ奨学金を再開すること、それがわれわれ後援会執行部に課せられた責務です。



(注) 『名古屋芸術大学開学50周年記念誌 50 ONE』表紙と会長発言が掲載された97ページ。

### ■法人(名古屋自由学院)から後援会に「感謝状」

10月31日、名古屋芸術大学開学50周年記念事業「東キャンパス交流テラス」の完成を祝うオープニングセレモニー(渡り初め式)が開催されました。式典で学校法人名古屋自由学院川村大介理事長から開学50周年記念事業への後援会の多大な貢献と功績を讃えられ、感謝状を頂きました。大学から感謝状を頂戴するのは、後援会史上初めての出来事でした。新型コロナウイルス騒動で落ち込んでいた気分を一新し、後援会創立50周年に華を添えていただくことができました。感謝状授与の栄誉は全後援会員の慶びであり、今後の後援会活動への大きな励みとなりました。(注)



完成した交流テラス



(注) 本誌22ページに関連記事と写真が掲載されています。

### ■「表彰規程」「旅費規程」を新設「弔慰に関する内規」を改正

【新設】「名古屋芸術大学後援会表彰規程」

この規程は後援会表彰を公正かつ円滑に行うとともに、後援会員・学生・教職員等の功績をたたえることで後援会活動に対する意欲の向上、士気の高揚及び後援会事業の改革・発展を促すことを目的に私が起案し、2019年度役員会に提案し可決されました（2020年7月5日施行）。

【新設】「名古屋芸術大学後援会旅費規程」

「旅費」と書くで大袈裟に聞こえますが、平たく言えば交通費のことです。私が後援会長に就任する前は、年6回の定例会議出席と旅行に行くだけが「後援会活動」とされていたので、旅費規程などありませんでした。しかし私が会長になり活動が活発化したことで、定例会議への出席以外に各種委員会の開催や公的行事への出席が増えても交通費は支給されず、そのため執行部役員に1回何千円、月に何万円もの個人負担を強いる結果となり、後援会の活動を妨げる大きな障害となりました。後援会活動を円滑に推進するためにも交通費問題の解決が必要となり、「後援会旅費規程」を起案し、制定しました（2020年7月5日施行）。

【改正】「弔慰に関する内規」

旧「弔意」の表記を現行「弔慰」に改めました。旧内規では死亡の場合、学生は1万円、後援会員（保護者）は5千円でした。しかし後援会は保護者の組織であり、会費負担者が半額なのは理屈に合わないので、5千円引き上げ、学生も保護者も一律1万円に変更しました。また申請用紙がなかったので、「弔慰金支給申請書」の様式も新しく作りました。毎年平均して5名前後の後援会員（保護者）・学生・親族に物故者があり、申請に基づき支給されています。なおプライバシー保護の観点から個人名等の情報は外部には公表しておりません。（2020年7月5日施行）

■「第1回後援会功労者表彰」を実施しました

新設した「名古屋芸術大学後援会表彰規程」に基づき、「第1回後援会功労者表彰」が行われ、後援会公認サークル「絵画サークル壁の華」、「せせらぎ合唱団」(注1)の世話役として20数年以上の長きにわたって活動していただいている4名の後援会OB・OGの大先輩（元会長・副会長経験者）に感謝状と記念品が贈呈されました(注2)。

(注1) 保護者OB・OGによる

後援会サークル活動について川村理事長は、「嬉しさと驚き」であり、芸術活動の家族や地域への更なる浸透を「期待せずにはおられません」と述べておられます（『後援会報』第69号8ページ）。

(注2) 『後援会報』第69号6ページに受賞記事と写真が

掲載されました。



■第1回名古屋芸術大学後援会賞授与式を挙行了ました

今年から新設された「名古屋芸術大学後援会賞」の第1

回授与式が、2月26日（金）午後4時より、西キャンパスB棟2階大講義室において、「第48回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞・第24回ブライトン大学賞授与式」と同時に執り行われました。表彰式には会長の私と役員9名が出席しました。記念すべき第1回後援会賞は4名の方々に贈られました。今年は残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の最中のため、英国ブライトン大学代表団の来日は中止となり、さらに卒展のオープニングセレモニーも祝賀パーティーも中止となりました。表彰式後の写真撮影で第1回受賞者の皆さんには私からお祝いの言葉をお伝えしました(注)。

(注) 本誌21ページに、第1回授与式の記事と写真が掲載されていますのでご覧ください。



受賞者の皆さん記念写真



作品選考委員の皆さん

■幻の「後援会創立50周年記念式典・祝賀会」

2020年、後援会は創立50周年を迎えました。後援会では2019年、私が会長に就任して「実行委員会」を立ち上げ、記念事業を企画立案し、検討会を重ね、丸1年にわたって全力で準備に取り組みました。最大規模のイベントが「記念式典・祝賀会」でした。台本執筆から会場手配、パーティー開催に至るまで準備万端整え、スタッフ総出で本番さながらのリハーサルまでやりました。後援会員と来賓への招待状発送のまさに直前、いきなり新型コロナの直撃を受け、やむなく断腸の思いで中止を決断せざるを得ませんでした。幻の50周年記念式典となり、結局われわれは唯一無二の「後援会報」(69号・70号)だけが残すことができました。手作りの式典・祝賀会のマニュアルや資料一式は、いつでも使える状態で後援会総務委員会のファイルに保存してあります。新型コロナに屈することなく、未来を信じ、捲土重来を期して頑張り抜きましょう！

■書きたいこと、お伝えしたいことは山ほどあります。しかし既に紙数も尽きました。続きは次号(第71号)ということで、お願いします。5月定期総会には是非お越しください。後援会の主役は会員の皆様です。ご意見ご要望、どんどんお寄せください。お待ちしております。

## 【特集 3】 就活最前線

# 学生支援チームからの緊急報告

### 学生支援チーム チームリーダー 伊藤 元房

新型コロナウイルスは、大学生を取り巻く就職環境にも大きな影響を与えました。求人倍率は 20 年卒の 1.83 倍から 21 年卒（6 月調査）は 1.53 倍に低下、特に従業員規模 300 人未満の企業だけで見ると 20 年卒の 8.62 倍から 21 年卒は 3.40 倍と 5.22 ポイントの大幅な低下となりました。（出所：リクルートワークス研究所 第 37 回 ワークス大卒求人倍率調査（2021 年卒））学生が有利と言われる売り手市場から採用企業が有利と言われる買い手市場に急転換となりました。

このように 2021 年 3 月卒業生は、誰も経験したことがない大変な状況の中での就職活動を余儀なくされました。就職活動のスタイルも大きく変わり、Web による説明会や面接の実施が主流となりました。中には、一度も実際に会うことなく決定に至った学生もいました。

卒業後の就職を考えると、不安や心配な気持ちになるかもしれません。そんな時はぜひ、キャリアサポート室



### 学生支援チーム チームリーダー（教職）河野 真奈美

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、教室が一部使用できなくなるなど、教員や保育職を目指す皆さんにとっては学習するうえでの不便も多かったかと思えます。そんな中、「教採対策学習会」や「公務員（保育職）学習会」に参加した皆さんを中心に、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、公務員（保育職）の合格者が数多く出たことは、とても嬉しく思います。これらの学習会では、本学の教員が特別講師となり、正規の授業とは別に、有志が集まって切磋琢磨しながら、筆記試験や面接対策を行っています。新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、互いに励まし合い、地道に勉強してきた結果は、皆さんの努力の賜物であると感心しています。

また、人間発達学部からは例年通り、私立の幼稚園や

を上手に利用してください。就職活動は、辛く大変などのマイナスイメージを持たれることも多いですが、前向きに取り組むと得るものが多くあります。せっかく就職活動をするのであれば、楽しんで取り組んで欲しいと考えております。



私たちキャリアセンター、キャリアサポート室も安心して学生に勧められる企業の求人開拓を進めています。その結果、2022 年卒の求人については前年を上回る数の求人が大学に届いております。先輩方の実績で頂いている大学求人をぜひ活用してほしいです。

また、芸術学部の学生の能力が評価され始めています。2020 年 11 月 20 日付の日本経済新聞には、ビジネス界でデザイナーの需要が高まっており、デザイナーが経営や事業の戦略策定まで関わるということが記事となりました。皆さんは、これからの時代が求めている能力を学んでいると考えてください。

最後に、就職活動のポイントを 1 つ挙げるとすると、早く活動することです。ポートフォリオの作成やインターシップの参加など、早くから準備を始めることで余裕を持って活動に取り組むことができます。また本学では、無理なく就活スキル、ビジネススキルを学ぶことが出来る科目や講座を数多く準備しております。一緒に頑張りましょう！

保育所に多くの学生さんが内定しています。新型コロナ禍による不況で一般企業の求人が減る中、幼稚園教諭や保育士の人手不足は続いており、幼稚園免許・保育士資格を取得する学生さんは就職に有利と言えるでしょう。



皆さんは晴れて社会人となりそれぞれの道を歩んでいくわけですが、将来何が起こるかわかりません。皆さんが経験した新型コロナ禍は、まさにその象徴ではないかと思えます。卒業後も、ご自身のキャリアで相談したいことがあったら、ぜひキャリアサポート室に立ち寄っていただきたいと思えます。

学生支援チーム チームリーダー (就職) 水口 洋輔

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

2021年3月卒業生の就職活動は、新型コロナウイルスの影響を受け、たいへん難しいものとなりました。例年、採用活動を行う企業の広報解禁日は3月1日とされ、この日を境に選考が増加していきますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の不安が高まった時期とこれが重なりました。振り返れば、2020年1月15日に国内初の感染者が確認され、同年3月13日には新型コロナウイルス対策の特別措置法が成立し、4月には最初の緊急事態宣言が出されました。採用活動を行う企業側も対応に追われ、選考時期を延期したり、採用活動を中止する



ところもありました。選考をオンラインで行う企業も急速に増加したため、この時期に就職活動をしていた皆さんは、先行きが見えない不安や想定していなか

った選考方法に戸惑うことも多かったと思います。我々キャリア支援を行う職員に寄せられる相談も例年と異なるものが多く、いつにも増して情報収集に努めなくてはなりません。そんな中、粘り強く就職活動を続け、希望する就職先から内定を得た学生さんから内定報告を受けたときには、職員一同、喜びもひとしおでした。



求人が減少する中で、元々志望していた業界や職種から方向転換して就職活動を行い、内定を得た学生さんもありますし、初志を貫徹し卒業後も就職活動を続けるという方もおられます。いずれもご本人にとっては勇気のいる決断です。我々職員は、皆さんがどのような道を選ぶにせよ、ご本人にとっての納得感を大切にしながら、キャリア支援を続けて参りました。卒業後も相談したいことがあったら、遠慮なくご連絡いただきたいと思います。

キャリアセンター主催  
**11/27**  
17:00~19:00  
分野別  
キャリア研究講座

「知っておきたい社会保障の制度と現状」  
分業人材の需要が高まる日本社会において、福祉の現場がどのように変化するのか、また、企業等の役割と福祉の分野でのキャリアの重要性について、医療、介護、大企業、並行して多数の介護施設を運営している株式会社介護サービスが講師を務め、学びたいという講座です。ご講演として、社会保障の専門家として、会社を辞めたり、仕事で災害にあった場合等を知っている社会保障制度のお話をいただきます。

東キャンパス 5号館 405教室

ミニ講義 17:00~17:45 講師 TRAD社会保険労務士法人 代表 社会保険労務士 田畑先生

「こんなときどうする? ~所得保障からみた社会保障 Q&A」

メイン講義 17:55~18:55 講師 株式会社関西サンパ 経理課課長 松本美奈子 様

「社会福祉の現場と芸術との関係 ~介護施設の現状、高齢者施設での音楽療法による効果」

事前申込が必要です。学生・教員に限りなく要したくなりますが、申込多数となった場合、募集を締め切る場合がございます。実際にあたるは、万全のフォローを実施いたします。

申し込みQRコード

思いうろかに就職活動ができて14年度の皆さんへ

キャリアセンター  
**チャレンジ就職 背中押し大作戦**  
(2月17日~3月31日)

「思いうろかに就職活動ができて14年度の皆さんへ」  
皆さんのことをもっとサポート  
皆さんの悩みや不安が、少しでも解消  
皆さんの未来が、少しでも輝くように

↓ こんな方は、キャリアサポート室までご連絡ください ↓  
来年にせられ希望する求人が出てくるだろう    自分から求人を探すのが面倒くさい  
今さら方向転換しても志望職種が書けないうえ...    活活したいけど、気分が乗らぬ

どしどしアプターでもなんでもかかろう    就活したいけど、気分が乗らぬ

キャリアセンター紹介求人に応募する方には、履歴書を作成するところから、付きっきりでサポートします。ぜひご連絡ください。

career@nuu.ac.jp    0568-24-3962(東キャンパス)    0568-24-0329(西キャンパス)

5つの施策  
**キャリアセンター 就職応援55日プラン**  
2020年11月4日~12月28日

今年度はコロナの影響が大きく、企業は採用者数を減らしています。卒業生の就職が難しくなるとともに、求人は減りつつありますが、企業も求人を求めています。また、本年度、つまり今年の3年生の採用市場は今年よりも厳しくなることが懸念されています。つまり、4年生の皆さんは、年内にしっかりと就職活動をして内定を確保することが大切です。キャリアセンターでは、就職支援、元気に就活、明るいキャリア」というスローガンのもと、皆さんの就職活動を全力で応援していきます。

55日プランのスローガン  
**「悔しなく 元気に就活 明るいキャリア」**

①キャリアセンター委員の先生が全力でサポートします!  
就活活動は年が経れば難しく、みなさんの夢の実現のため、全力でサポートします! 思ったことがあっても、遠慮なく相談してください。~キャリアセンター委員会 委員長 一岡

②就活相談強化期間  
就職活動を続けている皆さんとの面談、求人紹介をさらに強化します。キャリアセンター職員から、メールおよび電話にて連絡しますので、できる限り返信等するようにしてください。

就職活動を続けている 学部4年生・修士2年生のみなさんへ  
キャリアセンター  
**チャレンジ就職 背中押し大作戦 求人紹介フェア**

実施 時間/場所  
**3/4**  
10:30 東キャンパス 1号館 キャリアサポート室  
12:30  
13:30 西キャンパス Y棟(事務棟) 2階  
15:30

↓ こんな方は、ぜひご参加ください ↓  
来年にせられ希望する求人が出てくるだろう    求人を探すのが面倒くさい  
今さら方向転換しても志望職種が書けないうえ...    活活したいけど、気分が乗らぬ  
どしどしアプターでもなんでもかかろう    就活したいけど、気分が乗らぬ

今年度中に決めましょう!  
付きっきりで応募支援!    最新の求人情報です!

【問い合わせ先】 キャリアセンター事務局(水口、伊藤)    TEL: 0568-24-3010    Mail: career@nuu.ac.jp

緊急 背押し就職 紹介会  
名古屋芸術大学 キャリアセンター  
新型コロナウイルス感染症でも東海地方で働ける 企業求人紹介フェア

非公開求人あります!    最新の求人情報です!  
人事担当者に直接連絡できます!

8/6 木    11:30 東キャンパス 2号館1階ロビー  
13:30  
8/7 金    11:30 西キャンパス 食堂前ロビー  
13:30

相談コーナー併設    ウイルス予防対策のうえ実施

キャリアセンターでは、日々、新たな求人の獲得に努めています。この度は、企業の人事担当から選定された内定した求人を、就職活動を続けている皆さんに紹介する機会を設けました。一般公開されていない求人、新しい求人もあります。また、皆さんのキャリアに合わせた、キャリアセンターから募集要項に直接お話しできることでもありますので、気になる方はぜひ積極的にご応募ください。

【問い合わせ先】 キャリアセンター事務局(水口、伊藤)    TEL: 0568-24-3010    Mail: supporter@nuu.ac.jp

学部4年生・修士2年生のみなさんへ  
名古屋芸術大学 キャリアセンター  
まだ間に合う! 名古屋芸術大学に届いた 企業求人紹介フェア

非公開求人あります!    最新の求人情報です!  
人事担当者に直接連絡できます!

10/22 木    11:00 西キャンパス 食堂前ロビー  
14:00  
10/23 金    11:00 東キャンパス 2号館1階ロビー  
14:00

相談コーナー併設    ウイルス予防対策のうえ実施

キャリアセンターでは、日々、新たな求人の獲得に努めています。この度は、企業の人事担当から選定された内定した求人を、就職活動を続けている皆さんに紹介する機会を設けました。一般公開されていない求人、新しい求人もあります。また、皆さんのキャリアに合わせた、キャリアセンターから募集要項に直接お話しできることでもありますので、気になる方はぜひ積極的にご応募ください。

【問い合わせ先】 キャリアセンター事務局(水口、伊藤)    TEL: 0568-24-3010    Mail: supporter@nuu.ac.jp

Challenge to the future BORDERLESS

## (就活最前線)

私

## が就職内定をもらうまで

芸術学部芸術学科芸術教養領域リベラルアーツコース

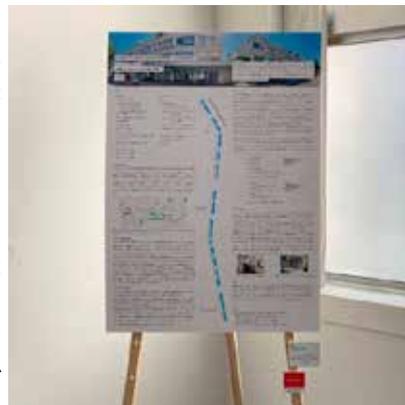
4年生 大竹菜実

私は、4年間芸術教養領域で学び、多様な考え方や視点があることを知りました。知らない物事をたくさん学ぶことができたと思います。自分自身も視野が広がり、多角的な視点で物事を捉えたり考えたりできるようになってきたと感じます。

自分の将来を考える上で、大学卒業後どうするか、どうしたいのか、様々な進路を考えました。就職をしないかも迷っていましたが、可能性を狭めないように就職活動の情報も集めながら、自分がやりたい事は何かを考えていました。

卒業後は、人の暮らしや地球環境、自然エネルギーについて考え、快適な住環境を提案するような会社に入社します。良いご縁があって、インターンシップに参加し、そこから内定をいただくことができました。会社の理念や働く環境に感銘を受けたのと同時に、大学で培った様々な視点から物事を捉え、柔軟に考えるということを活かすことができる仕事だと思います。元々、芸術を始めとしたクリエイティブなことに興味があり、卒業後もクリエイティブなことに関わってみたいと思っています。

ました。内定をいただいた会社は、自分の興味の範囲で調べている時には知り得なかったクリエイティブな思考で考える仕事の分野で、それにより興味の幅を広げることができました。



インターンシップが内定のきっかけ

就職活動時に限らず、チャンスがあった時には、まず行動してみることが大事だと感じました。また、世の中にはまだまだ知らないこともあるので、自分の興味がある範囲が決まっていたとしても、色々なことを見えるなど、新しいことにも目を向けてみると、自分の世界が広がると思います。芸術教養領域での学びを通して、自分自身で様々なことを考えるようになり、自分の気持ちを大切にすることができるようになったことで、この進路に繋がることのできたと思います。

(OMソーラー株式会社内定)

芸術学部芸術学科美術領域日本画コース

4年生 岩崎かりん

私は、今年度の教員採用試験において合格を頂き、春から名古屋市の中学校の美術教員になります。教授や、家族、友人に多方面からサポートして頂いた結果であり、感謝の気持ちでいっぱいです。合格を掴むまでを振り返り、大事だったと思うことを三点述べます。

第一に、名古屋芸術大学の教員採用試験対策学習会に参加したことです。これは教採対策のプロである教授方のご指導の元、筆記、面接試験の対策をするものです。私はこの対策会に2年の後期から参加しました。教育系の学部でない私にとって、同じく教員を志す友人ができたことはとても良い刺激でした。当時、なんとなく教員になりたい、美術の楽しさを伝えたい、と考えていただけで対策は一切していませんでしたが、学習会に入ってから勉強に身が入るようになりました。



難関教員採用試験に現役合格！

第二に、友人とモチベーションを高め合うことです。私の学習会の友人達は志望する自治体が違っていたため、有益な情報を交換したり、アドバイスをしあったりする非常に良い関係性でした。彼らの存在があったから最後まで頑張れたと考えます。彼らと何度もオンラインで面接練習をし、直前まで改善を加えていました。勉強は長期戦なので、一人で続けるのは困難です。同じ方向を向く友人との繋がりを大事にし、高めあってほしいと思います。

第三に、貪欲に学ぶことです。私は受かるために教授や、キャリアサポートの方、他学部の先生など多くの方々へ面接練習や、小論添削を自分からお願いするようしていました。学習会でも充実したサポートをしていただきましたが、プラスで自分に必要なものを見極め自ら行動することが大切だと思います。お忙しい中でも私たちの進路のために力を尽くしてくださる素敵な方ばかりなので、お礼は合格通知で、という気持ちで沢山行動し、吸収していくべきと考えます。また、外部の模試を受けたり、ボランティアに積極的に参加することで着実に合格に近づいた実感があります。

初めての就職活動は不安も大きいと思いますが、名古屋芸術大学の信頼できる先生方のお力を借りながら、みなさんが望む明るい将来のために努力し進んでいけることを祈っています。

(名古屋市公立学校中学校教諭内定)

## 芸術学部芸術学科デザイン領域メディアデザインコース

4年生 菊井紫乃

## はじめに

新型コロナ禍で「就職氷河期」再来と言われる中、私たち4年生('21卒)の就職活動は困難をきわめました。幸運にも私は、化粧品・日用品卸国内最大手、株式会社あらた(東証1部上場)グループで、ペット関連用品卸売業界でトップシェアを誇る総合商社、ジャペル株式会社に採用が決まりました。内定獲得に至るノウハウや体験をお話しする機会を頂きましたので、報告します。

## 就活はESから真剣勝負

エントリーシート(ES)→会社説明会→1次面接→SPIテスト→履歴書提出→最終面接と、企業は就活生の人物を見きわめ、選考を進めます。人事担当者は採用のプロ。ESの行間から就活生の本気度を見抜きます。私は自分の熱意を伝えるため、企業研究と自己分析を重ね、真剣勝負の気合いを込めて書きました。

## 面接の事前準備は徹底的に

1次面接と最終面接では、面接官の役職も質問内容も異なります。面接可否のポイントは、入社意欲の高さ、企業への適性や能力の有無、質問に説得力ある返答ができるかどうかで決まります。その場しのぎのアドリブでは絶対に無理。服装やマナーも要注意。志望動機、経歴、スキル、自己PR等々、面接は本番前に徹底的に練習してから臨みました。

## 猛勉強でSPIテストを攻略

SPI総合検査(学力テスト)の最難関は、やはり数学。これを突破しなければ最終面接には進めません。そのため私は3年次に『数学公式・定理集』と『SPI問題集』を購入

## 人間発達学部子ども発達学科

4年生 椿 夏美

私は愛知県刈谷市の保育教諭職(公務員)に内定をいただき、春から公立園に勤めます。

大学入学当初、私は公立園・私立園で迷うどころか、園に勤めるかどうか迷っており、なんとなく子どもと音楽に携わることができる職がいい、というぼんやりとした考えでした。2年生になり保育職には就きたいと決めたものの、公立だけは行かない!と決めていました。理由は硬い保育をしているイメージがあったから、という確証のないものでした。しかし3年生になり、真剣に進路を考え調べるうちに、確証のないイメージは消えて公立の良さ・私立の良さが分かるようになりました。そしてだんだんと、公立園で働きたい!という目標ができました。



「人との出会い」が就職の転機

就職先という点においてはなかなか目標が定まらないでい

し、猛勉強しました。その結果自分の弱点を克服でき、SPIテストを逆に得点稼ぎの強みに変え、勝機につなげることができました。

## キャリアセンターは最強の味方

就活の全期間を通じて私の最も大きな支えになったのは、キャリアセンターの存在でした。スタッフの教職員は全員が信頼できる就活のプロ。ES・履歴書の書き方、業界研究、自己分析、求人情報収集、インターンシップ、相談、アドバイス、模擬面接に至るまで、何から何までお世話になりました。

## 逆境を力に変えて

緊急事態宣言で就活は完全にストップ。お先真っ暗で焦燥にかられ、ストレスの重圧で心が折れそうになりながら必死に耐えました。キャリアセンターの緊急支援に助けられ、大学から頂いた特別奨学金で新しいリクルートスーツと靴を買いました。これでもう一度頑張れる、逆境を力に変え、再挑戦へのモチベーションを持続できました。

## 就職は人生の新たなスタート

就職は人生の夢(目標)の実現に向けた新たなスタート。晴れて入社の際には、名古屋芸術大学卒業生の誇りを胸に、「アート&デザインの力」で、世のため人のため社業発展のために貢献できる立派な企業人になれるよう、全力を尽くして頑張ります。あとに続く皆様のご健闘をお祈りします。

(あらたグループ ジャペル株式会社内定)

たものの、子どもと実際に関わる機会は常に持つようにはしていません。附属幼稚園での週1回のボランティアは大学1年からほとんど欠かさず通い、地域子育て支援センターにこここワークショップにもボランティアとして参加しました。そこでの体験は保育を面白いものと教えてくれ、保育職に就きたいという意思を確信に変えてくれました。

大学生活では「人との出会い」が就職の転機を与えてくれたように思います。入学当初に仲良くなった友人は私を積極的にボランティアに誘ってくれました。また、ボランティア先で出会った先生方は本当に優しく、未熟な私に沢山挑戦をさせてくれました。他にも短期留学で出会った仲間がセミナーを教えてくれたりなど、4年間継続して保育を学び続ける事ができました。そこで得た学びは就職活動や志望動機などにも大きく影響しています。

人間発達学部の在学生の皆さんには、是非やってみたいことにはなんでも挑戦してほしいな、と思います!そこで失敗しても成功しても次に繋げて経験に変えていき、そこで出会った人を大切にしていれば自分自身の糧にきっとなります。応援しています!

(刈谷市公立保育教諭内定)



履歴書に貼付した写真です



## 第1回後援会賞授与式が挙行政されました

2月26日(金)午後4時より、西キャンパスB棟2階大講義室において、第48回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞、第24回ブライトン大学賞授与式が執り行われ、今年から新設された「名古屋芸術大学後援会賞」の第1回授与式も同時に行われました。表彰式には菊井政右衛門会長はじめ役員9名が出席しました。

記念すべき第1回後援会賞の栄誉に輝いたのは、次の四名の方々でした。

- ・安藤祐実「何処へ」  
日本画コース4年生
- ・山口柚佳「笛を吹いてくれた」  
アートクリエイターコース4年生
- ・村上結輝「実芭蕉革製作所」  
スペースデザインコース4年生
- ・野島稚愛「たてものといきもの」  
スペースデザインコース4年生

受賞者の皆さんには、後援会から表彰状と副賞(5千円相当のクオカード)が贈られました。



受賞者と記念撮影

今年は残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言中のため、英国ブライトン大学代表団の来日は中止となり、さらに卒展のオープニングセレモニーも祝賀パーティーも中止となりました。表彰式後の写真撮影で、菊井会長から第1回後援会賞受賞者の皆さんにお祝いの言葉が伝えられました。



授与式会場

「本日はおめでとうございます。受賞された皆さんも、そうでなかった皆さんも、この卒展を最後に学窓を巣立ち、晴れて社会人となられた暁には、それぞれの分野で、名古屋芸術大学で培った〈ガイジュツの力〉を発揮し、未来に向かって果敢に挑戦してください。後援会はこれからもずっと頑張る皆さんを応援します。」

この他にも北名古屋市長賞(卒展優秀賞次席)、北名古屋市教育委員会賞(同三席)、同窓会、画荘ヴィーナス、学生食堂の各賞に加え、今年からさらに中日新聞社、朝日新聞社、CBCテレビなど、企業賞部門の新設追加も含めると全部で20もの賞が用意され、受賞者が発表されるたびに大きな拍手が巻き起こっていました。



作品選考中の選考委員のみなさん

### 名古屋芸術大学優秀賞

| 賞      | 領域                 | コース               | 学生名                            | 作品タイトル                            |
|--------|--------------------|-------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 最優秀賞   | 美術                 | 洋画                | 宇留野 圭                          | triptych study of the closed room |
| 市長賞    | 美術                 | 日本画               | 安藤 祐実                          | 何処へ                               |
| 教育委員会賞 | 美術                 | 洋画                | 有賀まなみ                          | 漂着するボロ                            |
|        | 美術                 | 日本画               | 安藤 祐実                          | 何処へ                               |
|        | 美術                 | 日本画               | 坂 菜尋                           | そっと                               |
|        | 美術                 | 日本画               | 岩崎かりん                          | 澄 明                               |
|        | 美術                 | 洋画                | 有賀まなみ                          | 漂着するボロ                            |
|        | 美術                 | 洋画                | 宇留野 圭                          | triptych study of the closed room |
|        | 美術                 | 洋画                | 大野 未来                          | アーモンド、鏡を見る                        |
|        | 美術                 | 洋画                | 金 里環                           | 風景                                |
|        | 美術                 | 洋画                | 小池 匡徳                          | reduction                         |
|        | 美術                 | 洋画                | 中崎 由梨                          | Idol                              |
|        | 美術                 | アートクリエイター         | 林 和実                           | ゆめのはなしについて                        |
|        | 美術                 | アートクリエイター         | 小栗みずき                          | regeneration of the magic kingdom |
|        | デザイン               | ヴィジュアルデザイン        | 西川 真衣                          | medama                            |
|        | デザイン               | ヴィジュアルデザイン        | 太田 洋哉                          | Strange Distance                  |
|        | デザイン               | ヴィジュアルデザイン        | 川瀬 真歩                          | WOE                               |
|        | デザイン               | ヴィジュアルデザイン        | 森嶋ひかり                          | どうしちゃったのさ森                        |
|        | デザイン               | イラストレーション         | 杉浦 芽生                          | 神様のペストショップ                        |
|        | デザイン               | イラストレーション         | 藤瀬 深月                          | うつせみのほし                           |
|        | デザイン               | メディアデザイン          | 影山 亜美                          | TENUGUI "National Flag" 日本文化と世界   |
|        | デザイン               | メディアコミュニケーションデザイン | 高橋 圭祐                          | 人間光合成                             |
| デザイン   | メディアコミュニケーションデザイン  | 長 巳智              | お菓子・組み箱(bloom)                 |                                   |
| デザイン   | インタラクティブ&セラミックデザイン | 小川 文華             | 知りたいをサポートする学習机                 |                                   |
| デザイン   | カーデザイン             | 藤澤 知成             | VIEW-Mugen                     |                                   |
| デザイン   | スペースデザイン           | 川合 由美             | Homing ~通学路に仕掛ける布~             |                                   |
| デザイン   | スペースデザイン           | 清水 祐作             | Life screen ~新たな生活を展開する~       |                                   |
| デザイン   | スペースデザイン           | 野島 稚愛             | たてものといきもの                      |                                   |
| デザイン   | メタル&ジュエリーデザイン      | 長谷川銀星             | 園                              |                                   |
| デザイン   | メタル&ジュエリーデザイン      | 伴 百合愛             | Madelon                        |                                   |
| デザイン   | メタル&ジュエリーデザイン      | 川村 侑己             | ラース・ドレック・ペキラモス                 |                                   |
| デザイン   | テキスタイルデザイン         | 道下 風沙             | × 生き物                          |                                   |
| デザイン   | ライフスタイルデザイン        | 科野 里佳             | 人間生きてるだけで偉すぎる                  |                                   |
| デザイン   | 文芸・ライティング          | 中井 夏希             | 橋福                             |                                   |
| 芸術教養   | リベラルアーツ            | 大竹 菜実             | 水上ビルとは何なのか・複雑に入り混じる水上ビルの魅力を紐解く |                                   |

### ブライトン大学賞

| 賞               | 領域            | コース               | 学生名   | 作品タイトル                            |
|-----------------|---------------|-------------------|-------|-----------------------------------|
| ブライトン大学賞(グランプリ) | デザイン          | ライフスタイルデザイン       | 科野 里佳 | 人間生きてるだけで偉すぎる                     |
| ブライトン大学賞(優秀賞)   | デザイン          | スペースデザイン          | 大谷 征司 | normal chair                      |
| ブライトン大学賞(奨励賞)   | 美術            | 洋画                | 宇留野 圭 | triptych study of the closed room |
|                 | デザイン          | スペースデザイン          | 村上 結輝 | 実芭蕉革製作所~banana leather factory~   |
| ブライトン大学賞(佳作)    | 美術            | 日本画               | 安藤 祐実 | 何処へ                               |
|                 | 美術            | アートクリエイター         | 近藤みこ乃 | Tsty                              |
|                 | デザイン          | ヴィジュアルデザイン        | 太田 洋哉 | Strange Distance                  |
|                 | デザイン          | メディアコミュニケーションデザイン | 飯島 健輔 | EAT + MAYO                        |
| デザイン            | メタル&ジュエリーデザイン | 長谷川銀星             | 園     |                                   |
| デザイン            | テキスタイルデザイン    | 道下 風沙             | × 生き物 |                                   |

### 後援会賞・同窓会賞・企業賞

| 賞                   | 領域       | コース       | 学生名                             | 作品タイトル                            |
|---------------------|----------|-----------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 後援会賞                | 美術       | 日本画       | 安藤 祐実                           | 何処へ                               |
|                     | 美術       | アートクリエイター | 山口 柚佳                           | 笛を吹いてくれた                          |
|                     | デザイン     | スペースデザイン  | 野島 稚愛                           | たてものといきもの                         |
|                     | デザイン     | スペースデザイン  | 村上 結輝                           | 実芭蕉革製作所~banana leather factory~   |
| 同窓会賞                | 美術       | 洋画        | 宇留野 圭                           | triptych study of the closed room |
|                     | デザイン     | イラストレーション | 山下みのり                           | GILS! GIRLS! SPIRIT!              |
| 朝日新聞社賞              | 美術       | 洋画        | 宇留野 圭                           | triptych study of the closed room |
| 中日新聞社賞              | 美術       | アートクリエイター | 鷹見 真友                           | watashi                           |
| CBCテレビ賞             | デザイン     | スペースデザイン  | 村上 結輝                           | 実芭蕉革製作所~banana leather factory~   |
| 画荘ヴィーナス賞            | 美術       | 洋画        | 中崎 由梨                           | Idol                              |
|                     | 美術       | アートクリエイター | 服部 真歩                           | 縄文から現代 芸術的なつながり                   |
| 学生食堂賞               | デザイン     | イラストレーション | 川瀬 万未                           | 〇〇3秒前                             |
|                     | 大学院      | 美術研究      | 新美 有希                           | サイハテマジナリウム                        |
| 美濃紙芸賞               | 大学院      | デザイン研究    | 王 唯成                            | LINE                              |
| 加藤画材店賞              | デザイン     | 美術研究      | 大見真里佳                           | 【見据える】                            |
| チャラーMOS賞            | 美術       | 洋画        | 高島 朋子                           | ロートレックとオリーブ園と                     |
| 5 R Hall & Gallery賞 | 森荘賞      | 美術        | 日本画                             | 坂 菜尋                              |
|                     | 美術       | 日本画       | 中川 詩織                           | 19626                             |
|                     | 美術       | 洋画        | 高島 朋子                           | ロートレックとオリーブ園と                     |
|                     | 美術       | アートクリエイター | 山口 柚佳                           | 笛を吹いてくれた                          |
| デザイン                | スペースデザイン | 村上 結輝     | 実芭蕉革製作所~banana leather factory~ |                                   |

## 後援会に感謝状 開学 50 周年記念事業「東キャンパス交流テラス」がオープン

2020年10月31日(土)午前10時30分より、名古屋芸術大学開学50周年記念事業「東キャンパス交流テラス」の完成を祝うオープニングセレモニー(渡り初め式)が開催されました。



川村理事長ご挨拶

式典は竹本学長によるご挨拶、ネーミング表彰(最優秀賞『TERA』と命名)が行われ、川村理事長から開学50周年記念事業への貢献により後援会に感謝状が贈られました。

引き続きテープカット、出席者全員による回廊の渡り初めが行われました。

同時にテラス1階にはお洒落なカフェ(ネーミング優秀賞の中から『Akkord』と命名)と、東キャンパス



テープカット

「アート&デザインセンター」が新たにオープンし、お披露目されました。

式典終了後インタビュー



完成した交流テラス全景(右奥にカフェとギャラリー)

に応じた菊井会長は、「大学(学校法人名古屋自由学院)から感謝状を頂戴するのは後援会史上初めての出来事です。今年は後援会にとっても大学と同じ創立から50年目に当たります。予定していた記念行事が軒並み中止となり、コロナ騒動で落ち込んでいた中で、本日の表彰は気分を一新し、後援会創立50周年に華を添えていただくことになりました。感謝状を頂戴したことは全後援会員の喜びであり、今後の後援会活動への大きな励みとなりました。後援会を代表して謹んで御礼を申し上げます」と述べました。



理事長から感謝状



参列役員の記念集合写真



交流テラス模型



感謝状



ネーミングのパネル

### 後援会へのお誘い

日頃より名古屋芸術大学後援会へのご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

後援会では、本学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援活動をおこなっております。会員のお子様方に有意義で充実した学生生活をお送りいただきたいという願いとともに、保護者会員同士の楽しい交流を図ります。大学や後援会行事を通して、学長・先生方から大学の方針について伺うことができるだけでなく、先輩保護者から貴重な情報を得られる機会もあり楽しく交流しています。

後援会活動を通しての学びが、未来への財産となりますよう。

後援会では、私たちと一緒に活動していただく仲間を随時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ先】

電話:0568-26-3355

FAX:0568-26-2101

E-mail:kouenkai@nua.ac.jp

名古屋芸術大学後援会

副会長(総務委員長)

矢野 章子



# 名古屋芸術大学近況報告

## 芸術学部芸術学科音楽領域

### ■ 声楽コース

声楽は多くの聴衆の前で歌う喜びと、声で人々の心に響き魅了することができた時の感動が魅力です。その意味で、今年度の声楽コースの公演や公開講座が、新型コロナウイルスの感染拡大にもかかわらず、滞りなく開催することができたことをとても嬉しく思います。

11月14日(土)と15日(日)に、今年度第5回目となる名古屋芸術大学と名古屋市西文化小劇場によるガラコンサートが開催されました。プログラムはオペラ「フィガロの結婚」と「魔笛」、オペレッタ「こもり」と「メリー・ウィドウ」の4公演でした。在学学生、卒業生、教員が一丸となって取り組み、2日間4公演 素晴らしい感動の舞台を創り上げました。

今回の舞台では、声楽コースだけでなく、進取の気風に富むミュージカルコースや声優コース、エンターテイメントディレクションコースも参加して、文字通りオール名芸の学生たちが結集して臨んだ公演でした。どの演目でも、学生たちは日頃の成果を十二分に発揮し、意欲溢れる舞台を披露して、満員の観客を魅了しました。名古屋芸術大学の新たな個性を遺憾なく発揮した舞台であったと言えます。



声楽コース 松波千津子

### ■ 鍵盤楽器コース(ピアノ)

今年度後期10月と1月にそれぞれ開催されました名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会・特別演奏会のソリストに、ピアノを専攻する二人の学生が抜擢され、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」、ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番を演奏致しました。温かいオーケストラメンバーに見守られ、また背中を押され、二人とも非常にスケールの大きい堂々たる演奏でした。これらの演奏会は、サウンドメディアコースの学生が中心となったチームによるオンライン配信が行われ、アーカイブがyoutubeに上がっております。「名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団」でご検索頂き、是非皆様にお聴き頂けますと幸いです。

演奏会配信が、コロナ禍によって導入された【オンライン】というツールにより可能になり、そのお陰で学生

達は別のコースの学生達との交流が盛んになったように感じます。コースの垣根を越えて、様々なプロフェッションを持つ学生同士のコミュニケーションが取れるのは本学の特徴であり、本学ならではの有意義な時間であると考えております。

そして、本学が日本で唯一の姉妹校となっておりますパリエコールノルマル音楽院におけるディプロマ試験では、コロナ禍により例年とは異なる審査形態となりましたが、本学から4名の学生が優秀な成績で合格しました。今回合格した学生も、今後ディプロマ取得を目指す学生も、視野を広く持ち、様々な経験を積んでほしいと思います。

さらに来年度も、特別客員教授の横山幸雄先生、上原彩子先生によるピアノ演奏解釈の授業と個人レッスンが行われます。

まだまだ世間は厳しい状況が続いておりますが、新型コロナウイルス感染終息後、横山先生の授業は再び一般公開の予定です。今後もより一層名古屋芸大が豊かな学びの場であるよう願っております。

### ■ 鍵盤コース(ピアノ) 戸田恵

### ■ 鍵盤楽器コース(電子オルガン)

どなたにとりましても難しい時代の中、後援会の皆様様が息災に過ごされておられることを、先ずはお祈り申し上げます。

忘れ得ぬ今年度の授業・レッスン・演奏会・試験が何とか終わりを迎え、納得のいく形に着地出来たことは奇跡的ですからございました。しかしこの「奇跡」はとりもなおさず、学生達の驚異的とさえ申して良い「粘り」と向学心/向上心の賜物なのだとして電子オルガン教員一同、認識をいたしております。前期はスタートの遅れを余儀なくされたものの、15回の実技レッスン(内、オンラインと2回分のレポート課題を含む)に学生は前向きに取り組み、単位を与えるに足る学習成果を示してくれました。大学側の慎重かつ効率的な対応のお陰で、後期、私達のコースはほぼ正常なスクーリングによる講義/レッスンを実施することができ、試験も正常に行えて4年生の首席/次席の学生も選抜・認定することが出来ました。

毎年夏恒例の電子オルガン・夏のワークショップこそ、私がYouTubeにて行った単独の講座を以て代わりといたしましたが、定期演奏会は開催が出来ました。音楽領域主催の定演(@しらかわホール)への出演(電子からは三名)はもとより、電子オルガン専攻生の定期演奏会『アースエコー2020』も然り。時期は10月頭に移しましたが、本学3号館ホールにおきまして限定公開で開催。出演者はオーディションにより選定したものの、

それに漏れた学生達をアンサンブル要員として登用。全員参加の形で12月初旬からYouTube配信でも公開をいたしました。

毎年、通常の状況でも気になる卒業生の就職状況ですが、今年度の卒業生は七名全員の行き先は決まり、ホッと胸を撫で下ろしております。

この1年は幾度も申し上げますが学生達の素晴らしい努力により、結果的には良い形で終えることができました。学生達がそのような力を存分に発揮してくれたのも、各々のご家庭においての皆さまのサポートは大きかったと愚察し、感謝いたします。ワクチンの普及も徐々に進んでいくこととおもいます。これより迎える来年度が、今年度の試練を礎に歩む我々全員にとりまして、克服していけるものでありますように。

**鍵盤コース(電子オルガン) 鷹野雅史**

### ■ 弦管打コース

本年度はCOVID 19対策による多くの制約の中前期に予定されていた演奏会等の催しが全て延期もしくは中止となりました。

後期に入り、感染対策をとりながら10月22日に名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第5回定期演奏会がしらかわホールにて行われました。古谷誠一氏の指揮でベートーヴェンの『皇帝』と『英雄』という大曲を揃えてのプログラムでしたが、中でもピアノ協奏曲『皇帝』のソリスト本学大学院在籍中の太田糸音さんの完璧な技術の上に成り立つ至高の芸術に惜しみない拍手が送られました。

11月15日、昨年に引き続き行われたアートマネジメントコースとのコラボ『音楽の森』はベートーヴェン生誕250年にちなんだ企画で、とても楽しいコンサートとなりました。

11月22日に催された室内楽の夕べでは弦管打コースからオーディションで選ばれた6組が出演しバラエティーに富んだ内容の演奏を披露してくれました。

12月17日に行われた名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第6回定期演奏会は指揮の井村誠貴氏によりモーツァルトの『魔笛』序曲・『雀のミサ』・『ジュピター』交響曲が取り上げられ、中でも名古屋芸術大学ハルモニア合奏団との共演となるミサはお客様の心に響く演奏に多くの拍手が寄せられました。

年が明けてからの1月9日に行われた名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ第39回定期演奏会に関してはウィンドアカデミーコースのコラムにて紹介します。

1月29日に行われた本学学生とフィルハーモニー管弦楽団との特別演奏会では授業の成果を發揮すべく指揮の高谷光信氏(本学教員)のもと、熱演が繰り広げられました。ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番はソリストに抜擢された瀧澤俊君(学部2年生)とオーケストラ側の各ソロとの見事な掛け合いに聴衆も引き込まれました。また、ブラームス交響曲第1番は実に神々しい演奏に拍手が鳴りやみませんでした。

### 弦管打コース 竹内雅一

### ■ サウンドメディア・コンポジションコース

本コースの学生は、音楽制作・録音・音響を学びながら、新しい時代の音楽とテクノロジーと芸術の関わりについて考え、作品制作に取り組んでいます。今年度の後期は、コロナ禍の中、それをはねのけるかのように多くの活動を行いました。特に様々なコンサートのライブ配信は、ほとんどの学生は初めての状態から始めましたが、勉強、研究しながら、音楽的な音で配信する知識を高めていくことができました。

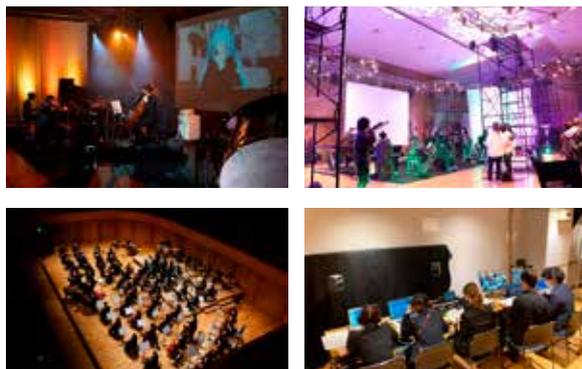
授業以外の活動として、音楽制作では、名古屋高速道路公社と本学の開学・設立50周年を記念してオリジナル曲「君と行きたい」を夏休みに制作しました。本コース学生は作曲、録音を担当しました。

録音では、名古屋・大須を拠点に活動するダンス&ボーカルグループ、Cool-Xの新曲「My Friend feat. SEAMO」の録音の一部を夏休みに本コース学生有志が担当し、完成したミュージックビデオは、10月14日に公開されました。また、弦管打コース、ウィンドアカデミーコースのコラボ企画として、10月24日(土)・25日(日)、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラのセッション録音を3号館ホールで行いました。今後音源を公開する予定です。

ライブ配信としては、10月22日、12月17日(木)、2021年1月29日におこなれた本学オーケストラのコンサートのライブ配信を本コース学生有志が担当しました。

また、毎年コースで一丸となって取り組んでいるアートと音楽の有機的結合をめざすコンサート「カレイドスコープ」は、コロナ感染予防のため配信のみで2月13日(土)で本学2号館大アンサンブル室より行いました。本コース学生による音楽制作・PA・配信・録音はもちろん、エンタメコースによる照明演出、メディアデザインコースによる映像演出、声優アクティングコースの学生による司会など、コース・領域を問わず、学生の自由な発想力で演奏会を構成しました。今回は、コンサートライブ配信の新たな可能性を探るために、通常ステレオとバイノーラル・ステレオによる立体音響の2種類の音声で配信しました。以下本コースWebページにて視聴可能です。ぜひご覧ください。

<http://soundmedia.jp/>





サウンドメディア・コンポジションコース 長江和哉



ミュージカルコース 塚本伸彦

### ■ミュージカルコース

日頃より多大なご支援をいただき、ありがとうございます。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業で始まった波乱の一年であり、特に歌唱やダンス、演技といった実技系を中心とした授業の多いミュージカルコースにとってはとても厳しい幕開けでした。対面授業が再開されてからも、集団でのレッスンについてはかなりの制約があったため、個人レッスンに切り替えるなどの対応をし、学生たちにとって少しでも良い学びの環境を維持できるよう努めました。

また、人前でパフォーマンスをする機会も極端に減ってしまった為、学生たちと共に“新しいエンターテインメントの形”について考える1年となりました。

その成果として、2020年9月25日にはエンタメコースの全面的な協力のもと、3年生によるパフォーマンス「SHOW IS OUR LIFE」をYouTube上でライブ配信いたしました。3号館ホールを使用し、学生たちにパフォーマンスの機会が与えられるとともに、通常の公演では観てもらう事が難しい東北や北海道、九州などからも視聴していただけた様で、可能性の広がりといった観点からもとても有意義な公演であったと思います。

そして2021年2月9日、10日には3号館ホールにてミュージカル公演「ALICE the Musical」を行いました。非常事態宣言の発令される中での厳しい環境でしたが、無事公演を行う事ができ、学生たちも体調を崩す者も無く伸び伸びと演じ、またご来場いただいたお客様には大変好評をいただきました。

来年度からは現場に即したより実践的な新カリキュラムも始まります。どうぞご期待ください。



### ■エンターテインメントディレクションコース

今年度は、当初から新型コロナウイルス感染拡大防止のために様々な行事が中止となる事態となり、業界では「配信」という形で、多くの皆さんにコンサートなどを届ける手法が定着していきました。

そのような中、後期からは各コースの公演が予定されていましたが、やはり配信という形で公演を披露したいという声が多く、エンターテインメントディレクションコース（以下エンタメコース）でも「配信」に対応するべく、夏休み以降、専門的な講座を設け、学生たちに少しずつ知識をつけてもらいました。

まず、最初に迎えた配信の本番は、10月17日（土）に名古屋東別院で開催された「越中八尾 おわらの夕べ」でした。これは、富山県の八尾の町に古くから根付いている旧盆の習わしを、未来へと継承していく意図で毎年開催されているものです。通常ならば、お客様を動員して観覧していただくはずでしたが、コロナ感染防止拡大の観点からオンライン配信となりました。

雨が振り、肌寒い中、学生たちは朝9時から仕込みに入り、教員指導のもとで本番に備えました。定刻となり配信が開始され、いつもとは違う緊張感の中、公演は無事に終了しました。

こちらが当日の配信の様子ですのでぜひご覧ください。  
<https://www.youtube.com/watch?v=kek0NOMja44&t=318s>

このおわら風の盆をはじめ、2020年度後期。エンタメコースは、充実すぎるほど充実した日々を送ることができました。



まず、最初の公演は、9月25日（木）の「ミュージ

カル2年生公演」。次に「おわら風の盆」の開催の後、11月14日(土)と15日(日)に西文化小劇場で開催された「オペラ公演」。なんとこのオペラ公演と同日には「声優コース2年生公演」が大学の3号館ホールで開催され、異なるチームが別々の現場を担当し、機材の不足などの問題が生じるなか、見事に無事終演させることができました。次に控えるのは12月5日(土)の「ミュージカル3年公演」。このような数々の公演が行われ



る中、エンタメコース4年生は、4年間の集大成となる「卒業公演」の準備を夏休み前からはじめ、まもなく本番を迎えようとしていました。12月26日(日)。客席を制限してお客様を入れることと同時に、配信でも観劇できる設定で公演を行いました。演目は「朗読劇 #注文の多い料理店」。この公演は宮沢賢治の「注文の多い料理店」が原作ですが、脚本、制作は完全オリジナルで、当日のスタッフも全て4年生が行いました。チケットは早々と完売し、当日設定した客席は満席となり、盛況の中、終演することができました。この卒業公演の様子はこちらからご覧ください。

[https://www.youtube.com/watch?v=jA\\_nakglai0](https://www.youtube.com/watch?v=jA_nakglai0)  
(29'30"から本番動画となります)

エンタメコースは年が明けても本番が続きました。北名古屋市との連携事業で、12年間続く「ザ・ベストテンコンサート」です。こちらも今回は無観客で映像収録をし、編集後に配信という形で行いました。今回の出演者は卒業中心ではなく、ボーカル、ダンスともオーディションで選ばれた様々なコースの学生メンバー。こちらは動画配信の結果、のべ4617件もの視聴があり、自治体と本学の活動を多くの方々に見ていただけました。



まだまだエンタメコースは落ち着きません。年明け、この新年のザ・ベストテンコンサートを皮切りに、「ダンスパフォーマンスコース修了公演(1月24日)」、「ミュージカル卒業公演 アンダー公演(2月3日)」、「ミュージカル卒業公演 本公演(2月10日)」、「サウ

ンドメディアカレイドスコープ(2月13日)」次々といくつもの公演をこなし、2月24日には「エンタメコース3年修了公演 エール」という自主公演を開催しました。これはラジオ番組仕立てのロックコンサートで、昭和、平成、令和の楽曲を披露するという形でした。コロナ禍の中で頑張っている皆さんにエールを送るという趣旨の公演で、エンタメコース3年生のオリジナル公演でした。

この後、ポップス・ロック修了公演(3月6日)を控えていますが、この後期に17の公演に携わったことになり、2週間に1度は公演の現場を経験していることとなります。この様に外部との連携公演や、音楽領域の様々なコースの公演に携わっていますが、学生たちにとっても日頃の授業等で身につけた技量の実践の場として、重要なアクティブラーニングの場となっていることは確かです。

次年度も多くの公演が予定されています。コロナウィルス感染拡大防止対策を励行し、安全でより良いステージを皆さまに提供できるよう、エンタメコース学生達は頑張ります。今後のエンタメコースにご期待ください。

エンターテインメントディレクションコース 金子靖

#### ■ ポップス・ロック&パフォーマンスコース

2020年年末から2021年年始の間、自粛を守った生徒さんたち、リモート講義、対面授業、セッション授業等、3蜜を避け行ってきました。

- ①それぞれの楽器の向上 担当の先生と課題曲を後期試験に向けて、音楽理論、アドリブの内容、ボーカルの場合にはボイストレーニング、歌い方、歌心等。
- ②音楽理論の習得 イントロ、エンディング、作曲、アドリブ等を考える。
- ③リモート講義 いろいろなジャンルの音楽、それぞれの音楽ジャンルの歴史(ポップス、ロック、ジャズ、ファンク、ブルース、フォーク)聴き学ぶ。先生と生徒さんとの当日リハのみの即興演奏を行い、ライブ演奏をリモートで講義中のなかへ取り入れ、ディスカッションを行い新しい考え方や歌心を知る。自分の楽器演奏にもつなげることに役立っている。
- ④①～③で習得した歌心をセッションの授業で発表(合奏I～IV)

クラスは6クラスあり、林先生のジャズ、山下先生のポップス、ジャズ、ラテン、石原先生のジャズ、ポップス、荒川先生のラテン、ジャズ、栗木先生のロック、ポップス、ブルース、渡邊先生のファンク、ジャズ、ポップス、以上となっておりますがどの先生もジャンルには柔軟な対応をしてくれます。自分の好きなクラスで日頃の成果をバンド形態で発表しています。1月14日NUAステーション発表会では6クラスともここぞとばかりライブ演奏を楽しみました。1月21、2日はそれぞれ専科8単位の試験でした。生徒さんそれぞれ1曲ずつ後期でしっかりレッスンした曲を披露しました。緊張してしまったり間違えてしまったり、ノリノリだったり、それぞれ満足だったり後悔だったりいろいろありました。今

回はポップスロック&パフォーマンスコースのアンケートボックスも試験会場にあり、①本学で卒業までに習いたいこと、もしくはジャンル ②卒業までの本学での目標 ③卒業してからの目標 ④その他 生徒さんたちが思っていることや心構えをしっかりと書いてもらいました。



ポップス・ロック&パフォーマンスコース 渡邊規夫

### ■ エンタテインメントディレクションコース&アートマネジメントコース/アートマネジメント選択

アートマネジメントコースは、文化施設を主なフィールドとして、文化政策や企画制作、文化施設運営の分野で活躍できる人材、つまり“プロデューサー”、ディレクター、となる人材の育成を目指し、理論と実践のバランスをとりながら教育活動を行なっています。大きな特徴は、数多くの「現場」に恵まれ、実践的に学ぶ環境が整っていることです。

しかし、今年度は新型コロナウィルスの感染拡大による非常事態宣言下で、通常の対面での授業ができない不自由な学びを余儀なくされたスタートでした。オンラインでの授業やミーティングに手探りした前期を終え、後期は少しずつでもその環境を活用していこうという前向きな気持ちで取り組むことができたのではないかと思います。新しい歩み方をした後期の取り組みをご紹介します。

#### ・4年生

卒業制作:経験したことのない緊張を感じながらも「卒業制作公演をやりたい!」という思いを支えに慎重に準備し、10月24日に無事に卒業制作公演を実施することができました。今年度は、インターンシップでお世話になったかすがい市民文化財団での経験に基づいて、文化フォーラム春日井での落語公演「[ŽO—V'āŽu,ŕ%ì—ŽĈé%ì]」。足りない資金をクラウドファンディングで集めたり、通常とは異なることに注意を払いながら広報活動を行ったり、さまざまな苦労をしながら無事に終了することができました。

卒業論文:  
夏ごろからフィールド調査やヒアリング調査を行い、卒業制作



公演の後に本格的に執筆に取り掛かり、その後、年末年始の追い上げで完成。慣れない文章表現の苦勞が身を結び、1月には卒論発表会を実施することができました。

#### ・3年生

企画プレゼン:自分の住んでいる町にはどのような文化施設があって、どのような活動をしているのだろうか。そして、それらはもっともっと良くなることはできないのだろうか、という発想を起点に企画を立てました。それは3年生らしく、地域の文化政策に注目したり、エリアのニーズを考えたり、事業の採算を考えたり、効果的な広報を考えたりと、夢を実現させるための企画。そして、その企画のプレゼンテーションは、「芸術を理解してくれない上司を説得する」というユニークな視点でした。



ポスター発表(卒業研究):次年度に執筆することになる卒業論文のためのテーマ探しは、日頃「なぜ?」と思うことを深掘りし、その謎を解いていくためのロジックを立て、そのための方法を考えていくこと。文化芸術の範囲の広さを感じることができます。4年生の卒論発表会の教室で、ポスターを掲示しました。

#### ・2年生

音楽の森:昨年の2年生が初めて企画した「音楽の森」(大学近隣に住む子どもたちを対象にした大学主催の地域貢献事業)を、今年の2年生が引き継ぎました。2020年はベートーヴェン生誕200年だったので、「ベートーヴェンのバースデーコンサート」と銘打ち、作曲家の素顔に迫りながら、子どもたちに知って欲しいベートーヴェンの凄さを伝えられるようなワークショップを考案しました。感染症対策のための人数制限下ではありながら、満席のお客様にお楽しみいただきました。



#### ・1年生

スタッフ体験:初めてのアートマネジメントの学びは、基礎用語の暗記や法制度の仕組み、実務の色々など座学で学ぶことがたくさんだった1年間でしたが、担当の先生の勤務する幸田町民会館にてスタッフ体験をする機会に恵まれました。実際に劇場スタッフのお手伝いをする中で、一つの企画が形になっていくことを実感することができました。

このように、アートマネジメントコースは、常に理論と実践の両輪を心がけ、夢と実現の両立を心がけ、教員と学生が一体となって学びを創っています。今後とも、講演会の皆さま



まにはご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### エンターテインメントディレクションコース&アートマネージメントコース/アートマネージメント選択 梶田美香

#### ■ 声優アクティングコース

声優アクティングコースは、今年度で3年目を迎えました。生徒達は90人近くに増え、とても活気のあるコースとなっています。

さて、2020年にご承知の通り、コロナ禍で、前期のほとんどがオンライン授業となりました。声優コースの授業の中には、声楽やダンス、殺陣などの、対面でなければ教えるのが難しい授業も多くありましたが、各々の先生方が工夫をして下さり、オンラインでも充実した授業を行う事ができました。

そして、後期には対面授業となったので、感染対策をしっかりとしながら、特別授業や修了公演を、無事に開催する事ができました。まずは特別授業ですが、昨年から引き続き、特別客員教授の郷田ほづみ先生に、1年生を対象とした、アニメのアフレコ授業を行って頂きました。現役声優ならではのテクニックやダメ出しを聞く事ができ、生徒達にとって大変刺激のある授業となりました。



次に、今年度から特別客員教授になって頂いた、ナウシカ役などで有名な島本須美先生に、2・3年生を対象とした特別授業を行って頂きました。第一線で活躍されてきた声優ならではの、発声や役作りの方法、さらに進路相談なども行って頂き、生徒達はみな感動した面持ちでした。



修了公演としては、まずは2年生の2.5次元朗読劇「手塚治虫『百物語』」を上演しました。昨年も上演し、劇中の生演奏やライブペインティングも含めて大変好評だった為、今回再演となったのですが、昨年以上の盛り上がりで、とてもクオリティーの高い舞台を作り上げる事ができました。



そして1年生の修了公演は、今回初の3部制となりました。1部では、平光授業の発表会として、7本のアニメーションを上映し、生徒達が舞台上



で生アフレコを披露するという物でした。声優コースの誇る「声」の良さが、いかに発揮された発表となりました。

2部では、福満授業の発表会として、短編ミュージカルを2本上演、3部のまほろば授業の発表会では、ライブ上演として、今流行している楽曲の歌とダンスを披露しました。



Aクラス・Bクラスの対抗戦と銘打って行われた公演でしたが、最終的には両クラス大変盛り上がり、お互いに称え合う、素晴らしい公演となりました。



来年度も声優コースは、新たに30人ほど生徒が増え、さらに盛り上がっていく事は間違いありません。今年度より来年度、さらに次の年度へと、どんどん新しい事に挑戦し、より素晴らしいコースへと成長していきたいと思っています。

声優アクティングコース 平光琢也

#### ■ ダンスパフォーマンスコース

頭から足先、指先まで身体を使い切り、スタジオ狭しと動き回る。周りの空気を動かし、音楽、仲間の呼吸を感じて踊る。その当たり前の授業が、いかに楽しく大切かを改めて感じられた1年でした。

オンラインから対面に切り替わっても、暫くは覇気がなかった1年生でしたが、修了公演において発表する作品に取り組み始めてからは、自主的に練習する時間も増えてきました。そんな学生達にとって、大きな刺激となったのが、特別客員教授のケント・モリ氏、特別講義です。今年度はコロナ禍において、12月17日、1月7日に連続して2回でしたが、何よりも、情熱、意欲の大切さを熱く伝え、喝を入れて頂きました。

そして1月24日、ダンスパフォーマンスコース第2回修了公演「DANPA!」～ MoveForward～ 1年14名、2年9名、計23名で一体感のあるダンスを披露する事が出来ました。中でも、今年度より、週一回、授業に加わりましたタップでは、ほぼ全員が初心者から

のスタートでしたが、作品の中で全員から1年間の成長が感じられました。



来年度からは、更にコンテンポラリーや日舞の授業も加わります。様々なジャンルを意欲的に学んで吸収し、益々の成長に期待したいと思います。



今回も、照明、音響、舞台制作をエンターテインメントディレクションコースにサポートして頂き、修了公演を開催する事が出来ました。また、公演当日には、後援会様よりお花を頂戴しました事、大変有難く感謝申し上げます。

ダンスパフォーマンスコースから、ベストテンコンサート、エンタメやミュージカル修了公演等に、数名のメンバーが参加させて頂いておりますが、名芸ならではの様々なパフォーマンスの機会には、貪欲にチャレンジを続けて欲しいと思っております。

ダンスパフォーマンスコース 古賀明美

### ■ 音楽ケアデザインコース

後期に入り、十分な対策を行っただけでの対面授業が実現できるようになりました。しかしながら、本コースの施設実習では高齢者施設をはじめ、外部の福祉施設等にお世話になっているため、引き続き例年のような訪問音楽療法実習の実現には至りませんでした。しかしながら、施設との話し合いの中で、子ども領域と高齢者領域では音楽療法DVDを作成しお届けするという方法で、成人領域ではオンラインで大学と施設を繋ぎリアルタイムで行うという方法で、ある意味新しい形態の音楽療法を実施することができました。画面を通して対象の方々とのコミュニケーションを取るか、各実習グループでこんなにも考え綿密な準備をした年はなかったように思います。



8月14日に行われた、「卒業生の現場第2回」のオンライン配信は、先輩どうしの対談を、それぞれが家で聴くという新たな試みでした。それぞれがなぜ音楽療法に携わるようになったか人生についても語ってもらうという、これまでになかった内容でしたが、学生にとって今後の進路に思いをはせる貴重な機会となったようです。10月29日には、「卒業生の現場第3回」の拡大版として、福祉施設で音楽療法士として働く卒業生、原田さんと、彼女が勤務する施設の代表日下部さんに実際に大学にてお話をお聞きすることができました。福祉事業からみた音楽療法の可能性や、音楽療法を中心とした施設を作っていく過程について、また音楽療法を仕事にすることについて必要となることなど、お話は多岐にわたり、こちらの講座も学生の将来を考える貴重な時間となりました。



2月17日には、無事卒業論文発表会を執り行うことができました。4年生それぞれが、大変内容の濃い発表を堂々と行い、教員としても胸の熱くなる思いでした。これからのそれぞれの道において、関心のある事柄について調べまわって発表した一連の経験が活かせることを心より願います。



2月21日には、今年度唯一といってもよい本コース主催のイベントを行いました。毎年開催しているクリスマス会や、参加させていただく地域の集いなどは軒並み中止となる中、全員が集まり、一年生を迎え四年生を送り出す会を無事行えたことは、学生、教員共に忘れがたい思い出になると思います。

Facebook公式ページも随時更新しておりますので、ご覧いただくと大変うれしく存じます。<http://www.facebook.com/meigei.music.therapy.caredesign>

音楽ケアデザイン 伊藤孝子

### ■ ウィンドアカデミーコース

昨年度始動した本コースは13名の1期生に加え本年度

入学の2期生が20名加わり吹奏楽の小編成を構成できる様になりました。コースの授業は「吹奏楽指導」「管楽器リペア」「指揮法」「楽器奏法」という4つの柱があり、2学年になったことによりそれらの学びをより追求していく環境が整ってきました。

後期最初の取り組みは9月に開催する予定だったウインドオーケストラの定期演奏会(弦管打合同)が中止になったため、その代わりとして10月23～25日の3日間で弦管打コース、サウンドメディアコース合同で吹奏楽のレコーディングを行いました。本学特別客員教授の鈴木英史先生にも指揮を振っていただき吹奏楽の名曲10曲を収録しました。

後期の中心的な取り組みになるのは昨年度同様、年度末に演奏会を開催し、それに向けて学生それぞれが役割を受け持ち運営などに取り組むことでした。

チラシ作りやSNSなどを利用した広報活動、エキストラの依頼や謝礼の設定などのマネジメント要素や、プログラムを選曲や指揮を振り楽曲を作り上げる音楽的要素な

ど、演奏会を作る上で必要な要素から様々な学びを得る事ができました。また学生一人一人が自分の得意な部分を把握して役割を果たす事でそれぞれの個性を引き出す事ができました。

「ウインドアカデミーコース第2回定期演奏会」は2021年2月27日に本学3号館音楽講堂において開催しました。昨年度同様新型コロナウイルスの影響はありましたが、客席数を減らし同時にライブ配信を行う形で実施することができました。昨年度は無観客、ライブ配信のみでしたので、コースの演奏会としては初めてお客様を動員しての公演となりました。2年次生は2回目ということで運営面でも演奏面でも昨年より充実したものとなりました。

その他の活動では弦管打コースと共に2021年1月9日に中止になっていた「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第39回定期演奏会」を本学3号館音楽行動において行いました。コロナ対策を行いながら合奏を行い演奏会まで開催出来たことは大きな成果となりました。

ウインドアカデミーコース 遠藤宏幸

## 芸術学部芸術学科美術領域

### アートラボあいち[TASK]展

アートラボあいち(愛知県名古屋市)での名芸企画展として洋画コースの教員たちによる「TASK」展を開催しました。来年度から新設される現代アートコースの紹介とともに、アーティスト、キュレーター、インストラーなどアートの現場で活躍する教員たちの仕事を紹介しました。国内未発表の作品や新作などが展示され、学生や一般来場者に向けて名古屋芸術大学の教員の作品や仕事に触れる貴重な機会となりました。



「TASK」展 展示の様子 撮影 | 城戸保

### 開発フェス Re : Creation

今年度の洋画コース3年生の課題のテーマは「環境／開発」でした。コロナ禍でさまざまな状況変化がある中で、大学生活も通常通りとは行かない1年でしたが総括として3年生の有志が中心となり「開発フェスRe : Creation」を開催しました。中庭にある芝生のエリアを耕して、じゃがいもの種を植えました。耕す=Cultivateは、文化=Cultureの語源となる言葉。このような困難な時代においても、創造

の希望を持ち続けられるように、春には、新芽が顔を出し、収穫ができる日を期待しながら、フェスティバルを終えました。



### 土屋禮一先生の作品講義

日本画コースでは特異な社会状況下にある学生たちに充実した環境を整えるため、客員教授の先生方に特別講義をお願いいたしました。

土屋禮一先生による卒業修了制作作品講義においては、各自のテーマに対する意味や、画面としてそれをどの様に展開させるか等様々な質問疑問への答えを導いていただく良い機会となりました。



土屋禮一先生による卒業修了制作作品講義の様子

### 立島恵先生の講義

オンライン開催による立島恵先生の現代日本画講義は、時代性を捉え 個を表出させた現代作家の作品解説を中心にその作家性について考えました。学生たちにとっては描く意味を自問する良い時間になりました。



立島恵先生による現代日本画講義(オンライン)の様子

## 芸術学部芸術学科デザイン領域

今年度後期も新型コロナウイルス感染症拡大防止のための措置として、講義系科目は前期に引き続きオンラインで行われ、実技科目のみ3密を避けながらガイドラインに沿って対面で行われました。学外での授業や直接的な体験などは思うようにできないなか、各コースで試行錯誤しながら学びの機会を失うことのないよう進めていきました。

デザイン領域の1,2,3年生にとっては、レヴューが1年間の自身の制作を振り返り、展示や講評、公開による一般の方からの反応などが、次の制作に繋がる機会になっています。今年度は受付で体温測定を行うなど感染対策を行いながら開催しました。



1.2.3年の全学年レヴュー

2020年度卒業制作展も感染症対策を行いながら大学学内で2月18日から28日まで、直前まで授業で使用していた教室などを学生自らの手で展示空間へと作り替え作品発表を行いました。今年度は自分と向き合う環境が例年と違うこともあってか、テーマ設定がより内在的な部分からスタートし、社会へ向けての強いメッセージが込められた作品が多く見られたと思います。



学内開催の卒業制作展

デザイン領域では来年度からALPs(超域創造プログラ

ム)として、デザインとは本来結びつかないような分野との関わりから新しいデザインの方向性を探っていくようなプロジェクト型のプログラムが始まりますが、今年度その導入として、飛騨ワマの林千晶さんにFabCafe Nagoyalにお越しいただいてトークを行ったり、守山区の小幡緑地で進行中のキャンプサイトの原寸モックアップを学内に作ったりなど活動が始まりました。



### ■ ファウンデーションからの報告

●本年度は、4月の大学生としてのスタートのタイミングで、新型コロナウイルス感染症の全国的拡大があり、入学式やファーストイヤー・セミナーをはじめとした行事の中止が急遽決まり、実技授業がオンライン化されるなど大きな変化を余儀なくされました。6月からは実技授業は対面方式が始まりましたが、学生の皆さんには様々な制約もありました。そうした難しい環境のなかで、大学生活の一年を過ごすこととなり、当初は初年度の重要な学びの機会を十分に与えられるだろうかと心配をしていました。しかし年度を終えたいま感じるのは、1年生の皆さんの底力です。後期に入り、学生同士がコミュニケーションを取り切磋琢磨できるようになると、それまでの不足を取り戻すように、皆で力をつけていったように感じます。1月にはレヴュー展に取り組み、一年間の課題や自主制作物をそれぞれに割り振られたブースに展示しました。

大学入学後に皆で模索した成果をそれぞれ一覽して振り返る良い機会となりました。大きな時代の変化が起こるそのときに大学生活をスタートした1年生の皆さんと、今後も新しい時代の新しいデザインの可能性を探っていきたいと思います。



ソーシャル・ディスタンスシート ワークショップ

### ■ ビジュアルデザインコースからの報告

昨年に引き続き2月5日～10日まで、名古屋城の本丸御殿 孔雀乃間を会場に行われました。

「名古屋城の本質的価値を伝える」をテーマに24人が様々な着眼点、表現方法でデザイン提案を行いました。今回はメディアコースと協働してVR技術を使い展示空間をオンライン上で3Dとして体験できるようにもしました。新聞やテレビなどのメディアにも取り上げられ、コロナ禍の中でしたが、期間中に約1,400人ももの来場がありました。



#### ◎ ナゴヤ展継続事業

2019年度ナゴヤ展の継続事業として、4年生の森島ひかりさんの作品「石垣のぬいぐるみ」が名古屋城×名古屋芸術大学×認定NPO法人ポパイとの協働で商品化されます。

2021年3月の名古屋城春祭りにて発表され、名古屋城の新しいお土産になる予定です。先行してメディアの取材もあり2/24の中日新聞朝刊に取りあげられました。

#### ◎ ブランディング

3年生が前期課題で取り組んだ「ブランディング」の展示を10月7～12日までXギャラリーで行いました。

4つのグループが、アイデア出し、ディスカッションを経て世の中にあったら良いと思う架空のブランドを設定し、市場の調査、分析からコンセプトを組み立て、ネーミング、ロゴマーク、サービス、商品パッケージ、広告、プロモーションツール、展示までの一貫した企画制作を行いプレゼンテーションをしました。

前期はオンラインの授業が多く、グループ間のディスカッションやミーティングもオンラインでしたが、密度の高い展示をすることが出来ました。



#### ◎ 津島市との官学連携事業

コース2年生がコミュニティバスの路線図・時刻表の制作と利用促進の企画提案に取り組みました。2021年2月20日から28日まで、津島市観光交流センターにて授業成果の展示が行われ、23日には津島市長や市民活動団体の代表者などを招き、プレゼンテーションを行いました。また、路線図・時刻表には、吉田海斗さんの作品が最優秀賞として選ばれ、来年度にはバス停のサインとして使用される予定です。



#### ◎ 実技II-3

実技II-3では『チルドレンミュージックバンドCOINN』の楽曲をテーマにレコードジャケットのデザインを行いました。前半は白澤先生のもとで、「表現ストレッチ」と題するいくつかのレッスンを受けながら、素材、表現を選び、楽曲をリサーチする中でデザインを作り上げていきました。後半はそのデザインをスクリーンプリントの技法を学びながら、自分で選んだ紙に印刷し、組み立ててレコードジャケットに仕上げました。コロナ対策もあり一度に印刷工房で作業が出来ないため、VDの教室にも刷り台を設置して分散して印刷作業を行いました。ジャケットに加えて、Tシャツやバッグなどグッズ展開をする学生も多く、COINNの楽曲とも相まって楽しい作品が多く制作されました。



#### ◎ 名古屋芸大東キャンパスの交流テラス「TERA」・カフェ「Akkord」のロゴマークの制作

ヴィジュアルデザインの3年生の有志10名で取り組み

した。現状の視察から始まり、幾度か修正を重ね、最終プレゼンテーションを行なった結果、「TERA」のロゴマークは小久保楓さんの案、「Akkord」のロゴマークは大熊美央さんの案に決定しました。



◎ 「Nago Tube」のロゴマーク制作

名古屋テレビ塔に新しく生まれたインターネット放送局「Nago Tube」のロゴマーク制作に、ヴィジュアルデザインの2年生を中心とした有志10名で取り組みました。セントラル・パークやテレビ塔が新しく生まれ変わる中で、名古屋の新たなシンボルとなるようなロゴマークを目指し制作しました。最優秀賞には2年・西尾瑠菜さん、優秀賞には水野萌己さんが選ばれ、youtubeにて放送された番組内で表彰されました。



■ イラストレーションコースからの報告

「イラストレーション」の捉えられ方は、これまでのデザイン教育や美術教育の範疇をいろいろな形で超えてくるようになりました。イラストレーションに関連する多様なカルチャーに対応できる教育を、アカデミックな芸術教育、デザイン教育の中でどのように位置付けるか、この3年ほどカリキュラムの確立に苦慮しています。イラストレーションコースでは、各種学問の知見も動員しながら、名芸から新しいカルチャーが生み出されるような場を形成することを目指しています。

2020年度は、カリキュラム改変の過渡期の混乱が落ち着き、コースの方向性をこれから形作っていこうというところで、コロナ禍の環境における不便と不安を抱えながらのスタートとなりました。イレギュラーな要因で予定が崩れ、まったくできなかったことは多くあります。しかし、学生、教員、その他関係者の不断の努力が、結果的に大きな効果を得た部分もありました。非常時ゆえの過剰な努力が効果を発揮した反面、常時において持続的に結果に反映できるプログラムも、あらためて確立する必要性を実感しています。



9月

- ・ イタリア・ポローニャ国際絵本原画展(四日市市立美術館/各自見学)

10月

- ・ 絵本作家三浦太郎氏講演およびワークショップ  
絵本作家三浦太郎氏を招聘し、講義とワークショップを行いました。開催そのものも懸念されましたが、予定通りワークショップ「からだステンシル」に2、3年生が取り組むことができました。身体運動を伴うワークショップは、本年の状況下において楽しいイベント的な取り組みとなっただけでなく、こうした状況下だからこそその身体感覚を改めて見つめ直す契機となりました。



11月

- ・ NEW NORMAL展』(3年生)
- ・ 森田朋氏版画制作  
3年生対象の演習II-2では表現の幅を広げるために様々な表現方法を試んでいます。その中で銅版画家の森田朋さんをゲストにお呼びして、版画の技法のひとつ「ドライポイント」での作品制作を行いました。ドライポイントは手で版を刻む際に思いがけない線が生まれることが特徴です。印刷作業をする日には、工房に展示した森田さんの銅版画の作品鑑賞の後に作業の説明があり、版にインクを詰め、拭き取り、お互いの距離を取りながらプレス機で印刷をしました。初めは恐る恐るでしたが、作業に慣れてくると紙をめくる度に現れるイメージに敏感に反応する姿が印象的でした。



1月

- ・ マンガ家夏野寛子氏特別講演会  
マンガ家夏野寛子氏による特別講演会を開催しました。マンガ家としてデビューしたきっかけや、作品完成までのプロセスなど、現役で活躍するマンガ家ならではの話を伺いました。



卒業制作公開プレゼンテーションに、グラフィックデザイナーの榊原健祐氏、サブカルチャー批評家、物語評論家のさやわか氏両名を招聘し、講評していただきました。スタイルも価値基準も異なる作品群に対し、多様な視点から充実したアドバイスをいただきました。講評の様子はオンラインでも中継し、後輩たちの制作意欲にも大いに刺激



を与えてくれました。



### ■ メディアデザインコースからの報告

前期に引き続き対面授業でできることが限られる中、展覧会や大学領域間での学生コラボレーション企画、産学連携事業が実施できました。

#### ○大垣共立銀行 テラッセ納屋橋支店 映像コンテンツ制作(11月)

今年度は後期に実施し、アニメーション、3DCG、実写映像まで様々なマルチディスプレイ映像コンテンツを制作しました。

#### ○「メディアデザインコース展」A&Dセンター(12月)

今回の「メディアデザインコース展」ではグループ制作を避け、個人で展示できる課題制作「Speculative Design ーミライのしくみー」として社会の課題を取り上げ、問



題を提起するためのメディア表現を展示しました。

#### ○サカエチカ クリスタル広場 映像作品上映(1月)

昨年度に引き続き、サカエチカ クリスタル広場にて、愛知・岐阜の映像メディアを専門とする7つの大学が集まって大学間連携し、クリスタル広場の中央LED柱(クリスタル広場ビジョン)に放映するプロジェクトに、メディアデザインコースの学生が参加しました。



#### ○ヴィジュアルデザインコース主催の「ナゴヤ展」ウォークスルーVR撮影(2月)

会場の名古屋城本丸御殿に入場制限がかかる中、展覧会をVRで歩ける3Dウォークスルーのコンテンツ制作に関わりました。



#### ○サウンドメディアコース主催のコンサート「カレイドスコープ」映像制作(2月)

東キャンパスの学生とのコラボレーションが実現したコンサート「カレイドスコープ」は、初めての無観客Youtube Liveで発信することになりました。コンサートに来場できない人に映像で鑑賞していただける試みとなりました。



#### ○「卒業制作メイキングムービー」(12月)&「卒業制作展」ウォークスルーVR撮影(2月)

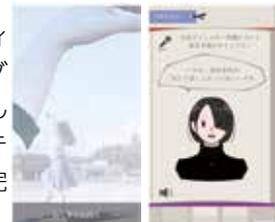
卒展に向けて制作する4年生を「卒展メイキングムービー」として制作し配信しました。

また初めてweb卒展が実現し、後日会場をヴァーチャルに見学できる卒業制作展としてできたことにも貢献しました。



#### ○産学連携事業:SDGsをテーマにしたWebコンテンツ企画の実施(6~2月)

「SDGsの教育とジェンダー問題をテーマに進めた産学共同プロジェクトに文芸・ライティングコース、サウンドメディアコース、声優・アクティングコースの学生と教員に協力していただきながら、webコンテンツムービーとしてまとめて完成し、発表しました。



#### ○小牧市「こども未来館」映像ディスプレイコンテンツ制作(通年)

3月にオープンを迎える小牧市「こども未来館」の映像コンテンツを学生主導で制作しています。

#### ○「自衛隊入隊激励ビデオレター」制作(12~2月)

今年も4月に新しく入隊する愛知県の自衛隊員のためのメッセージビデオの依頼を受け、制作しました。

### ■ メディアコミュニケーションデザインコースからの報告

後期もコロナの影響は続いていましたが、実技授業は7月より通常の対面授業に戻った。

前期に制作した官学連携プロジェクト・豊橋市総合動物公園 極地動物館の壁面イラストの施工が完了し9月中旬より公開され、9月26日付の中日新聞、11月6日付の中日新聞ののんほいパーク新聞に掲載された。入館のお子様方がペンギンの餌やりポーズで撮影され、壁画ながらインタラクティブに参加されている様子が紹介されていた。



やや不安定な状況ながら、連携、カリキュラム、展示行事など時期的変動はあったが、例年通り継続して活動をおこ



なった。アートマネジメントコースからの依頼でくばんばく音楽祭のB2ポスター、A4フラーヤーの制作に参加することができた。

- 毎年前期に実施しているラッセ納屋橋・大垣共立銀行のデジタルサイネージの映像制作をおこなった。MMDとMCDの3年生が全員で参加し、中間プレゼンを経て、最終提出後、採択映像が決定する。例年通りOKBの支店長をはじめ、技術サポートされるDNPの方々など4名が来校されディスタンスをとった広い教室で、1チームごとに感想や改良点、ご要望など丁寧なコメントをいただき後半の制作に反映できるようご協力くださった。
- 昨年度の新企画であったNHK中部制作の「デデデデザインって何?」に今年も参加した。10月後期・映像演習(岩越先生)の授業に、NHKディレクターの谷脇さんとプロデューサーの小木さんにお越しいただき講評をしていただき。この段階ではまだ採用されるかどうか不明であったが、ブラッシュアップをくりかえし、2月に7名の映像が番組のなかで流れるとの連絡を頂いた。昨年の番組に加え新しいテーマも加わり、2秒間で楽しく広がる世界を展開している。中部7県で放映されているのでどうぞご覧ください。2秒は短くすぐに終わってしまいますので録画してお楽しみください。MCDのホームページに掲載中。



- 前期レビュー展<MCD work in progress>は開催できなかったが、毎年実施しているコース展11回目を迎えた<MCD department>を11月に開催することができた。この展示会は3年生の授業で展示空間を意識し自分のオリジナルな作品制作をするという大判課題、DMを作り、その他の課題で制作した作品を企画展示する。デザインでは展示空間を意識して制作することがあまりないということから、コースの特徴的な課題としてコース設置時か

ら実施している。

- 最後に学年末のレビュー講評。2年生は例年通り祖父江先生にお越しいただき実施したが、全員フェースガードに手袋でおこなった。卒展講評会は4年生のみ作品の側で、2、3年生はB大講義室からiPadでリアルタイムに撮影配信される映像をプロジェクターで見ながらの参加となった。MCDコースは各教室が離れているため、通常も2、3、4年の交流が少ない。卒制講評会は万全のコロナ対策を準備して全員参加とした。新歓や追い出し会、研修旅行といった授業以外の大学生としての交流活動が難しい1年であった。今後も距離を保ちながらのコミュニケーションを模索しつつ、より良い大学生活を送れるよう考えていきたい。

### ■ ライフスタイルブロック ライフスタイルデザインコースからの報告

デザインがどのように私たちの生活と密接に関わっているのかを知り、その本質へと実行力を持ったデザイン提案ができるよう、ライフスタイルデザインコースでは、現場での学びを大切にしています。その一環として、企業や各地の自治体とも連携し活動する機会を多く用意しています。11月には、コロナウィルス感染症拡大の影響で延期となっていた、レゴランド・ジャパンとの産学協同事業である、グッズ・企画開発プロジェクトの最終プレゼンテーションが行われました。いくつかの提案は実際に商品化されることが決まり、今後レゴランドでの展開が行われます。こうした学外とのプロジェクトでは、他コースとの積極的な連携のうちに行うことにしており、レゴランド・ジャパンとのプロジェクトでもヴィジュアルデザインコースの学生をはじめ異なるコース・学年が混ざりあい影響を与え合う場となりました。

今年度の卒業制作展では例年に引き続き、ゲスト講師を招いての公開プレゼンテーションを行いました。学生たちは、木村恵美理氏(ヴィジュアルコミュニケーションデザイナー・ナラティブストラテジスト)を前にそれぞれの卒業制作を端的な画像と選ばれた言葉でプレゼンテーションしました。それぞれが長い時間をかけ丹念に作り上げた作品を振り返り、ゲスト講評者からの言葉を受け止めていた様子が印象的でした。

またデザインの分野でもグローバルな視野が不可欠な現代にあって、ライフスタイルデザインコースでは、グローバルな視点に立ち、情報収集、コンセプト立案を行い、自らの作品を世界的な文脈でプレゼンテーションできる力の育成を重視しています。いくつかの実技授業では、英文資料を読み込み、英語で自らの作品コンセプト文を書くことにも取り組んでいます。今年度の卒業制作展では科野里科の作品がプライトン大学賞グランプリを受賞するなど、その成果も現れはじめています。また、昨年度の卒業制作から継続的に研究と制作を進めていた大嶋晴を中心に開発したボードゲームがフランスの大手ゲームメーカーより商品化されるなど、卒業制作を起点にした卒業生の活躍という嬉しい知らせも続いています。

今後もライフスタイルデザインコースでは、生活と社会

の現場への深い理解に根ざしたデザインを生み出すための教育と実践を重ねていきます。



レゴランド・ジャパンとの産学協働による商品開発プロジェクト、最終プレゼンテーション



卒業制作展公開プレゼンテーション

### ■ テキスタイルデザインコースからの報告

#### 有松絞りブランドプロジェクト3rd

名古屋市有松とドイツデュッセルドルフを拠点に世界展開を行う(株)suzusanクリエイティブディレクターの村瀬弘行さんを特別教授に招き、2,3年生合同でプロジェクトを行なった。絞り手ぬぐいのコンセプトを考案、商品をデザイン・生産し、販売ショップをプロデュースする授業である。今年度はコロナ禍のため、ドイツ在住の村瀬さんと学生をオンラインで繋ぎ、授業を行なった。「[けふけふ]」「Shibolil」「染めいよしの」「ピコ」の4ブランドが出来た。来年度6月第一土日に行われる「有松絞りまつり」で学生が販売する。



#### アリマツマーケットでの絞り手ぬぐい販売 11/15

今年是有松絞りまつりが、コロナ禍のため中止になり、4年生が作成した絞り手ぬぐいが販売できなかった。秋になって販売先が見つかり、有松天満社での「アリマツマーケット」に出店することが出来た。例年の有松絞りまつりほどの



売れ行きはなかったものの、学生は自分がデザイン・生産した手ぬぐいをお客さんに説明・販売する体験から、得るものが大きかったようである。

#### あま市七宝焼アートヴェレッジでの展示 11/27~29

あま市の伝統産業尾張七宝を紹介する「あま市七宝焼」

アートヴェレッジで、3年生がデザイン、尾州産地が製織するテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab 尾州 5th」を展示した。布は巾150cm長さ3mの布15枚で、壮観だった。あま市は尾州産地でもあるので、観客に興味深く見て頂いたようである。メタル&ジュエリーコースとの共同企画。



#### コンフォートホテル客室アートパネルプロジェクト

1月8日名古屋駅前にオープンするホテルの客室に、3,4年生がデザイン、尾州産地で製織した布パネル23点を設置した。



#### 帽子プロジェクト

名古屋の帽子問屋林八百吉(株)から依頼を受け、帽子の布を3年生がデザイン・制作した。3/31~4/9に行われる林八百吉2021AWの展示会に出品するためである。16点の内6点の出品が決まった。



#### 総合展「THE 尾州」2/17~19 一宮市総合体育館

ジャパンテキスタイルコンテストの学生部門で、6名がシーズ賞を受賞した。

3年伊藤誠、藤谷黄穂、横山ゆう、4年今泉典子、正木里歩、森崎真稀

ジャパンテキスタイルコンテストの一般部門で、去年卒業した中島すみれが廃棄食材を利用した草木染めのテキスタイルで、新人賞を受賞した。



#### 尾州の匠 ものづくりリレー

4年森崎真稀と畠絵美里が、尾州産地で1年間織物研修した成果を発表した。この参加がきっかけとなり、二人は尾州産地の就職が決まった。



#### 2020染色意匠・図案コンペでの受賞

- 3年新木萌愛 ニカラグア共和国金賞、
- 3年横山 ゆう ニカラグア共和国銀賞、
- 3年山内梨湖 入選、3年伊藤誠 入選、
- 3年坂本萌 入選

活動の記録はこちらをご覧ください。

Facebook: NUAtextile

### ■ メタル&ジュエリーデザインコースからの報告

#### ・ [安藤七宝店工場見学]

(10/1木)3年生が産学連携尾張七宝プロジェクト授業で創業1880年の七宝専門店、安藤七宝店の製作工場を見学しました。尾張七宝の中でも珍しい技法で作られた「省胎七宝」(銅の素地を溶かしてスタンドグラスのよ

うに光が透ける七宝焼)の製作ビデオを視聴してから工場内を見学し、丁寧な説明を受けて、中量生産の器の製造工程や一品生産の職人作業の手元などをじっくり見て廻りました。時計のSEIKO社とのコラボ製品について、七宝が割れやすく焼成が難しい為、商品になる割合の少なさについての話では、自分の制作と比較し失敗も普通だと改めて理解することが出来ました。



- ・【あま市七宝焼アートヴィレッジ「尾張七宝新作展」への参加】あま市七宝焼アートヴィレッジでは毎年秋に七宝製品の新作展が行われ、近隣の人たちや小中学生が大型バスで訪れます。今年度はコロナ禍の中でしたが11月27日～29日に開催。メタル&ジュエリーコース尾張七宝プロジェクトの帯留を中心に4年生、3年生、大学院、研究生、の七宝作品成果物とそれぞれのリサーチファイルを展示しました。また同ホール内には、デザイン領域の学生が参加して行われたデザインプロ



デュース授業の成果物や地域の尾州織物をデザインしたテキスタイルコースの成果物も展示され、来場者から質問を受ける学生も見られました。

- ・【名古屋マリオットアソシアホテルロビー正月装飾の制作】名古屋マリオットアソシアホテル15Fメインロビーの正月装飾1/1～1/7をメタル&ジュエリーデザインコースの学生、卒業生が手がけました。

鉄線を溶接して作られた亀のオブジェの上に、銀箔を貼った手漉和紙と縁起物をかたどった真鍮の飾りで彩った作品を制作しました。卒業生の協力もあって170個以上の真鍮の透彫飾りが集まり、亀と岩とを現場で組み合わせると全高3mの巨大ながらも繊細な作品になりました。



- ・特別客員教授Philip Attwood氏オンライン授業  
大英博物館学芸員Philip Attwood氏の授業をGoogle Classroomを使ってオンラインで行いました。コロナ禍で来日が叶わず急遽オンラインでの授業に変更になりましたが、8回に渡りメダルアートの魅力を語っていただき、大変充実した授業になりました。学生にとっては英語でのコミュニケーション能力を磨く良い機会になったと思います。(画像/Google Classroomの授業)



- ・次年度特別客員教授の藤田政利氏の授業を3年生の授業で行いました。久しぶりの大学での体を思いっきり使ったのは楽しく、4年生にとっても卒業制作のヒントをつかむ良い機会になったと思います。来年度の本格的な特別客員教授の授業が楽しみです。



- ・【INTERNATIONAL MEDALLIC PROJECT】三年生が毎年参加しているポーランド/ニコラス・コペルニクス大学主催学生メダルプロジェクトの日本国内での巡回展が静岡県の豊門会館 旧和田豊治家住宅[国登録有形文化財]を会場として開催されました。現4年生の長谷川銀星くんの作品がポスターのメインビジュアルに選ばれました。

場所：豊門会館(旧和田豊治家住宅)  
〒410-1304  
静岡県駿東郡小山町藤曲144-8  
主催：つくば大学  
期間：10月24日から11月3日  
巡回展は今年7月に東京都美術館でも開催されます。  
(画像/左下の作品が長谷川銀星くんのメダル作品)



## ■ インダストリアル&セラミックデザイン、カーデザインコースからの報告

- 卒業制作展・JIDA(日本インダストリアルデザイナー協会)メンバーによる卒展訪問。

本年度の卒業制作展で例年と同じく、JIDAのデザイナーによる作品講評会が2月27日に行われました。この行事は1981年から開催されており、昨年は中止になりましたが、学生にとっては学生生活最後の重要なプレゼンテーションであり、ここでの発表が作品制作の大きな目標となっています。例年はJIDAメンバーが10人以上、学生も2,3年生も含めて50人ほど、その他卒業生などで100名を超す参加者がいるのですが、本年はコロナのためJIDAメンバー5人、学生も4年生のみに参加者を絞って開催しました。メンバーは学生の作品といえども、もうすぐ社会人として活躍することを踏まえ、プロの目線で厳しい評価を行います。



今年は8名の学生が選抜され発表を行いました。質問や指摘事項は学生から考えればとても厳しく、専門的な見地からの指摘で、先生から指導を受けるのとは違った緊張感のある講評会でした。最終的に以下の3名が受賞し、賞状を授与されました。



優秀賞：IROMOBI 柴明良

色覚異常者の運転をテーマに、これを訓練により乗り越えることを支援するシステムとデザインを提案した作品。まずはテーマの面白さが評価され、合わせて、他大学学生との共同研究を行ったことが高く評価されました。デザイナーとして社会に出れば、多くの人と関わり共同作業を行う。これを大学時代に経験しまとめ上げた作品はこれまでに例がなく、新しい学生作品の方向性を示しています。



努力賞：姫-Xinh-シン

神坂 天音

クレイ造形によるカーデザインの提案。女性の体形や衣服のラインをモチーフにし、女性が好んで乗りたくなるスポーツカーのデザインを模索した作品。この作品は初期のイメージモデルを多数制作し、独自性を探った造形が魅力的で、これをスポーツカーの形にまとめ上げたプロセスが高く評価されました。また、膨大なスケッチを描き、多数のモデルを作り造形研究を重ねたことはデザイナーとしてとても重要なことである点も評価されました。

努力賞：Tall Leg

辻村 大地

4足歩行の建設用機器。リモート操作によるロボットとして提案された作品。これまでは見られない機器ではあるが、現実的で使用状況が容易に想像でき、メーカーもこれから研究開発するのではないかと思わせるほど。また様々な使用方法やバリエーションも考えられ発展性も感じる点度が評価されました。



### ■レビュー展

コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、無事開催されインダストリアル&セラミックデザインコース、カーデザインの両コースは合同で展示を行いました。コースの特徴から、磁器や陶器、日用品からCADの作品、自動車のクレイモデル、CGスケッチなど様々な分野、様々な手法、材料での展示になり来場者も幅広い提案を楽しめたことと思います。



### ■カーデザインコース開設5年

カーデザインコースは今年で開設5年になり、2期目の学生が卒業します。学生数は6~13名、まだ安定はしていませんが、入学時からカーデザインを目指してくる学生が増えてきました。一方就職は順調に推移してきており今年も就職希望者全員が昨年中に内定を得ています。うち半数は



カーメーカーやその関連メーカー、その他はCADやモデル関連の支援会社、部品や用品のサプライヤーなどになっています。ここ数年は特に

トヨタ自動車をはじめデンソーやトヨタテクノアートリサーチ、林テレンプ、テクニカルリンクスデザイン(トヨタ紡織)、東海理化など、愛知県内の有名メーカーに就職する学生が増えています。メーカーからもインターンシップのお誘いや産学共同の提案など多くのアプローチをいただいております。順調に実績を上げています。

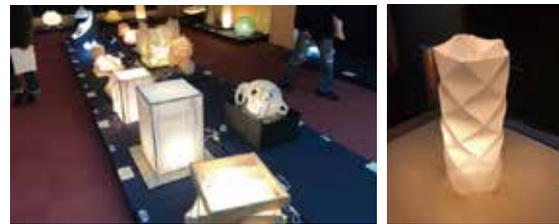
### ■スペースデザインコースからの報告

授業内での作品制作だけでなく学内外の展示・発表を積極的に行ってきたので、今年度はかなりコロナの影響がありましたが、形を変えながらもたくさんの取り組みを各学年が行いました。

今年度名古屋芸術大学の50周年を記念して建設された、東キャンパスの交流テラス(TERA)は、6年前のスペースデザインコースの学年をまたいだ合同課題でのアイデアが、その後の学生に受け継がれ基本設計案として活かされ、実現しました。



2年生は、毎年秋に美濃市で行われる「あかりアート展」に、美濃和紙を使った照明を各自自宅で作成し、歴史的な町並みに屋外展示する予定でしたが、昨年の台風での中止に続き今年度も開催が危ぶまれましたが、事務局の皆さんの尽力により分散会場展示が行われました。



和紙のあかりの展示

また、自身の出身地を紹介するメディアとしてのゲストハウスの課題ではグループで実制作に取り組みました。



実技2ゲストハウスの実制作

3年生は子どものための読む空間で使用する家具を前期は工房が使えず後期に持ち越しとなった制作を行ったり、社会的なテーマとなっている資源の再利用を「アップサイクル」する課題に取り組みました。



子どものための読む空間  
アップサイクルでのものづくり  
で使用する家具  
のレビューでの展示

3つの企業との産学協同プロジェクトも後期に持ち越し

となりました。

ガーデンメイカーさんには、新しい庭のあり方についての提案を行い、パームホルツさんとは、社の開発した新素材の建材を生かした、ストリートファニチャーをオンライン展示会に出展したり、オダタイヤ、トヨタカラー愛豊さんには新車発表のディスプレイを担当させていただき、大学のホームページをはじめたくさんのメディアに取り上げられました。



自由テーマの課題では、大学から駅までの道に注目したり、出身地での問題に向き合いながらランドスケープや、まちづくりとしての提案が見られました。



**出身地の門前町への提案 大学への通学路の活性化への提案**

それぞれの複数の課題が並行して進んでいく状況で、各自の得意分野を生かしながら課題に積極的に取り組みました。

4年生は、今年度も卒業制作展が学内開催のため、スペースデザインコースの日頃の実技室を、作品と空間が一体化した展示空間として、学生自らで作り上げました。昨年度限りで退職された平田哲生名誉教授に講評に来て頂き久しぶりの平田節を堪能しました。今年も卒業生が多数見に来てくれ、近況を聞いたり、感想を言ってもらったり、交流しました。



卒業会場

### ■ 文芸・ライティングコースからの報告

文芸・ライティングコースでは、9月30日に刈谷市美術館で学外授業を行い、絵本作家の村上康成氏からお話を頂きました。日々の授業で絵本創作や児童文学を学んでいる学生たちが、村上氏のレクチャーに熱心に耳を傾けていました。



また、10月初旬から下旬にかけて、CBCラジオの見学とスタジオでの30秒CMの収録体験を行いました。各々の学生があらかじめ準備した台本(自分が過去に執筆した小説・戯曲・エッセイ等の紹介)をプロのナレーターの方にお読み頂き、台本のイメージに合ったBGMを選んで音源を収録しました。文芸コースでは2年次の戯曲創作の授業でラジオドラマ脚本を執筆しますが、ラジオドラマやCM台本の収録をとおして、受講生一人一人が自分の書いた言葉が聴

き手にどのように伝わるのかを考える機会となりました。



10月22日の「デザインと文化」の文芸コース担当回では、作家・俳人のせきしろ氏をお招きし、言葉を自由に生み出す手法についてお話を頂きました。

11月12日～13日にはコロナウィルス感染症対策を十分に行った上で、文芸コースの教室(G102)で俳優の神原忠美氏による朗読劇『木を植えた人』を開催しました。上演前に照明の設置など舞台作りのプロセスをお見せ頂き、舞台を身近に感じることができました。

また、2021年1月6日～25日にかけて、西キャンパス図書館で近藤耕人氏(英文学者・写真評論家)の著書20冊の展示を行いました。近藤氏には10月と11月にヴィジュアルと文章との関係や「写真における記憶」についてのリモートレクチャーを行なって頂きました。

12月1日には深萱真穂氏(ライター・キュレーター)による特別講義を開催しました。文芸コースの2、3、4年生は4月のステイホーム期間中に「自分で撮影した写真について文章で表現する」課題に取り組みましたが、提出された課題について近藤氏と深萱氏からの確かなアドバイスを頂いた上で各々の学生が文章を推敲し、最終的に一冊の本にまとめました(尾張中央タイムズ編集長の米田環氏のご指導のもと、学生が主体的に編集や校正を行いました)。

3月6日に演出家の深澤伸友氏による舞台「月の光」の演出についてのレクチャー、3月13日に増田俊也氏(小説家・本学客員教授)と奥谷通教氏(漫画家)による特別講義(リモート対談)を開催しました。

また、通年のプロジェクト「メイガイ・ブックツリー」では、各々の学生が「種本」についてのレビュー文を執筆し、皆で「本の木」を育てる試みを行なっています。本企画は次年度以降も継続し、西キャンパス図書館やジュンク堂書店で、学生が選書した本とレビュー文の展示を行う予定です。



1月のレビュー展では、1年生から3年生までの学生が、言葉や文章をどのように展示するかについて熟考し、オリジナリティ溢れる世界観を表現しました。また、本コースが



初めて迎えた卒業展では、4年生5名が各々の計画に基づいて展示を行い、多くの来場者に作品をお読み頂きました。

## 芸術学部芸術学科芸術教養領域

芸術教養領域は、リベラルアーツコース1コースのみから成る領域です。2020年度後期(2020年9月-2021年3月)のリベラルアーツコースの活動を、「教育」「展覧会」「学生の活躍」の3点に分けてご報告します。また、これ以外に公開講座を2回開催しましたが、そちらについては「後援会補助公開講座実施報告」をご覧ください。

### ■ 教育

#### 1. 対面とオンライン併用で授業を継続

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行という、学生・教職員ともに経験したことのない難しい状況下での教育でしたが、感染防止に留意しつつ教育の質を下げないよう教員・スタッフとも努力してまいりました。

例年より1ヶ月ほど遅れて5月13日に開始した2020年度の授業は、後期も基本的にはGoogle Classroomを用いたオンライン授業を継続しましたが、実技授業は十分に感染対策を取り対面で実施しました。知識を身につける講義・演習はオンラインで、実際にものに触れ、制作し体験する実技は対面で、とそれぞれの特性を生かした学びができたと思います。

教員・学生の意見の中から「オンライン授業にしてみても良かった」点を紹介します：

- Classroomのコメント欄を使うと、教員に面と向かって質問するよりも気軽に質問ができる。教員も、質問内容をよく吟味し、丁寧にフィードバックすることができる。
- テレビ電話によるライブ授業は、対面よりも話しやすく、学生同士の討論や話し合いが活発にできる。教員をメンバーから外したクラスを別に作ることで、より気軽に率直な議論を促すこともできる。
- 特に遠隔から通う学生にとっては、オンライン授業の方が通学の負担が少なく、例年より出席率が向上した。
- オンデマンド授業の場合、教員は自分の授業を録画資料化するが、動画の視聴のみでも理解しやすくする努力の結果、内容が整理・明確化され、授業の質が向上した。
- 課題をオンライン上で管理できるため、学生のこれまでの学びの記録や、躓きがちな部分をきめ細かく把握した上で指導ができる。

2021年度以降の状況はまだまだ不透明ですが、このようなオンラインならではの特性も生かし、学生が満足できる学びの提供を続けていきたいと思っています。

#### 2. 学生全員にチュートリアルを実施

1学年の定員25名の芸術教養領域は、少人数の利点を生かしたきめ細かな学生対応を目指しています。そのため、半期に1度ずつ、教員が分担して全学生と1対1で話し合うチュートリアルを実施しています。2020年度後期もこれを実施し、取得単位や成績の確認、履修相談、授業や大学生活の悩み相談などに応じました。

#### 3. 入学前教育実施

大学全体の取り組みの一環として、芸術教養領域でも、

2021年度入学試験合格者を対象に、入学前教育を実施しました。

入学前教育は、高校までの学びを基礎として、大学での新しい学びに触れ、これから始まる4年間の準備をしてもらうために実施するもので、入試合格から入学までの、人によってはかなりの長い期間を有意義に過ごしてもらうことを目指しています。

今年度はコロナ禍に配慮し、以下のように全てオンラインで実施しました：

- 1月:オンライン公開講座の視聴とコメント送付
- 2月:オンライン動画による模擬授業視聴とコメント送付
- 3月:オンライン動画による卒業制作展鑑賞とレポート執筆

### ■ 展覧会

#### 1. 助手展に芸術教養領域の助手さんが出展(2020年12月11日-16日)

名古屋芸術大学 西キャンパス Art & Design Center Westで、「助手展2020」が開催されました。芸術学部の助手・技術補助員は、美術・音楽・デザイン・芸術教養の各領域で、授業や学生のサポート、イベントなど様々な業務を行っています。その一方、それぞれの分野で演奏・制作・研究を行う表現者でもあります。助手展では、芸術学部全領域の助手・技術補助員が参加し、その演奏・制作・研究の成果を披露します。

芸術教養領域助手の黒田翔大さんも、「文学における電話の文化的研究」というタイトルで、研究紹介と論文の展示を行いました。また、芸術教養領域助手 中森信福さんが昨年度出展



助手展  
黒田翔大さんの展示

した、中森さん作曲の映画音楽にインスパイアされて制作された絵画作品が出展されるなど、助手間の交流も盛んな展覧会となりました。

#### 2. 第3回「芸術教養レビュー」展(2021年1月15日-20日)

レビュー展は、学生が授業で学んだ成果を作品やパネルで紹介するものです。名古屋芸術大学 西キャンパス Art & Design Center Westで開催された第3回「芸術教養レビュー」展では、コースの2期生である3年生が卒業研究に向けた方針をパネルでプレゼンテーションし、2年生は



第3回「芸術教養レビュー」展

コースでの2年間の学びを紹介しました。ほかにも、実技作品や演習・講義の成果を展示し、これまでの学びの集大成としました。1年生もサウンドリテラシーの実技作品で参加しました。

### 3. 2020年度後期「アートプロジェクト1」授業成果展 (2021年1月15日-22日)

「アートプロジェクト1」(担当:芸術教養領域 松村淳子、日栄一真)は、横断科目として、異なる領域の学生がお互いの専門性を生かして協力し、地域社会との交流やメディアイベントを実施する授業です。これまでは、学外活動や卒業制作などの「現場」取材してその内容を発信することが多かったのですが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて大きく世界が変わったことを踏まえ、内容も変更しました。コロナ禍では「現場」へのアプローチが難しいこと、コロナに関連したデマ情報の拡散や、オンライン授業の広がりなど、わたしたちをとりまく「メディア」の様相が大きく変化しました。

これらのことを受け、“これからの社会で、メディアに振り回されないようにしながら、各種メディアを活用し、どう情報発信していくのか”について、実践と講義、ディスカッションを交えながら考察し、『コロナからみた世界』という最終課題にまとめ、東キャンパスに新設された交流テラスにある「Akkord(アコルト)」にて発表しました。



「アートプロジェクト1」授業風景

### 4. リベラルアーツコース「卒業研究展」(2021年1月15日-27日) 「卒業制作展」(2021年2月19日-28日)

音楽・美術・デザイン・芸術教養の4領域から成る名古屋芸術大学芸術学部。新型コロナウイルスによる混乱の中においても、学生たちはたゆまずに制作を続けてきました。この度、4年間の学びの集大成として、第48回 名古屋芸術大学卒業・修了制作展が開催されました。

2017年度に開設された芸術教養領域においては、初めて参加する卒業制作展となります。芸術大学の中で教養を学ぶという新しい試みの中、それぞれの興味と関心にしたがって研究を深め、その成果を卒業論文にまとめました。その論文と論文の内容を紹介するパネルを、東キャンパスにおいては「卒業研究展」として、西キャンパスにおいては、他領域と共に「卒業制作展」として発表しました。



リベラルアーツコース  
「卒業研究展」

### ■ 学生の活躍

#### 1. 芸術教養領域 齋藤伊織さんとデザイン領域 清水沙良さん制作のフリーペーパーがNHK名古屋「まるっと」で紹介 (2020年9月28日)

芸術教養領域の齋藤伊織さんとデザイン領域SDコースの清水沙良さん(ともに2020年度時点で3年生)の制作しているフリーペーパーが、2020年9月28日放送のNHK名古屋「まるっと」でとり上げられました。同番組の「タダより面白いものはない?!~名駅のフリーペーパー専門店~」というコーナーで「Only Free Paper (<http://onlyfreepaper.com/about>) 名古屋」店内を生放送で紹介していた際、齋藤さんと清水さんが制作した「GROOVY」が、「名古屋のジャズライブハウスを特集したフリーペーパー、CDのような形で個性的で面白い」と紹介されました。スタジオの方と「これはなにをイメージした形でしょうか?」などのやりとりもありました。



齋藤伊織さんと清水沙良さん  
制作のフリーペーパー

#### 2. 大前柚馨さんの作品が「書道アート展8 文字絵字文」展 に出品 (2020年11月20日-25日)

従来の書道の概念にとらわれず、墨を自由に用い、字や絵を使って表現する書道アート。本学芸術学部の専門共通科目「書道アート2」(担当:横山豊蘭先生)を受講した芸術教養領域 大前柚馨さん(2020年度時点で3年生)の作品が、受講生の制作作品から選抜で選ばれ、西キャンパス Art & Design Center West開催の「書道アート展8 文字絵字文」展に出品されました。



「書道アート展8 文字絵字文」  
大前柚馨さんの作品

芸術教養領域では、アートも含めた教養を幅広く学び、ビジュアル・サウンド・日本語・英語・情報の5つのリテラシーを活用して、自分が学び・調査・考察したことを見やすくわかりやすいパネルやプレゼンにまとめて発信する活動を続けています。ここに報告したような教育・展覧会・学生の活躍で、その活動の一端が伝われば幸いです。

芸術教養領域 主任補佐 早川知江

## 人間発達学部

●2022年4月、人間発達学部子ども発達学科は、「教育学部子ども学科」(予定)に生まれ変わります!7つのコースを新設予定です(現在構想中につき今後予告なく変更になる場合があります)。

新型コロナウイルス感染防止の対策に明け暮れた1年でしたが、その中で授業風景や行事等の様子をご紹介します。

### ■ オンライン授業と対面授業

新型コロナウイルス感染防止の観点から、人間発達学部生の令和2年度の授業は、結果的に年間を通してオンラインによる授業形式がほとんどにならざるを得ませんでした。例年になかった授業形態に関わらず、受講環境を整え、授業参加して視聴し、課題提出もしてきております。登校はしないものの、オンラインによる授業では相当の勉学への強い意志がなければ落ちこぼれかねませんが、不自由を押しよく頑張りました。

さて、そうした中でも、実習や実技を伴う関係科目では、入構時の健康チェック・体温計測・マスクの着用等の意識化を図り、席を空ける・小まめに喚気するなどの工夫で「3密」を避けて、対面授業も行われました。

1年生が主に受講する「保育内容演習環境」では、幼児が様々な「もの」に意識的に関わったり、「もの」を活用したりすることで育つ保育活動を学びます。15回のうち4回の授業を大学内で行いました。

1回目は、「自然」というものを活かした保育活動を学ぶ授業です。構内の芝生の上で自然の光・音・温かさなどを改めて感じ、ことば化して共有し合う「ネイチャーゲーム」を体験するための授業でした。2回目は、「動物」に触れる保育活動を学ぶ授業です。幼少期に動物に触れる体験を楽しんできたものの、大学生になると動物を忌避する傾向が毎年見られます。そこで、実際に授業者が飼育している小動物に触れてみて、その抵抗感を和らげ、保育活動に積極的に生かそうとする態度を養うための授業でした。3回目は、著名な幼児教育研究者のフレーベルとモンテッソーリの開発した「教育玩具」を活かす保育活動を学ぶ授業です。この2人の開発した教育玩具には、様々な工夫が施されていて、楽しく遊びながら賢くなれる仕掛けが存分に含まれているのです。そのことを実際に触れて遊んでみて実感する授業でした。4回目は、「現代の玩具」で遊んでみることで、その玩具がどのような乳幼児の発達を促すことになるのかを考えてみる授業です。この授業を通して、乳幼児が様々な「もの」に触れ、動きかけることで、様々な力を獲得していることを感じ取れる能力を磨いていきます。



4回の授業ではありましたが、「もの」が果たしている人間の成長・発達上の役割を再認識するとともに、そうした「もの」を保育活動に活かすイメージを豊かにしていただくことができたと感じています。

### ■ 園児の前で研究成果の発表

新型コロナウイルス感染拡大の影響は大学だけでなく、人の集まる様々な場所に影響を及ぼしています。幼児が通う幼稚園・保育所・認定こども園なども同様です。例年、9月には小学校及び幼稚園での実習、2月には保育所実習、さらには養護施設実習や介護施設実習などがあるのですが、感染リスクを抑えるために実習の受入れを断られるケースもあって、実習先の確保には大変苦労しました。それでも受入れてもらう日数を減らしたり、大学教員の指導訪問は遠慮したりするなど条件に、希望する全員が現場実習を行えるようにしてきております。そのような状況ですので、例年、積極的に行われます幼稚園・保育所・認定こども園との関わりも制約せざるを得ませんでした。

しかし、コロナの感染が一定抑制されていた時期に、本学と関わりの深いクリエ幼稚園や、今年度北名古屋市に新設されました認定こども園森のくまっこなどが、学生の受入れを歓迎してくれました。

星野英五教授のゼミナールでは、「子どもと音楽」の研究を進めておりますが、その成果を今年度も幼児に還元しようと、2年から4年生までのゼミ生が集まって、森のくまっこで公演活動を行いました。絵本『はらぺこあおむし』と『ピーターとおおかみ』を、音楽演奏しながらスライド上映



していきました。また、ハンドベルの美しい音色で『キラキラ星』を、ピアノ・フルート・サクソ・ギター・ハンドベル・ヴィブラフォン・ウィンドウチャイム・シロフォンなどで『おもちゃのチャチャチャ』も演奏しました。様々な楽器を目の前にしての楽しい演奏に幼児達は興味津々で、自然に歌い始めたり楽しそうに身体を揺らしたりしていました。なお、星野ゼミは同様に、附属クリエ幼稚園や名古屋市内にあるみどりヶ丘幼稚園でも公演活動を行いました。

また、鎌倉博准教授の「子どもの生活と教育」ゼミナールでは、今年度オンライン上での活動が中心にならざるを得なかった中、「コロナ禍の室内でも楽しく遊べる活動」の研究をしようと取り組んできました。まずは、附属クリエ幼稚園の保護者多数にご協力いただいたアンケートで、「コロナ禍の家庭での遊び」の状況をまとめ・分析し、その結果をクリエ幼稚園保護者に還元する活動を行いました。また、室内でも楽しめる活動を研究して幼児に還元しようと、幼児体操「エビカニクス」、エプロンシアター「しりとりのだいすきなおうさま」、紙芝居「まんまるまんま たんたか





たん]の3つのパートに分かれて練習をし、「あわてんぼうのサンタクロース」のピアノと歌合わせもして公演活動を行いました。「4つも楽しめた」という感想を伝えてくれた子がいましたが、ちょうどクリスマスが近い時期でもあったので、参加してくれた年長児にとりましては、学生達からのクリスマス・プレゼントと受け取ってくれたようでした。

### ■ 学部通信の発行

名古屋芸術大学および人間発達学部の動向を、在籍生保護者の皆様にもお知らせし、一層のご理解を深めていただくこと、平成29年から「名古屋芸術大学人間発達学部保護者会」を開いてまいりました。今年度もその開催を考えておりましたが、ここでも新型コロナウイルスの感染防止の観点から、今年度はその開催を見送らざるを得ませんでした。

しかしながら、大学および本学部の動向をお知らせする努力は欠かさないようにしようと学部で確認をし、今年度は「人間発達学部通信」と名付けた8ページ立ての文書を発行することにしました。

内容は、①大学動向 ②学部動向及び大学生活状況 ③自宅でのオンライン授業が中心

となる中での「各学年生の受講の様子」、許可を得た特定の科目での「対面授業等での様子」、出演希望者と関係者のみで行った「コンサート活動の様子」 ④「就職支援活動の様子」と「平成30年度卒業生の就職先」一覧 ⑤「学部教員」の名前と主な授業科目の一覧 ⑥大学インフォメーションとしましての「免許、資格取得のために」「学費や奨学金の件」「我が子のことでの相談窓口」「大学への問合せ等」「学部同窓会から」を柱とした内容構成としました。

また、各記事もそれぞれの教員を紹介する立場で、可能な限り多くの学部教員が分担して執筆しました。特に感想が届いてはおりませんが、文書の形式でありましても、大学及び学部動向を丁寧にお伝えしようとしている姿はご理解いただけたものと思います。

なお、大学では、学生自身の相談に今後とも親身に応えてまいりますとともに、保護者の皆様からもご相談等ございましたら、随時受け付けておりますので、大学代表電話(0568-24-0315)にご連絡ください。

### ■ 今年度開講「認定絵本土講座」

令和2年度から新たな科目「子どもと絵本1・2」が開講されました。前期と後期の2回で計30コマを受講し、合格点数に達した受講生が「認定絵本土」としての資格を取得できます。開講初年度は35名がエントリーしました。

本講座の授業は、「絵本の知識を深める」「絵本を活用す

る技術を高める」「絵本の見方・活かし方としての感性を磨く」の3本柱で、「絵本とは」「絵本の見方」「絵本のジャンル」「様々な人々の心を豊かにするものとしての絵本の活用方法」「絵本のある望ましい空間とは」「絵本との出会わせ方・出会える場所」「絵本の世界を広げる技術」「絵本を紹介する技術」「絵本を活用したおはなし会の技術」「絵本制作の工程」などの、理論や技術を学べるように組まれております。



本講座には、絵本に関わる教養や技術をもつ本学部教員の他、絵本研究をされておられる武庫川女子大学の遠藤純准教授や元本学部教員で現任金城学院大学の南元子教授、心のケアの研究をされておいでの本学芸術学部森川泉准教授、本学部の前身名古屋自由短期大学卒業生でおはなし会を各地で開いているNHK横浜放送局所属のアナウンサー野田英里さん、本学美術学部卒業生で現役の絵本作家長尾琢磨さん、児童向け図書館を学校や図書館等に配給している株式会社東海図書館サービス取締役の山村眞午さんといった錚々たる講師陣が関わりました。

前期授業は全てオンライン形式で、実演科目が多い後期は原則として間隔を空けての対面授業形式で行いました。前期も後期もわずか4日間で15コマを受講し、短期間のうちに課題提出しなければならぬ集中型の授業です。受講生は本当に大変だったことと思います。しかし、よくぞ学び通して、9割の学生が合格となりました。

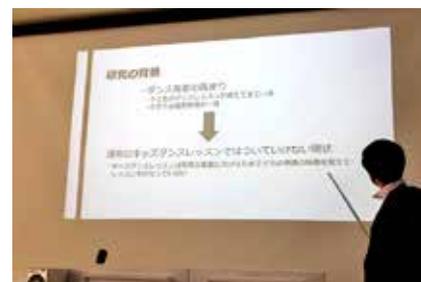
なお、この「認定絵本土」は、学校や園での絵本活用推進活動の中心として活躍できる他、地域の図書館や様々読書活動を行う企業等でも活用できるようになります。本年度4年生でこの「認定絵本土」の資格をもって卒業する学生は、本学では初めてとなります。この資格がどのように生かされていくのか注目していきたいものです。

前期授業は全てオンライン形式で、実演科目が多い後期は原則として間隔を空けての対面授業形式で行いました。前期も後期もわずか4日間で15コマを受講し、短期間のうちに課題提出しなければならぬ集中型の授業です。受講生は本当に大変だったことと思います。しかし、よくぞ学び通して、9割の学生が合格となりました。

### ■ 卒業論文・卒業制作発表会

2020年度の卒業研究発表会が2021年1月21日(木)に開催されました。今年度は残念ながらオンラインでの開催となりましたが、69名の4年生が2年間の研究の成果を披露しました。

人間発達学部では、3年生から8領域(子どもと学校、乳幼児の教育と保育、子どもと福祉、子どもの発達と障がい、



子どもと音楽、子どもと美術、子どもの生活と教育、子どもとメディア)の専門ゼミナールに配属されます。一人一

人の学生がゼミナールの教員の下で研究指導を継続的に受け、卒業論文を提出します。そして、口頭で研究発表を行い、質疑応答をすることで卒業研究の単位が認められます。4年生はこの2年間、この日に向けて卒業研究を進めてきました。

発表はやや緊張した様子も見られましたが、自ら入念に準備したスライドを使い、これまでに培ってきた知識や技術を駆使してまとめた研究成果を、資料の見やすさや発話スピードなど聴き手に対して気を使いながら、説得力のある発表することができました。そして、発表に対する質疑応答も活発に行われました。研究の問題背景、方法論、分析、専門用語に関することなど、多様な質問が挙がりましたが、どの発表者も的確な答えを返すことができていました。

また、この卒業研究報告会には4年生だけでなく、来年卒業研究に取り組むために研究テーマを決めていく必要がある3年生、そして、ゼミナール選択の参考にする2年生も参加しました。研究発表を聞いた2,3年生は、今後の研究活動に大きな刺激を得たようでした。

4年間の集大成にふさわしい、素晴らしい卒業研究発表会でした。これから巣立つ4年生には、このことを一つの糧

として、就職後もそれぞれが進む方面でさまざまな問題に取り組み、大いに活躍してくれることを期待しています。



## ■ 人間発達学部コンサート

### ◆ オータムコンサート

2020年10月31日(土) オータムコンサートが2号館3階大アンサンブル室で開催されました。9月5日にも「人間発達学部サマーコンサート」を実施し、今年度二度目の学部コンサートになりました。プログラムは、フルート独奏とピアノ独奏・連弾・2台ピアノと電子オルガンのデュオ・ソロなど合計11組のプログラムが演奏されました。

外部の方の入場を新型コロナウイルス感染拡大防止の為お断りしている関係で、初の試みとしてYouTube Live 限定配信を実施致しました。優れた本学の芸術的環境の中で、保育・教育者を目指す学生が自分の特技を披露できたことは、各々の感性をさらに磨くことに繋がることでしょう。本学名誉教授・国立音楽大学元教授の藤田芙美子先生から「これだけの音楽技量を持った学生が人間発達学部在籍して成長し披露する場が持てるようになったことは素晴らしい」と絶賛のお言葉をいただいております。



### ◆ 春を呼ぶ芸術コンサート

2021年1月31日(日)3号館音楽ホールで、人間発達学部主催による恒例の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」を開催しました。例年は音楽科指導法履修学生による合唱、実行委員の合唱、吹奏楽・リズム体操・和太鼓・ダンスなどのサークル発表もありましたが、今年度はコロナ禍の中、それらは実施できなくて大変残念でした。しかし、14組の個人出演は可能となり、外部の方を招かず、内部のみの聴衆で実施されました。溝口哲夫学部長のあいさつで開会し、学生によるピアノのソロとデュオ演奏、フルート独奏、ソプラノ独唱、エレクトーン演奏が行われました。演奏後はいづれの学生も、達成感からか充実した表情を見せていました。学部入学予定の高校生の皆様や外部の方には期間を定めていますがYouTube限定配信を行いました。



## ■ 全学合同模擬授業(教育実習指導)

### 「成長した姿を模擬授業で交流しよう」

教員免許状を取得するためには、教育実習が必修です。実際に、教育現場にたっている教員の多くが、「教育実習を終えて、本気に先生になりたいと思った」と語っているほどです。その大切な教育実習は、通常は3週間行われます。しかし、今年度はコロナ禍で2週間に減ってしまいました。これでは文部科学省の基準には足りませんし、学生にとっても不完全燃焼です。

そのため本大学では、教育実習を終えた12月22, 23日の2日間、一人ひとりがみんなの前で模擬授業を行ない、その感想やアドバイスを伝え合うことで、補充講座としました。

人間発達学部、芸術学部の美術・デザイン領域、音楽領域と専門が違い、また、小・中学校と学校種も異なるなかで、47人の授業を見合うことができました。他の授業と重なり出席できなかった人は、事前に模擬授業風景を撮影し、当日は録画を見てもらいました。また、当日の授業を撮影し、後日その動画を見て感想・アドバイスを提出してもらいました。こうして、無事に全員が講座を学修することができました。



「はじめに発声練習をします。起立!」



「同じ意味の語句の上に紙を貼りに来てください」

参加する学生を、小中学生に見立てて行う7分間の授業。実は、そこで子どもたちの知的好奇心を呼び覚ましたり、その気にさせたりすることがポイントなのです。これは、現場の教師も同じ。導入でどこまで引きつけ、その気にさせるかは導入にかかっています。また、こうした模擬授業は、多くの都道府県や政令指定都市の教員採用試験でも実施されています。

学生の感想には、「緊張したけど面白かった」「音楽や美術の授業も楽しかった」

「いろいろな技術を学ぶことができ、実習校とは違う学びがあった」などと感想を書いていました。

やはり、教師は授業で勝負。改めてこの言葉を実感させられた2日間でした。

### ■ 就職支援セミナー

令和3年1月16日(土)、「就職支援セミナー」を行いました。このセミナーは、人間発達学部が、4年生の就職内定者と社会で活躍している卒業生を講師として招き、2・3年生に、就職や進学に関する体験や考え、現場の様子などを話していただく機会として、例年、開催しているものです。いつもは対面で行い、適宜、質疑応答を設けるなどしていたのですが、今回はコロナ禍にあり、オンラインで実施するこ

ととなりました。

小学校教育、幼児教育・保育、社会福祉、一般企業等の4分科会を設け、講師である先輩方は、各分科会を担当する教員の研究室から、PCを通じて、学生に話しかけました。

2・3年生は、ゼミの担任の指導・助言を踏まえながら、それぞれが希望する分科会に参加しました。2年次にコース制を導入して3年目になりますが、まずは、所属するコースやゼミ(領域)に沿った分科会に参加する様子が多く見られ、「出口を見据えて学び、取り組む意識」が着実に育っていると感じました。各分科会の講師は次のとおりです。

○小学校教育分科会…卒業生:教職大学院を経て、公立小学校教諭に内定(1名)。公立小学校講師を経て本採用に内定(1名)。

○幼児教育・保育分科会…4年生と卒業生:市町村公立保育士に内定(2名)。私立幼稚園教諭に内定(2名)。現職公立保育士(1名)。

○社会福祉分科会…4年生と卒業生:障害児通所施設内定(1名)。児童養護施設内定(1名)。公立児童相談所・一時保護施設職員(1名)。

○一般企業等分科会…4年生:企業(2名)。

学生たちは、志望動機や就職活動の開始時期、勉強や準備、活動の方法、試験の様子、業務内容や待遇など、多くのことを先輩方から学ぶことができました。



## 学務部報告

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から本学の運営、学生支援、国際交流に多大なるご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、2017年4月に芸術学部芸術学科を設置し、完成年度である2020年度には芸術学部芸術学科の第1期生を社会に送り出すことが出来ました。2017年度以降、学生募集も好調に推移し、2021年4月の入学者についても、入学定員を充足する見込みとなっています。

また、文部科学省に2021年4月から人間発達学部の入学定員140名の内、40名を芸術学部芸術学科に振り替え、人間発達学部の入学定員を100名、芸術学部芸術学科の入学定員を485名とする届け出をいたしました。人間発達学部については、2022年4月から名称を変更し「教育学部子ども学科」として更なる改革を行う予定です。

今回は、名古屋芸術大学における3つのポリシーに

ついてご説明をいたします。3つのポリシーとは、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像(答申)平成17年」「学士課程教育の構築に向けて(答申)平成20年」で定義された「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)」「アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)」のことで、大学はこの3つの方針を明確に示し、公表して改革を実現していかなくてはならないとされています。それぞれのポリシーの関連性は「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」は大学・学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針です。ディプロマ・ポリシーを達成するためには、どのような教育課程(カリキュラム)を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのような基準で評価するのかを定めたものが、カリキュラ

ム・ポリシーであり、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定めたものが、アドミッション・ポリシーとなっています。本学では、策定した3つのポリシーに基づき、また、必要に応じて改定を行い、PDCAを回すことでより良い教育の実現を目指しております。3つのポリシーは本学ホームページに公表して

おりますので、ぜひご確認をいただきたいと存じます。

最後に、後援会の皆様からのご支援に対して心から感謝を申し上げます。今後も皆様のご意見をいただきながら、学務部の運営に努めてまいり所存です。ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

学務部長 山田芳樹

## 大学へのお問い合わせ先一覧

| 内 容  | 担当部署                 |        | 電話番号         |
|--|----------------------|--------|--------------|
| 学納金に関する事   | 業務部 財務・経理チーム         | 東キャンパス | 0568-24-0316 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-48-0201 |
| 授業、履修、単位等に関する事科目等履修生に関する事                                    | 学務部 教務チーム            | 東キャンパス | 0568-24-0321 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-24-4174 |
| 各種実習（教育実習・保育所実習など）に関する事<br>教員免許状更新講習に関する事                    | 学務部 学生支援チーム(教職担当)    | 東キャンパス | 0568-24-3010 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-24-0329 |
| 就職、インターンシップに関する事   | 学務部 学生支援チーム(就職担当)    | 東キャンパス | 0568-24-3962 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-24-0329 |
| 奨学金に関する事   | 学務部 学生支援チーム          | 東キャンパス | 0568-24-0321 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-24-4174 |
| 証明書、学割の発行に関する事   | 学務部 教務チーム<br>学生支援チーム | 東キャンパス | 0568-24-0321 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-24-4174 |
| 留学・国際交流に関する事留学生別科に関する事                                       | 広報部 国際交流チーム          |        | 0568-24-0318 |
| 入試・進学に関する事オープンキャンパス、キャンパス見学等に関する事大学HPや大学広報に関する事大学の取材、撮影に関する事 | 広報部                  |        | 0568-24-0318 |
| 演奏会、公演等に関する事   | 業務部 総務チーム(演奏担当)      |        | 0568-21-5141 |
| 作品展、展覧会等に関する事  | アート&デザインセンター         |        | 0568-24-2897 |
| 図書館の利用、貸出、返却に関する事  | 図書館                  | 東キャンパス | 0568-26-3121 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-26-1281 |
| 地域連携・産学官連携事業に関する事生涯学習に関する事                                   | 地域・社会連携部             |        | 0568-24-0359 |
| 名古屋芸術大学へのお問い合わせ  | 代表                   | 東キャンパス | 0568-24-0315 |
|  |                      | 西キャンパス | 0568-24-0325 |
| 学校法人名古屋自由学院へのお問い合わせ  | 代表                   |        | 0568-24-0311 |
| 後援会について  | 後援会事務局               |        | 0568-26-3355 |

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお答えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女・ご子息の「学籍番号」の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお答えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることが出来ませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。



## 2020年度 第24回ブライトン大学賞授与式

2020年2月26日(金)、本学西キャンパスB棟2階大講義室において、「第48回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞 第24回ブライトン大学賞授与式」を開催しました。

残念ながら、今年はブライトン大学から、審査員の先生にお越しいただくことはできません。遠隔での審査に、昨年度審査員としてお越しいただいたDr. Catrina Radvan(美術学部・ファッション&テキスタイルコース プログラムリーダー)とMr. Jeremy Radvan(美術学部イラストレーションコース上級講師)のお二人に、快くお引き受けいただくことができました。

初めての遠隔審査のため、作品をいかに審査員に届けるか、という点が課題となりました。実際の展示風景で作品の良さを伝えたい。しかし、展示1週間後には受賞式のため展示開始後に資料を収集して送付しては、審査の時間が十分に取れず審査員に多大な負担を掛けてしまいます。そのため、展示前にノミネート作品のリストと作品集のために用意された資料を送付し、卒展開始後に作品が展示された状態の写真や動画を送付しました。もちろん全てのテキストは英語にしなくてははいけません。ノミネートされた学生、推薦者の教員、A&Dセンター及び国際交流チームのスタッフ、皆が通常より多くの作業を短時間に協力して実施した結果、ブライトン賞の授賞式を迎えることができました。

審査員から「どの作品も興味深く、独創的なものばかりなので、今回も選考には苦労した」というコメントとともに受賞10作品の結果と講評を頂きました。

グランプリを受賞したのは科野里佳さんの「人間生きてるだけで偉すぎる」です。審査員からは、「現代生活における現実的で圧倒的な危機に対する、力強く寛大な回答。ユーザーを中心としたエレガントなデザインのフォーマットで、社会問題に即座に取り組んでいる。」と講評をいただきました。

受賞者の科野さんのコメントを紹介します。

「この度は立派な賞をいただき、誠にありがとうございます。本作品は制作にあたり、多くの方のご支援・ご指導を頂戴致しました。私一人では到底完成できませんでした。関わってくださった方々への感謝でいっぱいです。何が起るかわからない、予測不能な変容していくストレス社会の中で、今後は、デザインによって人や社会を幸せにする力を信じ、いただいた賞を励みに、私にできることを模索していく所存です。末尾ではございますが、本研究を導いてくださった先生方、共に制作に励んだ友人たち、勉学の機会を与えてくださった両親、データを提供してくださった皆様、関係者各位に心より感謝申し上げます。」

世界を遮断するような状況下においても、本学がブライトン大学と長年築いてきた友好と信頼関係により、実現することができた第24回ブライトン大学賞。受賞者の皆さんにも、特別な意味を持ち今後の励みになったと思います。来年度は、再びブライトン大学代表団をお迎えして、作品や皆さんと交流ができるようになる事を心から期待します。

国際交流センター 松崎 久美



グランプリを受賞した科野里佳さん、作品の前で



卒業制作展優秀賞とブライトン大学賞受賞者集合写真



| 賞                 | 領域   | コース               | 学生名   | 作品タイトル                            |
|-------------------|------|-------------------|-------|-----------------------------------|
| ブライトン大学賞<br>グランプリ | デザイン | ライフスタイルデザイン       | 科野 里佳 | 人間生きてるだけで偉すぎる                     |
| ブライトン大学賞<br>優秀賞   | デザイン | スペースデザイン          | 大谷 征司 | normal chair                      |
| ブライトン大学賞<br>奨励賞   | 美術   | 洋画                | 宇留野 圭 | triptych study of the closed room |
|                   | デザイン | スペースデザイン          | 村上 結輝 | 実芭蕉革製作所～ banana leather factory ～ |
| ブライトン大学賞<br>佳作    | 美術   | 日本画               | 安藤 祐実 | 何処へ                               |
|                   | 美術   | アートクリエイター         | 近藤みこ乃 | Tsty                              |
|                   | デザイン | ヴィジュアルデザイン        | 太田 洋哉 | Strange Distance                  |
|                   | デザイン | メディアコミュニケーションデザイン | 飯島 健輔 | EAT + MAYO                        |
|                   | デザイン | メタル&ジュエリーデザイン     | 長谷川銀星 | 園                                 |
|                   | デザイン | テキスタイルデザイン        | 道下 凧沙 | × 生き物                             |

# 国際交流事業について

## コロナ禍を乗り越えて国際交流は成長する！

世界中を覆ったコロナウィルス。日本中の大学は大混乱の中2020年度をスタートしました。授業は開講するのか、どうやって実施するのか、自宅や学内のネット環境は十分に整っているのか、学内の感染対策はどうするか…。目の前の日本にいる学生たちの苦境、誰も経験したことのない状況に、皆が疲れ切っている中「国際交流」=「Not now」という空気になっていました。しかし、国際交流センターは、海外に取り残された名芸の学生たちをケアしなければいけません。入学試験を終えて、日本での学びを楽しみにしていた新生、春休みに一時帰省していた学生たち。彼らは大学の授業が一部対面になった後も、たった一人海外で学び続け、日本が留学生を再び受け入れるようになる日を待ち続けていました。日々変わる国の対応に、私たちも留学生も翻弄される中、オンラインを活用してミーティングやメールのやりとり、日本語別科の先生の協力を得て、日本語力を持続させるための日本語講座の開講など、SDGsが掲げる理念「誰一人取り残さない」ために、学生たちとの繋がりを大事にして入国できる日を待ち続けました。徐々に入国が始まり、初めて登校する学生や久しぶりに会えた学生の顔を見て「よく頑張ったね」とスタッフ一同嬉しく思いました。まだ入国できていない学生が4月に無事新年度を迎えられるよう、また安心して異国で過ごせるよう、対策をすすめています。

「国際交流」=「Not now」が顕著なのは、国際交流センターが中心となって取り組む協定大学間の学生・教職員交流です。協定大学から学生が名芸に来て学び、また名芸の学生が海外の大学で学ぶ。学生が日常とは異なる世界に 触れて成長する機会は、大学の魅力でもあります。この交流事業は完全にストップしていつ再開できるかわかりません。本学でも2020年秋からの留学が延期になり、数人の学生が2021年秋からの留学機会を心待ちにしています。日々、ものすごい

スピードで変わる状況は、当初の私たちの予想を遙かに上回る惨事となりました。世界中の私たちの“colleagues”（国際教育の世界では、海外の同じ立場で一緒に働く協定大学の仲間を“colleagues(同僚)”と呼びあう文化があります）たちがお互いの健康や国の状況を気遣いながら、留学をしたい学生をどうにかできないか、とギリギリまで話し合っています。そして、いつかまた学生が自由に国境を行き来できる日が来ることを期待して、今できることを模索してきました。私たちが「名芸がこれまでコツコツと積み上げてきた国際交流の根を絶やすことはできない!」と思い「この逆境をチャンスに」するために思考を切り替えて、オンラインだからできること、日本にしているからできること、をベースに「国際交流の種を蒔き育てる時にしよう」と考えました。「ヴァーチャル国際交流テラス企画」を打ち出し、海外協定大学の担当者からライブで大学説明を聞く「留学フェア」や、留学のイロハを学ぶ連続セミナー「留学カフェ」、アメリカデンバーの竹内みどり総領事を初め海外で活躍する日本人の方から話を聞く「海外事情セミナー」、過去本学で学んだ交換留学生と語学交流をする「ヴァーチャル国際交流ラウンジ」など様々なオンラインイベントを開催しました。協定大学の担当者や過去の留学経験者の協力を得て他大学でも例をみない数のオンラインイベントが実現したのは、これまで本学の教職員や学生が築いてきた信頼関係があったからです。国際交流の種は長い時間をかけて成長し、実る、とその力を実感しました。今回蒔いた種が成長する頃には、海外との交流ができる世の中になること、それまで学生の皆さんの「海外に飛び立つ」夢や希望が途切れないよう、数か月後、数年後に名芸の学生が海外で学ぶ姿を想像して、国際交流センターは「逆境をチャンス」に今できるベストな事に取り組んでいます。

(国際交流センター 松崎 久美)

**ヴァーチャル国際交流テラス企画**  
2020.12.2 (WED)  
Virtual Study Abroad Fair  
海外協定大学オープンキャンパス

- 9:30~10:00 デンバー大学(アメリカ)
- 13:00~13:30 慶南大学(韓国)
- 13:30~14:00 キングモンクト大学(イギリス)
- 14:00~14:30 浙江大学(中国)
- 14:30~15:00 シーナカリン大学(タイ)
- 16:00~16:30 プレメム芸術大学(ドイツ)
- 16:30~17:00 デイジョン大学(フランス)
- 17:00~17:30 ミラノ新美術学院(イタリア)
- 17:30~18:00 UCA芸術大学(イギリス)
- 18:00~18:30 ファルマス大学(イギリス)
- 18:30~19:00 フライトン大学(イギリス)

11/11~12/16 毎週水曜日 12:15~13:00  
留学カフェも開催中!

国際交流センター  
exchange@nua.ac.jp  
0568-24-0325 <https://forms.gle/FYcMwmgaHUuLFWwC9>

**Virtual 留学cafe**  
2020.11.11~Open

- 11:00(水) 留学セミナー
- 11:15(水) 慶南大学(韓国) 留学セミナー
- 11:25(水) 留学セミナー L.Aから4人(アメリカ)
- 12:00(水) 海外協定大学オープンキャンパス
- 12:05(水) 留学セミナー(フランス)
- 12:15(水) 留学セミナー フライトン留学から大学院へ

国際交流センター事務局 exchange@nua.ac.jp

**ヴァーチャル国際交流イベント 納費開催中!**

- 10月~12月 国際交流ラウンジ
- 11月~12月 留学カフェ
- 12月2日 海外協定大学オープンキャンパス
- 1月~2月 連続セミナー

学生が一点ルで随時募集しています  
[WWW.NUA.AC.JP/PORTAL](http://WWW.NUA.AC.JP/PORTAL)  
国際交流センター事務局 exchange@nua.ac.jp

**第2回ヴァーチャル国際交流ラウンジ**  
10月29日(木)  
18:30~19:00

今開催のイロハからスベチャラゲストが参加するかもしれねえぞ!

参加ご希望の方は10/22(木)までにQRコードをスクリーンショットしてご返信ください。  
https://forms.gle/8yQdXfHmuse8066



★ Challenge to the future BORDERLESS

## 実施報告

# 後援会補助公開講座

### 芸術学部芸術学科音楽領域

名古屋芸術大学後援会からの多大なご支援、感謝いたします。

去る2021年2月9日、10日に東キャンパス3号館ホールにてミュージカル公演を行いました。今回はイギリスの作曲家・脚本家であるPaul Boyd氏の「ALICE the Musical」を取り上げ、本学非常勤講師であり劇団「第七劇場」主宰の鳴海康平先生の演出の下、現在日本のミュージカル界で一般的な形となっているダブルキャスト制や、エンタメコースをお願いして新たに製作していただいた音源に合わせて拍を刻むライト点滅装置を設置・使用する等、実際の商業ミュージカルの現場に近い環境での公演を目指し、実施いたしました。岩下佳

代先生、柘植万梨恵先生による振り付けも公演に華やかさを添え、学生たちも刺激を感じながら、かつ伸び伸びとそれぞれの役を演じており、とても充実し公演となりました。また、ご来場いただいたお客様にも大変好評をいただきました。

来年度はトニー賞やグラミー賞も獲得しているAndrew Lipka氏の作品「A Little Princess（小公女）」を取り上げ、可能であればオーケストラ伴奏での公演を目指しております。今後ともご支援ご協力の程、よろしくをお願いいたします。

ミュージカルコース 塚本伸彦

### 芸術学部芸術学科芸術教養領域

「リベラルアーツ×X」

2017(H29)年に開設された芸術教養領域の公開講座「リベラルアーツ×X(リベラルアーツかけるエックス)」も、後援会の助成のお陰様で4年目を迎えることができました。毎年の助成に感謝申し上げます。

ご承知のとおり、今年度はコロナ禍に見舞われ、形を変えて行うこととなりました。例えば、これまでお世話になってきたアートラボあいち(愛知県大津橋分室)では行えず、開催回数も2回となりました。しかし、新しい時代の始まりとして、こちらも対応を変えることとしました。

第11回目(初年度からの通番)は夏にオンラインで開催しました。メインゲストは本学美術学部アートクリエイターコースを昨年度末に卒業した中村大樹氏と東大地氏で、本学非常勤講師の林緑子氏をコメンテーターに迎えました。中村・東両氏は、アニメーション制作グループ「ACREATION(アークリエーション)」を主宰され、本学内外の協力を得て、



ACREATIONのYoutubeチャンネル動画一覧タブ

いくつものアニメーション作品を制作してきました。作品の一部はYoutubeのACREATIONチャンネルにアップロードされています。そのうちの『プロポーズ』という約5分間の作

品は本学の卒業制作展の優秀賞を受賞し、選抜展である「名古屋芸術大学展」でも出展されました。『COLORS』という約40分間の大作は、東キャンパスの多くの学生や教員、外部の人が大勢関わっています。公開講座では、この作品に協力した、蒼葉弘道さん、小久保恵さん、伊相遼さん、市川恵莉子さん、新明良太さんにもインタビューに答えて頂きました。このWEB公開講座は「教養と地域文化1」の授業の一環ともしました。

第12回目は、作家・タレントとしても幅広く活動されてきた、いとうせいこう氏と、本学非常勤講師で名古屋大学准教授の秋庭典史氏に対談して頂きました。観客数限定、座席間隔確保などの感染対策を取りながら実施しました。この時、北名古屋市民タイムズの編集長も務められている、本学非常勤講師の米田環氏による取材があり、素晴らしい原稿にして頂きました。同社WEBサイトでも公開されておりますので、ご高覧ください。幸いです。

芸術教養領域 領域主任兼教務学生生活主任 茶谷薫



リベラルアーツ×X 第12回の様子

# 人間発達学部

## オンライン文化講演会

人間発達学部では、2020年12月19日(土)、ZOOMにて、現在ドイツを拠点にバレリーナとして活躍している脇田紗也加氏を講師にお招きして、オンライン文化講演会を開催した。例年、人間発達学部は、特別公開講座と文化創造セミナーを開催しているが、今年度は新型コロナの影響により中止となった。その中で、学生や卒業生に学習の機会を提供するため、オンラインでの講演会を企画した。ZOOMを使用したオンライン講演会なので、同時接続数に上限があり、学外の方には事前に申し込みをしてもらう形をとった。講師からは、『こどもの輝く未来デザイン～21世紀だからこそ考えるべき「芸術の力」～』というタイトルで、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指す学生を念頭に、どのように学び、どのように夢を実現させていくか、芸術の効果などを絡めて話が合った。内容は以下のように要約される。

### 1 自己紹介

現在、ドイツのドルトムント・バレエ団に所属しバレリーナとして、オペラ歌劇場で踊っている。昼間はトレーニングを毎日8時間、夜は劇場か、ハーバード大学の授業を通信で勉強している。6歳でバレエを始め、12歳の時に地元のバレエ大会で決勝に進んだことをきっかけに、海外でバレエを学ぶことを決意した。

### 2 世界の教育システム

カナダのバレエ学校ではロシア語で授業を受け、ベルギーのバレエ学校ではオランダ語で授業を受けた。卒業後日本で、アメリカの通信制の高校を卒業し、ドイツのバレエ団に所属し、ハーバード大学の通信教育を受けている。様々な国での教育を受け、日本の教育との違いが見えてきた。

### 3 教育それぞれの良さ

日本の教育の良さには、教育制度がある。日本では小中学校の9年間、誰でも学校で勉強できる。また、高いリテラシーや子供たちが自立していることも指摘できる。海外で体験した、日本に取り入れて欲しい教育方法は6つ。1. 間違え探しの授業。資料を読んで、間違いや改善点を指摘するレポートを書く授業。2. アクティブな学び。自分の意見を言う、議論を中心とする授業。3. 机に向かわない勉強。課題を解決する方法をチームで議論し、野外で実践する。4. インプットをし

たらすぐにアウトプット。学んだ知識をすぐに実践する。5. 拡散的思考 VS 収束的思考。とにかくアイデアを多く出し、それらを論理的に情報整理する。6. 自己啓発思考。ポジティブシンキング。壁にぶち当たった時、どう壁を乗り越えるか考える。7人いれば7通りの方法があつていい。

### 4 芸術の力

なぜアートが必要なのでしょうか。OECDの「芸術は芸術のためのものなの?」という資料を基に国ごと芸術教育の比較を行った。芸術には様々な効果があるといわれている。音楽は成績・IQ・言語力、演劇は読解力・言語能力、絵画は幾何学、ダンスは空間認識能力をアップする効果がある。そして芸術が持つ重要な面は、学ぶ意欲を向上させることである。世間の目を気にする必要はない、自分のしたい事に情熱を持って取り組んで欲しい。

以上のように、5か国での学習体験を基に、具体的な授業の様子について豊かに楽しく、講師には話していただいた。学びたいという熱意があれば、国も言語も超えて学び、自分を成長させることができると、確信させてくれる講演会だった。学生からも熱心な質問があり、感想でもとても刺激になったという、前向きなものが多く見られ、非常に有意義な講演会となった。

人間発達学部 准教授 東條文治

名古屋芸術大学 人間発達学部オンライン文化講演会 2020

## こどもの輝く未来デザイン ～21世紀だからこそ考えるべき「芸術の力」～



講師メッセージ

コンピュータ技術は日進月歩しており、これからどんどん私達の生活にテクノロジーが溢れていきます。そんな中で次世代の子供が輝ける未来を形成していくにはどんな教育が必要とされていくのか?芸術だからこそ培われる感性や想像力の豊かさ、また、イノベーションの起こし方、形に因りれない教育法をどう次世代に伝えていくかを一緒に考えます。「出る杭は打たれる」の社会はそろそろ止めて、日本の子供の才能を最大限に生かし、新しいミラクルを一緒に起こしてみませんか。

講師: バレリーナ 脇田紗也加氏

講師プロフィール 脇田紗也加 (おきたさやか) Sayaka Wakita  
愛知県生まれ。名古屋芸術大学で学び、13歳でカナダへ留学。5ヶ国の教育システムを得ると同時にロシア、トルコ、アルメニアやカザフスタンなど20ヶ国以上で踊る。現在はドイツを拠点にバレリーナとして活動すると同時にハーバード大学でビジネス学を学んでいる。

日時 | 2020.12.19 ± 10:00～12:00

方法 | ZOOM を使用したオンライン講演会

定員 | 200人 (先着順)

対象 | 愛知県内及び近県の教育・保育関係者、卒業生など

## 親の想い

## 「自分を大切にしたい」

芸術学部 芸術学科 音楽領域

声乐コース 4年生 母 酒井伊紀

小さな頃から、音楽に触れて大きくなった娘。

高校生になり、大学に通う頃には、自分の選んだ道に向かって邁進するようになりましたが、たまに口を開けば、大学での不安や不満。将来は音楽の教師にと夢を抱いて進学したが、この学科は必須と言われ教員取得の授業と重なり、1年生の時点で夢は砕かれ、2年生になると次第に自分の限界が見えてきて、教授との折り合いも悪くなり、同門下の先輩方に服装、私生活まで干渉される羽目に。

音楽がキライにならない為に大学を中退すると言う娘を説得し、学校側に相談、何とか進級にこぎつけ3年生、4年生になり、今まで頑張ってきた結果を出すぞと張り切っていたのも束の間、コロナ禍で思うようにレッスンが受けられず、学友との交流もままならない今日この頃、悩んだり困った時は、一歩踏み留まり、考えて行動してネ。

大切な時間を過ごした大学での想いを糧に素敵な大人になって下さい。



## 「学生から社会人へ」

美術学部 美術学科 洋画コース 2019年度卒業生

父 山内正春



高校時代、人との会話が苦手な娘が一番好きなことは、絵を描くことであった。芸術系大学をいくつか見学し、自分で名芸進学を決めた。学費は私が、画材は自分でバイトして購入する、というのが約束であった。私は後援会のお手伝いをしながら、影ながら娘を応援してきた。周りの学生の素晴らしい作品を観ると、彼女はどれだけ自信を持っているのだろうか？と不安になることも多かったが、彼女の隠れた力を信じた4年間だった。

夏休みに学内の講座より、EXCELとWORDの資格を獲得。学生の就職活動にも積極的に門戸を開く機会を与えてくださった大学の配慮に感謝している。卒業式の朝、堂々とした袴姿の娘を見ても、正直まだ不安な私であった。しかし社会人となった娘は、私の不安を吹き飛ばし、毎日生き生きと働いている。バイトの経験を生かして、選んだ仕事は接客販売業である。娘が話してくれる毎日の出来事や仕事、研修の成果の中には、親として誇らしい報告もある。社会で働く先輩として、彼女の成長を今後も見守っていきたく思っている。

## 「自分が納得のいく人生を」

芸術学部 芸術学科 音楽領域

音楽総合コース 2年 母 小池真紀子

地元の吹奏楽団に入っていた両親に連れられ、息子は生後3ヶ月頃から、ベビーカーで週一回の練習に参加していた。

当時、楽団の指揮・指導をしていたのは、名古屋芸術大学在学のお兄さんだった。

その後、指導者は変わっていくが、現在も卒業生の方で、子供に声をかけてくださる。

名古屋芸術大学は子供の頃から身近にあったのだと思う。進路について考える時、楽器を演奏していきたい、という思いが強く、このコースを選んだ。

多くの方々と出会い、世界が広がったのではないかと思う。

芸大は一般の大学と少し違う。たぶん息子は、普通の就職活動はせず、社会に出ていくのだろうと思う。

音楽で生きていくことは厳しい。新型コロナにより、さらに活動が難しくなっている。

この先、どのような選択をしていくのだろう…。

なにが待っているか分からないが、自分を大切に勇往邁進してほしいと願っている。



## 「娘の就職活動」

芸術学部 芸術学科 デザイン領域

メディアコミュニケーションデザインコース 4年 母 小嶋史子

「お父さんとお母さんは私に何の仕事をして欲しい？」娘がそう聞いてきたのは、3年生の2月頃でした。大学4年間デザインを勉強



させてもらってデザイン以外の仕事をするのは、認めてもらえないと思っていたようでしたが、私たち親はやりたい事であれば、デザインに携わる仕事でなくてもいい、どのような職業でも応援すると伝えたところ、娘は販売の仕事が合っている、アルバイトをしているスーパーマーケットでのお客様とのふれあいにやりがいを感じていると話し、まずは販売職を目標に就職活動を始めました。

今年度は新型コロナ感染拡大で求人が激減し、リーマンショックを超える厳しい状況下でしたが、面接には自己アピールとしてポートフォリオを持参して臨み、販売職の内定を頂く事が出来ました。

前年の売り手市場からの大変な就職活動だったとは思いますが、その経験は困難を乗り越えた自信となった事でしょう。今後も親として、娘を応援していきたいと思えます。

# 子の想い

## ぼくは今日もどこかで踊っている。

芸術学部 芸術学科 音楽領域  
ダンスパフォーマンスコース 2年生 鈴木健斗



ぼくの特技は「踊ること」です。踊ることを生業にしたいと名古屋芸術大学ダンスパフォーマンスコースで学び、一期生として入学後2年が経とうとしています。今では自コースだけでなく他コースの仲間にも恵まれ、ますます踊ることが楽しくなっています。1年生の時には、声優アクティグコース1年生修了公演のオープニングの振り付けを担当しました。

HIPHOP ダンスを幼いころから踊っていたぼくが、大学1年生でミュージカル出演が叶ったのは、大学で様々な角度からダンスを学んでいることが生かされたからです。入学前はぼくがミュージカルに出演し、歌いながら踊ることなんて想像していませんでした。学生の身でありながら毎週、ダンススタジオで子どもたちにHIPHOPダンスを教える機会も得ています。

踊ることが、いま自分の「武器」となって毎日が充実しています。

さて、今から踊っている姿をインスタにUPしてきます！



## 『エンターテインメント』にスタッフとして向き合う4年間を経て

芸術学部 芸術学科 音楽領域  
エンターテインメントディレクションコース 4年生 小林里奈



4年前私は舞台芸術を創るスタッフになりたいとエンタメコースに入学しました。

エンタメコースでは現場で学ぶ演習を大切に舞台の多くのことを実践で学んでいます。

『お客様が満足する為に、出演者の方が最高の表現ができるように』と誰かの為に常に働くことや、多くの人が関わる舞台で多くの人と円滑なコミュニケーションをとる大切さを現場で学びました。

スタッフとして舞台上で叶えたい理想と現実と悩まされる日々もありましたが、学内の沢山の才能を持つ人に触れ、その人が自分たちの手で輝く姿や舞台袖で聞く大きな拍手には何にも替え難い達成感を感じることができました。また、コースの枠を超えて、様々なコースの学内公演にスタッフとして参加させて頂き、多くの先生方や学生の方と交流し、学びを得ることが何よりも楽しいと感じる瞬間です。

4年間新たなエンタメを模索する私達に自由に試行させて頂いた先生方には大変感謝しております。次は社会人として、エンタメを通して多くの感動を発信していきます。

## オンライン

芸術学部 芸術学科 音楽領域  
エンターテインメントディレクションコース 3年生 森文乃

名芸に入学して三年生が過ぎようとしています。今年は大変な年になりました。

これは、私だけの事ではないですが、授業もなかなか対面で受ける事が出来ず、友達と会う事もままならない時期がありました。今は対面とオンラインで、受ける事が出来る様になりました。今年、三味線を施設実習で受けていますが、オンライン授業の時は楽器も手元になかったのですが、なかなかでしたが対面になってから「あ〜」納得という感じでした、やっぱり対面、授業はいいなぁと思いました。

オンラインと言えば、今年は、インターンシップもオンラインでした。私の予定では、夏休みには、多数の企業さんのインターンシップに参加出来る事を楽しみにしていましたが、コロナの為オンラインでの参加になりました。

家での参加は、何とも言えない感じでした。

とっても残念な思いでいっぱいですが、気持ちを切り替え、来年に、希望を持って行きたいと思っています。



## 「感謝」

芸術学部 芸術学科 美術領域  
アートクリエイターコース 1年 柳沼至

私は、ガラス工芸を中心とした広い範囲の芸術を学んでいきたいと考え、この大学に進学しました。私は、高校の頃から美術に触れて来ました。ですが、基本的にはデザインやデッサンといった平面的なものが多く、立体的な分野にはあまり関わって来ませんでした。だからこそ、この大学ではガラスや



陶芸といった立体的な分野にも関わりつつ平面的な美術の勉強もしたいと考えています。また、ガラスや陶芸といった立体作品と平面作品の魅力を融合させた新しい作品を作りたいとも思います。高校だけでなく、この大学でも芸術という人の心を豊かにする素晴らしい文化に触れさせてくれる、応援してくれる両親に感謝しています。そういった気持ちや、想いを作品という形で残していきたいです。

## 名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域 第48回卒業演奏会

2021年3月4日(木)第48回卒業演奏会がしらかわホールにて行われました。昨年度(47回)はコロナ感染症の事もあり演奏会自体が中止になりましたが、今年度は感染症対策を万全に行う事で、何とか演奏会を開催するに至りました。

今回は8名(声楽1名、ピアノ2名、電子オルガン2名、弦管打3名)の学生が演奏を披露しましたが、どの学生も初々しく若さ溢れる演奏で、会場に駆けつけた観客からは盛大な拍手が送られていました。

## 名古屋芸術大学 大学院音楽研究科 第23回修了演奏会

2021年2月25日(木)第23回大学院修了演奏会がしらかわホールにて行われました。昨年度(22回)はコロナ感染症の事もあり演奏会自体が中止になりましたが、今年度は感染症対策を万全に行う事で、何とか演奏会を開催するに至りました。

今回は4名(ピアノ3名、バイオリン1名)の学生が演奏を披露しましたが、大学院生に相応しい緻密で円熟した演奏で、会場からはあたたかい拍手が送られていました。

## 名古屋芸術大学芸術学部芸術学科美術領域・デザイン領域 第48回卒業制作展

第48回名古屋芸術大学卒業・修了制作展を2021年2月19日(金)～28日(日)の10日間の日程で、本学西キャンパスを会場に開催致しました。コロナ禍による非常事態宣言下での開催となり、来学者の動向を不安視致しましたが、最終的には、昨年比約2000人増の4741人という想定を超える来学者をキャンパスにお迎えすることができました。後援会からは本年度から新たに後援会賞をご設定頂き、4名がその栄誉を手にする事ができました。菊井会長をはじめ審査にあられました役職の皆様方には、この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

さて、今年度も昨年同様、コロナ対策として学生と来学者の安全・安心を第一とした取組が求められ、全ての展示会場での手指消毒剤の設置はもとより、入場ゲートの一本化による非接触による受付、検温及び入場者情報の把握、各値しでの密状態の回避策を徹底致しました。また感染状況の悪化による万一の場合に備え、WEB上で仮想のキャンパス内を自由に歩き回り作品鑑賞ができる「WEB卒展」も同時開催し多くの皆様から好評を頂きました。(5月初旬まで公開予定)

こうして常にはない状況下での開催ではありましたが、展示作品にはキャンパスのさまざまな環境要件を積極的に活用し、強い存在感や豊かな表現を実現した作品も数多く見られ、4回目を数えるキャンパス開催の手応えを感じることができました。また何より、全面遠隔授業に始まったこの1年、あらゆる面で制作・研究活動が制限される中、この停滞状況を各々のプランや表現にじっくりと向き合う「熟成」の時間として活かされたであろう力作がどの領域・コースにも見ることができたことに、改めて本学学生の創造への強い覚悟を感じました。

感染リスクを避けるため、関連企画のオープングレセプション、キッズスペースなどの見送り、縮小がりましたが、コロナ禍収束の暁には、今回益々好評を得たアートフェアはじめ、市民デー、音楽演奏企画等の関連企画をより充実させ、学生が作品に託した熱量や思いを1人でも多くの方々に届けたいという思いを新たにしました。



入場ゲート：  
COVID-19 感染予防のため、非接触で検温・手指消毒・個人情報把握の上入場できるよう設置



最優秀賞 他4賞受賞作／洋画：宇留野 圭 U棟の屋外展示／デザイン：川合 由美

## 名古屋芸術大学 大学院美術研究科 第25回修了制作展

今年度、コロナ禍でなかなか思う様に制作に集中できない状況の中、美術研究科7名はそれぞれ研究、制作に励んできました。まず修了制作展に先立ち2月10日に催された大学院 論文等審査試験に、2年間の大学院で研究制作した自己研鑽の研究成果について、研究科担当教員や学生を前に発表し、続いて2月19日から2月28日までの10日間にわたって行われた「大学院研究科修了制作展」において、それぞれの力作を出展しました。今年度の院生たちは個性豊かでまったく違うタイプの仕事をしており、ADセンターを中心に学内施設を使用したその研究内容は非常にバラエティに富んでおり、とても興味深いものとなりました。また展示期間中は昨年以上に多くの方に来ていただき、直接感想やアドバイスをいただくことも多く、この経験は修了後の創作活動に大いに役立つはずで、今後彼らがどのように活躍の場を広げていくのか非常に楽しみであり、これからもしっかり注目し応援していきたい。



学内制作スペース展示会場（伊藤みのり作品）



ADセンター展示会場（根本麟一郎作品）

## 名古屋芸術大学 大学院デザイン研究科 修了制作展

今年度も学内で開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生9名が出展した。ヴィジュアルデザイン研究の王鳴成さんは、ナイロン糸を素材として線という二次元に奥行きを与える独自のグラフィックの手法に取り組んだ。曹安琪さんは、山手線の駅のシンボルマークを地名や歴史などをリサーチし音楽も加え複合的な表現とした。曹独清さんはサブカルチャーへの興味からコスプレする女子3人にインタビューを重ね、写真でリアルに切り取るような作品を制作した。劉佳馨さんはユーモラスな表現で人の悩みを軽く明るく癒すようなイラストを作成した。クラフトデザイン研究の小島聡一郎さんは布をエアブラシで染めるという技法で人の皮膚感覚を表出させる作品に取り組んだ。メディアデザイン研究の張潤さんは、人の知覚を拡張するようなインタラクティブな作品を制作した。3Dデザイン研究の晏新程さんは、レスキュー隊のための新しいモビリティを提案した。潘煜さんは高齢者が積極的に外出活動を行うためのモビリティを提案した。ライフスタイルデザイン研究の王俊人さんは生活の痕跡をテーマにリサーチし記録するインタラクティブ空間デザインを制作した。

コロナ禍ではあったが、名古屋芸大での院生としての貴重な2年間に彼ら自身が研鑽した成果を、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展覧会であった。今後の活躍を期待している。





# 皆さん受賞おめでとうございます

2020年度の本学在学学生（学部及び大学院生）や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。学外のイベントでの受賞者については、本人及び教員を通じて広報部に報告があった内容を掲載しています。

## 芸術学部 音楽領域

| 日付              | イベント名           | 主催                   | 順位、受賞など   | 楽器など | 学年・卒業期                         | 氏名   |
|-----------------|-----------------|----------------------|---|------|--------------------------------|------|
| 2020年           |                 |                      |   |      |                                |      |
| 10月9日<br>10月12日 | 第21回大阪国際音楽コンクール | 大阪国際音楽振興会            | Section I: ピアノ部門<br>Age-U 第1位<br>日本室内楽ピアノコンクール賞 | ピアノ  | 音楽研究科<br>器楽専攻<br>ピアノ演奏研究<br>2年 | 豊田 萌 |
| 9月26日           | 全日本ピアノコンクール     | 全日本ピアノコンクール<br>実行委員会 | E級: 大学生部門 4位                                    | ピアノ  | 音楽研究科<br>器楽専攻<br>ピアノ演奏研究<br>2年 | 豊田 萌 |

## 芸術学部 美術領域

| 日付                    | イベント名                    | 主催               | 順位、受賞など    | 学年・卒業期 | コース                  | 氏名    |
|-----------------------|--------------------------|------------------|------------|--------|----------------------|-------|
| 2020年                 |                          |                  |            |        |                      |       |
| 11月10日<br>～<br>11月23日 | 第15回CBC翔け！<br>二十歳の記憶展    | CBCテレビ           | グランプリ      | 4年     | 美術領域<br>アートクリエイターコース | 小栗みずき |
|                       |                          |                  | 15回記念賞     | 4年     | 美術領域<br>日本画コース       | 安藤 祐実 |
|                       |                          |                  | CBC賞       | 4年     | 美術領域<br>アートクリエイターコース | 森田和歌奈 |
|                       |                          |                  | 名古屋市教育委員会賞 | 4年     | 美術領域<br>洋画コース        | 高島 朋子 |
|                       |                          |                  | 審査員特別賞     | 4年     | 美術領域<br>アートクリエイターコース | 林 和奏  |
| 12月3日                 | 住宅侵入と交通事故防止を訴えるポスターコンクール | 愛知県警察<br>西枇杷島警察署 | 最優秀賞       | 1年     | 美術領域<br>アートクリエイターコース | 森崎 萌黄 |

## 芸術学部 デザイン領域

| 日付     | イベント名                    | 主催               | 順位、受賞など | 学年・卒業期 | コース                                | 氏名    |
|--------|--------------------------|------------------|---------|--------|------------------------------------|-------|
| 2020年  |                          |                  |         |        |                                    |       |
| 7月1日   | 月刊ブレーン 2020年8月号          | 宣伝会議             | 雑誌内掲載   | 4年     | デザイン領域<br>メディアコミュニケーション<br>デザインコース | 米村 明莉 |
| 12月3日  | 住宅侵入と交通事故防止を訴えるポスターコンクール | 愛知県警察<br>西枇杷島警察署 | 最優秀賞    | 2年     | デザイン領域<br>ライフスタイルデザインコース           | 山田 彩乃 |
| 12月12日 | 2019年度第68回朝日広告賞          | 朝日新聞社            | 小型広告賞   | 4年     | デザイン領域<br>ヴィジュアルデザインコース            | 西川 真衣 |



# 名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
  - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
  - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生(大学院生を含む)の保護者または、これに代わる者及び理事会が認めた本学卒業生の保護者、並びに本会の趣旨に賛同する企業または事業主等(以下、「賛助会員」という。)をもって組織する。
- 第5条 本会に役員及び理事をおく。
- 1 役員は、次の各号に掲げる者とする。
    - (1) 会長1名
    - (2) 副会長4名
    - (3) 監事1名
    - (4) 会計監査2名
    - (5) 書記1名
    - (6) 会計1名
  - 2 本会に理事若干名を置く。
- 第6条 本会の役員及び理事の選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
  - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
  - (3) 役員の内任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 2 理事の選出は、理事会において会員の中から選出する。
- (1) 理事の内任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の内職務は次のとおりとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
  - (2) 監事は会務を監査する。
  - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、理事会とし、議長はその都度選出する。

- 第9条 定期総会は原則として年1回、会長が召集する。必要と認められた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関する事。
  - (2) 会則の改定、会の解散に関する事。
  - (3) 役員の内選出、その他役員が必要と認められた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した過半数をもって議決する。
- 第12条 理事会は出席役員・理事で成立し、会長が召集、議事は出席役員・理事の過半数で議決する。理事会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。また、必要に応じて理事会の承認を得て新たに委員会を設置することができる。
- (1) 総務委員会
  - (2) 事業委員会
  - (3) 広報委員会
- 第14条 委員会に委員長1名、副委員長2名以内および委員若干名をおく。委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は理事のうちから理事会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降大学院生までは年額10,000円とする。賛助会員の会費は別途定める。
- 第17条 本会の会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、理事会の議を経て会長が定める。
- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
  - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
  - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
  - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
  - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。
  - 6 本改正会則は令和2年7月5日から実施する。

## 後援会表彰規程(抜粋)

- (目的)
- 第2条 この規程は、後援会表彰を公正かつ円滑に行うとともに、後援会員(顧問含む)、学生、教職員の功績をたたえることで、後援会活動に対する意欲向上、士気の高揚および後援会事業の改革・発展を促すことを目的とする。
- (選考基準)
- 第4条 後援会員、学生または教職員の個人あるいはグループが次の各号の一つに該当するときは、これを表彰する。
- (1) 後援会活動に誠実で、特に他の会員の模範となるとき
  - (2) 永年にわたり後援会活動への貢献が顕著なとき
  - (3) 学業成績が著しく優れ、または各種コンテストで上位入賞したとき
  - (4) 国家的・社会的功績があり、後援会および大学の名誉となるような行為があったとき
  - (5) その他前各号に準ずる行為または功績があり表彰すべきであると認められた場合(以下省略)
- 附則: この規程は令和2年7月5日から実施する。

## 後援会旅費規程(抜粋)

- (目的)
- 第1条 本規程は、名古屋芸術大学後援会の役員、理事および会員の用務出張に要する旅費に関する事項を定める。
- (旅費の種類)
- 第2条 旅費の種類は、鉄道賃、車賃、船賃、航空賃、日当および宿泊料とする。
- (旅費の経路と計算)
- 第3条 旅費は自宅または名古屋芸術大学を基点とし、一般的な最短経路によって計算する。ただし、用務の都合または天災その他やむを得ない理由で順路を経由し難い場合には、現に経過した路線によって計算する。(以下省略)
- 附則
- この規程は、令和2年7月5日から施行する。

## 名古屋芸術大学後援会 弔慰に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金10,000円を給付する。
  2. 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金10,000円を給付する。
  3. 役員および理事の2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として10,000円を給付する。
  4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
  5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会に事後報告する。
- 附則1. この内規は慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。
- 附則2. この改正内規は、平成18年6月1日より施行する。
- 附則3. この改正内規は、令和2年7月5日より施行する。

## 名古屋芸術大学後援会 顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学後援会の顧問は、原則として、理事会の承認に基づき会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
  2. 顧問の内任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
  3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会の承認を得るものとする。
- 附則: この内規は平成17年4月1日から適用する。
- 附則: 本改正内規は令和2年7月5日から適用する。

## 「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学後援会の有志により「みんなで歌を歌って楽しもう」と21年前から活動している合唱サークルです。美術部の絵画サークル「壁の華」より数年後に始まりました。今では、両方の会員になって活動している方もいます。

「せせらぎ」とは、小川の流れや音です。合唱は一人の声は小さく弱いのですが、仲間の声を聞き、合わせると素晴らしいハーモニーが出来ます。心が楽しく、気持ちが浮き立ってきます。皆様も聞き覚えのある「見上げてごらん夜の星を」(歌・坂本九)を江端先生の編曲で15名位の団員で歌っています。発声練習をして「夏の思い出」や「夏は来ぬ」を二部合唱で歌ったりしています。月1回の練習で日程がとれない時もありますが、仲間の声に助けられて皆で頑張っています。

昨年は名芸祭にも参加しました。声を出すことで、健康と楽しさを実感できるこのサークルへ、是非とも加わってください。お待ちしております。

今年は、新型コロナウィルスの感染の影響で練習が再開できませんが、みなさんと一緒に楽しく練習できることを願っています。



### 【練習日】

毎月第3土曜日の午後1時から2時30分までの1時間30分

### 【場所】

東キャンパス4号館の3階のオペラ教室か部屋の都合で3号館の多目的教室になることがあります

### 【指導者】

本校の卒業生である山田正文先生と江端智哉先生により、発声の仕方から各パートの音取りを懇切丁寧に教えて戴いています。

### 問い合わせ先

会長 長江 政則

〒480-1214 瀬戸市上品野町927番地

電話 0561-41-1655 携帯 080-3621-7706

副会長 千石 智子

〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6

電話 0561-53-4222 携帯 090-8469-4324

## 絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、名古屋芸術大学後援会の有志によって活動を続けている絵画グループであります。毎月一回大学の施設をお借りして大学の先生により丁寧な指導をして頂いております。油彩、水彩、日本画を中心に、昨年からは水墨画についても教えて頂けます。そして、制作された作品を名古屋市民ギャラリーに展示して、皆様に鑑賞して頂いております。今年で第27回目の展覧会を、開催しております。

この他にスケッチ会、鑑賞会等も あります。最近、若い会員の方に入会していただき、益々賑やかなグループとなりました。

是非、後援会の皆様も「壁の華」の会に入会して頂き、絵画の制作をお楽しみ下さい。



### 【活動状況】

- 1、月例会 (月額会費：1,000円)  
日時：毎月第3日曜日午後2時～4時  
場所：名芸大西キャンパス 講義室
- 2、グループ展 (27回継続中)  
日時：毎年5月上旬(一週間展示)  
場所：名古屋市民ギャラリー 7F
- 3、スケッチ会 11月を予定
- 4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

### 問い合わせ先

会長 宇佐見 誠也

〒489-0874 瀬戸市幡野町508

電話 0561-21-4567 携帯 090-7305-8205

運営委員長 森部 みや子

〒492-8075 稲沢市下津町西下町58

電話 0587-32-2814 携帯 090-1825-1671

●発行日 令和3年(2021年)3月31日

●発行人 菊井 政右衛門

●編集 名古屋芸術大学後援会広報委員会  
(酒井伊紀・江上友加里・石黒和広・橋本博文・小林幹尚)

●発行所 名古屋芸術大学後援会

〒481-8503

愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地

名古屋芸術大学(東キャンパス)12号館6階

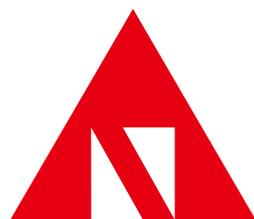
tel: 0568-26-3355 fax: 0568-26-2101

e-mail: kouenkai@nua.ac.jp

●印刷所 有限会社 住吉孔版社

(無断転載禁止)

本誌掲載の記事(表紙、本文、図表、写真、イラスト等)を本会及び著作権者の承諾なしに無断で転載(翻訳、複写、データベースへの入力、インターネットでの掲載等)することを禁じます。



NAGOYA UNIVERSITY  
OF THE ARTS

Challenge to the future  
**BORDERLESS**

名古屋芸術大学後援会会報

名古屋芸術大学後援会事務局

〒481-8503

愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地

TEL.0568-26-3355

FAX.0568-26-2101

E-mail:kouenkai@nua.ac.jp

【編集後記】

今年度はコロナに始まり、コロナで終わる1年となりました。世界中が経験した事のない未曾有の事態となり、都市封鎖が起こり、仕事、旅行、外食、買い物ストップ。今までの普通がそうでないことを知り、学校に行けなくなり、テレワークが始まり、PC関連に疎い我々にはとても大変な時期を迎えました。

その様な中で、6月にはオンライン授業、7月中旬には一部対面授業も始まり、後期授業では7割近くが対面での授業に回復しました。然し世の中は経済回復に至っておらず、就職氷河期に突入、卒業後の進路も決まっていない子を持つ親御さんに後援会として何が出来るか?模索しながら就活支援特別委員を選任し、学校のキャリアセンターと連携し、情報発信していきました。これからも大学と保護者の方との懸け橋になれるよう常にアンテナを張り巡らし、情報提供してまいります。

今回、原稿を投稿していただいた皆様、ご協力有難うございました。今後も後援会活動にご理解、ご協力の程宜しくお願い致します。

名古屋芸術大学後援会副会長（広報委員長） 酒井 伊紀